第１回マスターズゲ－ムズ出場の日本選手団
１９８５．８．トロント・カナダ"ホリディーイン" にて

前より２列目中央黒服が小山会長，その左（向って）が金メダル７ケの寺尾氏。前列右より３人目白服が大崎剛彦氏。

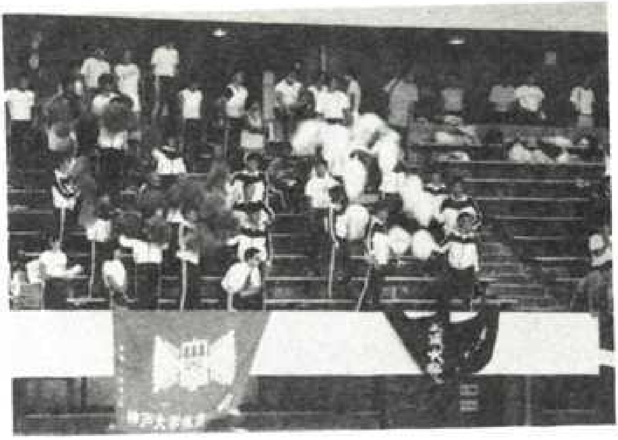
阪神地区懇親会　昭60.5.19　於. 神戸「KUC」

後列左より　田中，金，長谷川，太田，酒井，山野
中列　〃　橋本，佐藤，石井，冨岡，以西
前列　〃　吉野，葉室鐵夫氏，小山，古賀，三宅

阪神地区忘年会　昭60.12.3.　於. 大阪「虎連坊」

後列左より　岡村，井上，久保，松田，酒井，山野，杉野
中列　〃　榊原，堂本，冨岡，岡田
前列　〃　石井，前田，吉野，山越，小西，中井

関西インカレ100 m自由型スタート前の一瞬
S 6 0.8.1　大阪プール
（ 8 コース　浜田 ）



‘GO’ 全国国公立戦にて
S 6 0.8.1 5　名古屋瑞穂プール

全国国公立戦　閉会式
S 6 0.8.1 5　名古屋瑞穂プール

合宿にて（1，2，3回生）　　S 60.6.15　六甲台プール

前列左より　加地，山口，村上，川上，林
2列目左より　坂東（OB），井口，高元，三住，植原，前田（甲南大），木村
3列目左より　竹本，坂田，中塚，守沖，甲野，徳永，後呂
最後列左より　有利，原田，中川，田中，日比，郡，安井，浜田，三好，鈴木，吉岡，近藤，木下，島崎，植松，黒田

ユニバーシアード神戸大会記録

◎世界新　▽大会新　●日本新

水泳

◇…男子…◇

【100m自由形】 (秒)
①ビオンディ(米国) ◎49.14
②キャロン(フランス) ▽49.97
③マッカダン(米国) 50.63
★予選で落選
国代竜一(慶大) 53.69
田代幸雄(拓殖短大) 53.74

【200m自由形】 (分.秒)
①ビオンディ(米国) ▽1.49.52
②キャロン(フランス) ▽1.49.78
③ゲリー(チェコ) ▽1.50.98
★予選で落選
奥野景介(早大) 1.56.20
大隅卓也(明大) 1.58.52

【400m自由形】 (分.秒)
①レンバーグ(豪州) 3.52.45
②ミッカネン(米国) 3.53.24
③ファールナー(西ドイツ) 3.54.17
★予選で落選
野口智博(日大) 4.07.59
冨井弘之(同大) 4.10.63

【1500m自由形】 (分.秒)
①ムロースキー(米国) 15.20.13
②オブライエン(米国) 15.20.45
③デ　イ(英国) 15.31.93
★予選で落選
冨井弘之(同大) 16.27.22
野口智博(日大) 16.55.75

【100m平泳ぎ】 (分.秒)
①モフェット(米国) ▽1.02.88
②ミネルビニ(イタリア) ▽1.03.38
③クリメンチェフ(ソ連) ▽1.03.94
★9—16位レース
⑫松田成利(早大) 1.06.31
★予選で落選
斎藤彰俊(中京大) 1.07.16

【200m平泳ぎ】 (分.秒)
①モフェット(米国) 2.18.83
②ヨコチ(ポルトガル) 2.18.92
③クズミン(ソ連) 2.19.81
⑥松田成利(早大) 2.21.76
★予選で落選
斎藤彰俊(中京大) 2.30.16

【100mバタフライ】 (秒)
①シーベン(豪州) ▽53.97
②ビオンディ(米国) ▽54.03
③グロス(西ドイツ) ▽54.16
★9—16位レース
⑫佐藤友秋(明大) 56.43
★予選で落選
佐藤浩忠(早大) 56.98

【200mバタフライ】 (分.秒)
①グロス(西ドイツ) ▽1.57.88
②モース(ニュージーランド) ▽1.58.94
③リーブズ(米国) ▽2.00.03
★9—16位レース
⑯平田政一(拓殖短大) 2.03.06
⑪佐藤友秋(明大) 2.03.78

【100m背泳ぎ】 (秒)
①ポリャンスキー(ソ連) ▽56.26
②ローデンボー(米国) 56.99
③ザボロトノフ(ソ連) 57.04
④鈴木大地(順天大) ●57.47
★9—16位レース
⑨本田和勲(日大) 59.02

【200m背泳ぎ】 (分.秒)
①ポリャンスキー(ソ連) ▽1.59.76
②マーフィー(カナダ) 2.02.69
③ウェスト(カナダ) 2.03.14
⑤鈴木大地(順天大) 2.04.92
★9—16位レース
⑪本田和勲(日大) 2.07.49

【200m個人メドレー】 (分.秒)
①リーブズ(米国) 2.03.50
②ディロン(米国) 2.04.65
③ブラド(ブラジル) 2.04.92
⑥松田成利(早大) ●2.06.94
★9—16位レース
⑬大畠慶一(同大) 2.10.93

【400m個人メドレー】 (分.秒)
①ブラド(ブラジル) 4.19.83
②ウッドハウス(豪州) 4.20.76
③ブライアー(米国) 4.23.91
★9—16位レース
⑨大畠慶一(同大) 4.35.52
⑫藤原靖久(日大) 4.42.07

【400mリレー】 (分.秒)
①米　国 ▽3.20.12
②西ドイツ 3.22.70
③ソ　連 3.23.76
⑥日　本 ●3.31.85

【800mリレー】 (分.秒)
①米　国 ▽7.20.34
②西ドイツ ▽7.22.43
③カナダ 7.30.81
★予選で落選
日　本 7.45.87

【400mメドレーリレー】 (分.秒)
①米　国 ▽3.42.99
②ソ　連 3.46.33
③西ドイツ 3.47.71
⑥日　本 3.52.33

【飛び込み団体】 (点)
①米　国 2399.43
②中　国 2312.16
③ソ　連 2165.19
⑥日　本 1959.57

【板飛び込み】 (点)
①譚良徳(中国) 660.51
②ラミレス(キューバ) 630.12
③ブラッドショー(米国) 628.50
★予選で落選
山下　出(日大) 492.24
清水国重(天理大) 490.02
山岸　勲(日大) 469.96

【高飛び込み】 (点)
①童　輝(中国) 647.97
②ワトソン(米国) 606.12
③楊　成(中国) 601.53
⑥山岸　勲(日大) 527.55
⑩中島勝司(奈良県文化事業団) 514.20
★予選で落選
小笠原崇雄(日体大) 462.24

◇…女子…◇

【100m自由形】 (秒)
①ファンベンタム(オランダ) ▽55.87
②ジョンソン(米国) ▽56.29
③コーフィン(米国) 57.71
★予選で落選
田代美奈子(天理大) 1.00.47
高橋真紀子(山梨県庁) 1.00.82

【200m自由形】 (分.秒)
①ファンベンタム(オランダ) ▽2.00.34
②マーハ(米国) ▽2.01.64
③ピアソン(豪州) 2.02.25
★9—16位レース
⑪高橋真紀子(山梨県庁) 2.10.93
⑬相羽江美(青学大) 2.12.99

【400m自由形】 (分.秒)
①サーボ(米国) 4.16.23
②オロス(ハンガリー) 4.16.88
③シューブ(米国) 4.18.34
★9—16位レース
⑪長瀬美穂(専大) 4.32.65
⑫松本扶美子(東女体短大) 4.32.76

【800m自由形】 (分.秒)
①シューブ(米国) 8.45.87
②ラ　シ(イタリア) 8.47.76
③オロス(ハンガリー) 8.49.41
★予選で落選
松本扶美子(東女体短大) 9.25.27
長瀬美穂(専大) 9.29.09

【100m平泳ぎ】 (分.秒)
①ボゴミロワ(ブルガリア) ▽1.09.27
②モレワ(ソ連) 1.12.24
③ダラバル(イタリア) 1.12.33
★9—16位レース
⑭三上弘恵(天理大) 1.18.25
⑮小笠原光子(日体大) 1.18.67

【200m平泳ぎ】 (分.秒)
①ボゴミロワ(ブルガリア) ▽2.30.30
②モレワ(ソ連) ▽2.32.53
③ハームスタッド(米国) 2.36.72
★9—16位レース
⑪小笠原光子(日体大) 2.42.54
⑮三上弘恵(天理大) 2.44.79

【100mバタフライ】 (分.秒)
①マーハ(米国) ▽ 59.81
②バデマイアー(米国) ▽1.01.33
③ファンベンタム(オランダ) ▽1.01.51
⑦高橋清美(専大) 1.02.80
★9—16位レース
⑬武田　岩(筑波大) 1.04.41

【200mバタフライ】 (分.秒)
①マーハ(米国) ▽2.07.32
②高橋清美(専大) 2.13.87
③キング(米国) 2.15.06
⑥武田　岩(筑波大) 2.15.84

【100m背泳ぎ】 (分.秒)
①ブナチウ(ルーマニア) 1.03.67
②デロフェール(オランダ) 1.03.75
③ドナヒュー(米国) 1.03.83
★9—16位レース
⑩藤内　望(専大) 1.06.34
⑭宅和裕子(大阪成蹊女短大) 1.07.27

【200m背泳ぎ】 (分.秒)
①デロフェール(オランダ) 2.13.34
②ドナヒュー(米国) 2.13.81
③ブナチウ(ルーマニア) 2.17.63
★9—16位レース
⑩藤内　望(専大) 2.21.86
⑭宅和裕子(大阪成蹊女短大) 2.23.56

【200m個人メドレー】 (分.秒)
①コブチコワ(ソ連) ▽2.18.11
②ピアソン(豪州) ▽2.18.21
③ボゴミロワ(ブルガリア) 2.19.36
★9—16位レース
⑨藤内　望(専大) ●2.21.53
⑪興水秀香(山梨県庁) 2.23.00

【400m個人メドレー】 (分.秒)
①ハームスタッド(米国) ▽4.49.84
②ピアソン(豪州) ▽4.51.20
③リイフ(ソ連) ▽4.52.04
★9—16位レース
⑨興水秀香(山梨県庁) 4.59.52
⑬長瀬美穂(専大) 5.07.90

【400mリレー】 (分.秒)
①ソ　連 3.51.17
②オランダ 3.51.42
③豪　州 3.53.48
(米国は1着でゴールしたが、無資格者がいたため失格)
★予選で落選
日　本 4.04.28

【800mリレー】 (分.秒)
①ソ　連 8.21.78
②豪　州 8.22.74
③カナダ 8.23.48
⑤日　本 8.42.34
(米国は1着でゴールしたが、無資格者がいたため失格)

【400mメドレーリレー】 (分.秒)
①米　国 ▽4.11.24
②ブルガリア 4.14.59
③オランダ 4.16.78
★予選で落選
日　本 4.27.34

【飛び込み団体】 (点)
①中　国 1838.70
②米　国 1769.67
③ソ　連 1698.27
⑤日　本 1493.40

【板飛び込み】 (点)
①ツィルルニコワ(ソ連) 522.27
②李松花(中国) 519.48
③ベーカー(米国) 493.05
★予選で落選
前田旬子(天理大) 418.20
藤井明子(日体大) 381.21
甲谷真美(天理大) 377.37

【高飛び込み】 (点)
①呂　偉(中国) 434.07
②ミッチェル(米国) 431.82
③ロバンキナ(ソ連) 430.05
⑬目次順子(筑波大) 345.45
⑪鈴木裕巳(天理大) 332.67
★予選で落選
前田旬子(天理大) 304.71

水球

①ソ　連
②ユーゴ
③キューバ
⑦日　本

目　次

（表紙題字　藤井正太郎先生）

追　悼

白山源三郎先生の憶い出 ………… 昭7　学1　小山賢之助　1

野村　弘君の追憶 ………………… 昭11　学5　古賀　克己　7

野村　弘兄を偲ぶ ………………… 昭11　学5　小池　三郎　8

マスターズゲイムズ '85参加の記 ………… 昭7　学1　小山賢之助　10

日本マスターズ水泳大会参加の記 ………… 昭42　L　15　宮部　高博　12

トライアスロン挑戦の記 ………………… 昭37　P　10　米田　啓祐　13

昭和60年度凌泳会総会議事録 ………………………………… 15

日本マスターズ水泳協会加盟の事 ………… 昭27　学22　石井　義章　16

「凌泳」誌に関するアンケート集計報告 …………………… 石井　義章　17

支部だより

関東支部新人歓迎会 ………………… 昭42　L　15　宮部　高博　20

関東支部忘年会 ……………………… 昭42　L　15　宮部　高博　21

阪神地区懇親会 ……………………… 昭59　EⅡ31　金　一波　23

阪神地区忘年会 ……………………… 昭31　B　4　冨岡　道雄　24

詩 ………………………………………… 昭16　学11　平井　洋　26

会員からのお便り

月見の宴案内状返信より ………………………………… 28

特集

1985ユニバーシアード神戸大会 ………………………… 39

（寄稿者）　石井義章　前田　修　高岡保宏　米田啓祐

丸山昱也　平石　康　酒井正人　金　一波

中川善雄　井口恵理　吉野　栄

561

現役部員寄稿

脱"できるだけのこと" ………………… 主 将　三好 岳 69
競泳におけるチームワーク ………………… 競泳主任　島崎 昌彦 70
水球主任として ………………… 水球主任　原田久富美 71
体育会クラブとは ………………… 主 務　近藤 直明 71
「あらあら日記」より ………………… 現役部員一同 72
卒部の辞 ………………… 昭和61年度卒部者一同 78
現役部員紹介 ………………… 二回生一同 81

昭和60年度活動報告 ………………… 90
現役部員自己ベスト一覧 ………………… 112
歴代10傑表 ………………… 114
凌泳会会則 ………………… 120
凌泳会役員名簿 ………………… 123
凌泳会会員名簿 ………………… 125
「商神」「応援歌」 ………………… 154
編集後記 ………………… 159

追悼

物故会員

白山源三郎様（大10.高15） 60. 9. 20 没

天野　俊一様（大10.高15） 59. 9. 没

中村　信三様（大14.高19） 59. 11. 没

野村　弘様（昭11.学5） 60. 8. 4 没

冨岡喜一郎様（昭11.学7） 60. 6. 3 没

昨年度，上記5名の会員がお亡くなりになりました。ここに謹んで御報告致しますと共に，諸先輩の御冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌

白山源三郎先生の憶い出

（昭7学1）　小山　賢之助

葭泳会の一番古い先輩で日本の水泳界に選手として，役員として，大きい貢献をなされた白山源三郎先生（旧高商大正10年卒業，旧高商15回）が昨年（1985年）9月20日昇天された。（先生はキリスト教バプテスト派の熱心な基督者であった）先生は明治31年（1898年）10月4日の御誕生であるからもう2週間も長命されれば満87才になられるところであった。1日でも長く生きて戴いて親しく御指導を受け度かった。

御葬儀は，学校法人，関東学院葬として10月10日，同大学講堂で，バプテスト派の儀式により約千名の会葬者によって厳かに行われた。葬儀委員長　関東学院理事長　高野利治氏，弔詞は，横浜市長，細郷道一氏，日本水泳連盟専務理事　小林徳太郎氏　日本バプテスト同盟　千葉勇氏，関東学院顧問　富田富士雄氏の御三方から寄せられた。

式上葬儀参列者に配布された，「白山源三郎　関東学院名誉教授略歴」によれば，先生は　関東学院大学学長，関東学院院長，同理事長，日本水泳連盟　常務理事，横浜ＹＭＣＡ　理事長，神奈川県教育委員長，横浜ロータリークラブ会長，国際ロータリー第359地区ガバナー等の顕職を歴任せられ，昭和42年　横浜文化賞　同43年　勲三等　旭日中綬章　同54年　神奈川文化賞等を受章された。

葬儀では，こうした幅の広い先生の文化面での貢献の話が続いたのであるが，略歴には最終卒業校，大正１３年京都帝国大学経済学部卒業とのみあって，神戸高商の名はない。

私は，式上余り述べられなかった先生の若き日の水泳選手としての御活躍，青年時代の日本水泳連盟の役員としての足跡の一端を述べて，先生へのはなむけと致し度い。

先生は幼少の頃から京都の疎水に在った京都武徳会遊泳部に通われ，日本泳法の小堀流をマスターされた。後に七段位を取得せられ師範となられた。明治４４年４月京都二商に入学されたが当時は未だクロール泳法は日本に輸入されて居らず，小堀流の泳法で所謂「チンバ抜き」を以ってスピードスイミングに進出されたのであった。大正３年，大阪毎日新聞が浜寺において全国競泳大会を催したが，先生は京都二商の所属で１００米フリーに優勝された，これより後数年間短距離の一流選手として活躍された。重なものを列挙すれば次の通りである。

大正５年８月翌年の極東大会への選手を決定する予選会が浜寺で行われたが先生は100ヤード２位，２２０ヤード 優勝，２００ヤードリレーで先生の参加された京都武徳会チーム優勝，という実績により，日本代表選手の座を獲得された。

大正６年，５月　第３回極東大会が東京芝浦において行われたが，先生は神戸高商に入学しておられた。今では信じられない事であるが当時，神戸の様な官立学校の学生は国際試合に出られないという，文部省の御達しがあった。先生は既に代表選手であったので学校には内緒でエスケープして，上京選手団に参加し１００ヤードに３位入賞を果たされた。結果は新聞に出たから無届出場がばれたのでどうなることかと思って恐る恐る登校してみたが，格別なお咎めはなかった。

大正７年８月鳴尾のタンクで全国大会があったが，２００で２位に入賞された。

大正８年６月，第４回極東大会がマニラで行われたのであるが，東京の日本体協本部では日本の各種目の選手の大部分が学生であるところから，開催月を８月に延ばせということを提案したが，比島体協の拒絶に会い体協は極東大会不参加を表明した。ところが当時大阪に在住していた体協の関西支部長　武田千代三郎氏は，国際競技の少なかった当時，極東大会を目標に練習して来た選手が可哀いそうだというので，日本青年運動クラブを組織して，陸上１２名（内３名水泳選手を兼ねる）テニス３名，水泳１名，計１６名の選手をマニラに送った。白山先生は既に前年の成績により水泳の代表選手となっておられたが文部省の「官立学校参加禁止」方針のため参加されなかったので水泳は内田正練氏のみが参加した。同氏は出場３種目に何れも優勝して日本の面目を保った。先生は不参加であったが１６名の中２名が神戸高商関係者であった。何れも故人であるがテニスの岡誠治氏（神戸高商　明治４５年卒業第６回生）と陸上の多田徳雄氏（神戸高商体操教師）の２名である。当時の高商は関西スポーツ界における中心的存在の一つであった。多田先生は高商時代水泳部の副部長であられた。当時の極東大会憲章によると水泳の様な個人競

技はリレー1種目に出場しないと参加とは認めないことになっていたので内田氏の他に陸上選手で40ヤード（プールの長さ20ヤード）泳げる陸上選手3名を水陸兼任の選手として160ヤードリレーに出場したのである。多田先生は広島の水泳の師範で短距離は早かった。

大正8年　武田千代三郎氏は大阪市立高商の校長になられた。一方極東大会不参加を声明した東京体協には非難が集中した。

大正9年　神戸高商対大阪市立高商の水泳の対校戦の第1回が行われたが，先生は200と400に優勝されて，神戸の勝利に貢献された。先生卒業後の第2回には神戸は敗れている。神戸高商で学友会運動部として水泳部が認められたのは，大正10年であったから先生の水泳歴は日本歴史で言えば，天照皇大神になるのかも知れない。

以上で先生の選手歴は終るのであるが，先生は凡ての事に全力投球をされた人であった。

御葬儀で関東学院関係の方々から，先生の関東学院に対する並み並みならぬ御功績が色々と述べられたが私が先生らしいな，と思った事が色々あるうちの一つにこんなのがある。先生の御自宅は，関東学域の校舎と海岸との中腹にある。之は先生が自宅を選ぶに当って，学校からも海岸からも容易に発見出来て何時でも，学生や学院関係者が来易い処という基準によって自宅を定められたという。戦後学校の先生といえば「デモシカ」先生が多く，自分達は労働者で課外教育（スポーツ等）はしない，上級学校への入試の準備教育はしない，のが普通であるが，先生はこういう教育者ではなかった。教育者としての先生がどうあられたかについては私は直接に指導を受けたこともなく，又先生も之については自分から進んでお話し下さることもなかったので残念ながら書くことは出来ない。そこで私は以下水泳関係についての想い出を書くことにする。

① 青谷の池

大正の始めの頃に泳ぐところといえば海岸又は大きな川位しか意識に上ってこないのが常識であった。関西で競泳の一番大きな大会といえば大阪毎日新聞が大正11年まで浜寺で行った水上競技大会であった。之は海岸に木で脚立を作り沖の方へ行く程足を長くして，スタート台はほぼ水面に平行になる様に作られ，50米向うにはターニングのため同様な脚立を作って泳ぐのであった。先生は大正6年に神戸に入学されたが水泳部も練習場もなかった。大正7年，同好の士を募り練習を始めたが先生は初めから海を相手とせず，上筒井の校舎から約1粁登った青谷温泉に直径40米位の池のあったのに着目しそこにスタート台を作って練習を始められた。之は一つの意識革命であった。

神戸高商には他校よりも比較的早く（大正13年）校庭の片隅に25米のプールが出来たのであるが，之は先生発案になる青谷の池の脚立が，もたらした成果であった。

② 京二商50米プール

先生は大正13年3月京大卒業後　同14年8月，母校京都二商の教諭となられたが着任早々二商校庭に50米プールを作られた。大正15年の竣工であるが全国でも中学で50米プールを持つということは茨木中学に次いで二番目であったと思われる。

昭和2年先生は，関東学院高等商業の教授として横浜に移られたが，東京の水泳連盟では，末弘巌太郎会長以下が喜んで先生を役員として迎え入れた。「略歴」によると昭和10年水連常務理事就任となっているが，役名はなくとも昭和2年の時点において既に事実上役員として水連経営の中心的存在となって居られた。昭和3年，先生は自ら采配を振って，日本選手権大会を京都二商プールで行われた。京都武徳会は先生を初めとして，同年アムステルダムで行われたオリンピックに，新井信男氏（800リレー　銀のメムバー）　木村象雷氏（同背泳代表）等多くの一流選手を輩出した。又女子では日本記録保持者　永井花子さん（フリー）入江広子さん（背泳）等の名泳手を育成した。入江さんは後に先生の夫人となられた。又京都武徳会の人々は日本選手権大会を開催し運営する能力を持っていたのであった。

③　昭和7年　ロス，オリンピック

この時は，周知の様に男子競泳5種目の内4種目に金メダルを取るという，水泳日本の面目躍如たる大会であった。先生はその前年　昭和6年文部省在外研究員となられ，ロスアンゼルスに赴任されることになった。

水連では先生を早速オリンピック選手の滞在について環境整備の為の先遣隊に任命した。結果は先生の先遣隊を始め，田畑団長，松沢コーチ等の努力が実って，前述の様な好成績が得られたのである。その後オリンピックは何回も行われたが，日本水泳がこんな立派な成績を得たのは空前絶後であった。葬儀席上水連専務理事小林徳太郎氏は弔詞の中で，当時の選手団長後の水連会長　田畑氏は先生の先遣役員としての功績に対し最大級の讃辞を送ったと述べられた。先遣役員としての先生の活躍は至れり尽くせりということでチームに大きな貢献をした。只先生に対するロス在外研究員の発令がこんなにタイミングよくなされ，水泳チームが先生御夫妻の御厄介になれたのは先生の政治力によるのか文部省が気を利かせたのか私にはわからない。水連の公式の役員名簿には，渉外　白山源三郎　シヤペロン　白山広子となっている。

④　昭和11年　ベルリン　オリンピック

この時は前回より男子は金1個少なかったが，女子で前畑さんが金をとり計5個と変らなかった。先生は，在ベルリンとしてロス同様渉外担当役員で，白山夫人は女子コーチとなって居る。オリンピック開催の時には必ずそこに白山御夫妻ありである。

⑤　昭和15年　クロール改称問題

軍部の命令で，野球のボールとかストライクは敵性語だから日本名をつけろということになっ

たが，水連でもクロールに和名をつけることとして一般から之を募集した。「速泳，ハヤオヨギ」というのが当選した。当選者３名（同一回答）の中に白山源三郎という人が居る。水連役員の白山先生であった。一般からは馴れ合いではないかと批判されたがその時私は詮衡委員であったが決して馴れ合いではなく，先生はフェアーに応募されフェアーに，当選されたのである。先生は意外なところに我々の知らない才能を持って居られた。

⑥　昭和３５年　ローマオリンピック

この時水泳は小出靖彦氏が選手団長となってローマに行ったのであるが，先生は別途ローマに来ておられた。そして，昭和３９年のオリンピックが東京開催にきまったあと開かれたＦＩＮＡ理事会において先生はＦＩＮＡのシンクロ，テクニカル，コミテイの一員に選ばれた。安部輝太郎名誉主事　清川正二競泳委員長（理事）柴原恒雄　飛込委員の決定と同時であった。先生は日本水連が先生を必要とする，時と場所に必らず出てこられたのであった。

⑦　水連機関誌「水泳」

昭和５年，水連は機関誌水泳を発行したが先生は初代編輯委員長になられた。そして水泳誌は第３種郵便物の認可を得た。この制度は，雑誌の送料が安くなる制度であるが，一定の規則がある。規則違反をやると認可が取り消されるのである。編輯長はその後色々な人に交替して行くのであるが，担当者が召集されて，認可が危くなると先生の処へ持っていくと必ず条件が満たされ，取消を免れたのである。水泳誌は今でも第３種郵便物である。戦時中召集，召集で困ったが，之をのり切ったのは全く先生のお蔭である。先生は役名如何にかかわらず，編輯主任，シンクロ日本泳法等各委員会の長，もしくは委員欠員の時には，何時でもお引き受け願える稀な人材であった。

⑧　基督者── 信仰

先生は明治４４年，京都二商入学の年に京都バプテスト教会においてバプテスマを受けられ基督者として生涯信仰生活を送られた。

牧師という聖職者ではなかったが，教育者であったから，時には牧師さんではないかと思ったことがある。私も基督者の末座を汚しているのであるが，かつて大正海上に勤めていた頃の同僚で　Ａという人があり，職場での聖書輪読会の仲間であったがこの人が定年退職後，福音ルーテル派の神学校の事務局に勤務せられた。日本における基督教は終戦直後，短い期間ではあったが米軍が宣教師などを送り込んできて，一時ブームが起り信徒百万人と称された。ところが其後，参拾数年経ってもこの百万人はすこしも増加しない，従って教会の数も増えない，神学校卒業生が数十名毎年出て来ても教会がないので就職出来ない，Ａ君は神学校卒業生を商科卒業と同じ様に就職斡旋をしているが骨が折れるとこぼしていた。関東学院は１８８４年バプテスト派神学校

として創立されたので，普通一般学部の他に神学部があるので，A君の話を先生にしたところ，「神学部卒業生はイエスの教えに従って，イエスの教を宣べ伝え，既存教会に就職出来なければ，自ら自分で教会を創設するという意気込みでなくてはならない，」といつもの先生とは違う口調で強く主張された。その時私は先生は水泳連盟役員の大学教授ではなくて，牧師ではないかと思った。

葬儀で述べられた弔詞によれば，関東学院が戦後の学制改革に当って，先生は新制大学にすべきだと主張せられたが之は初めは少数意見であったが，結局先生の主張通り新制大学となり，関東学院が現在あるのは偏えに先生のお蔭であるという。A君の話をしたのは昭和５３年の菱泳会第１回全国大会の頃であったが，その後福音ルーテル神学校は廃校となり，A君は別の学校の事務局に転勤して今日に及んでいる。関東学院神学部も今はない。ところが１９８４年（昭和５９年）今は神学部はないが，神学校として発足したのは１８８４年であったから１９８４年に関東学院創立１００年記念して，何等かの行事をやるべしと主張したのは，先生であって，その通りになったという。

コリント前書第９章２４節に「競技場で走る者は，みな走りはするが，賞を得る者はひとりだけである」とある。先生は人生の馳せ場をひた走りに走られたが水泳に，関東学院に神の眼から見て賞を得られた独りであったと思う。先生の御昇天に際し，私は先生の愛唱歌であった讃美歌４８８を歌って先生を天国にお送りすることとしよう。

はるかにあおぎ見る
かがやきのみくにに
父のそなえましし
たのしきすみかあり
われらついに
かがやくみくににて
きよきたみと
ともにみまえに会わん。

（讃美歌　４８８）

以上

野村弘君の追憶

（昭11．学5）　古　賀　克　己

学部5回生の同級生会名は五菱会と称していますが，今年は卒業50周年ということで総会記念旅行については，幹事大童で計画準備中です。この全国総会懇親旅行は，始めは5年間隔，ついで3年おきとなり，齢を重ねて皆が余命を計るようになってこの十数年来は毎年催して顔を合わせようということにしています。五菱会・菱泳会の畏友野村弘君は，昭和57年秋の五菱会信州秋神温泉旅行にソロリソロリという感じで参加されたのを最後に，毎年の催しに出て来られなくなったがそれは糖尿等で体調をこわして専ら養生中であるからとのことでした。昨昭和60年8月4日入院先で亡くなられたことを聞いた時は悲しみと共にあゝ遂にその期がきたのかという思いがしました。75才でした。心から冥福をお祈りしました。

昭和11年3月卒業（当時神戸商業大学）後直ちに兼松商店へ入社，機械，化成品等各部長を経て，インド，パキスタン，マニラ，メキシコの海外勤務，最後は昭和36年ロンドン支店長となり6年近く勤務して帰国，あと系列会社を勤め終って51年から自適の生活に入ったことは，「菱泳」52年度（25号）に寄せられた通信文にあります。

私は卒業後航空機会社で内地勤務のみ，彼は海外勤務16年と長く従って働き盛りの時代は殆ど交際はなく，彼が国内在勤の時も賀状交換するていどであり相見ることは彼も参加した五菱会旅行の時位でありました。ロンドンから大型の絵はがきをもらったことがあり，それはテムズ河畔国会議事堂ビッグベンの景色で綺麗だったので長く保存していたが，後年自分が現地へ行った時それを思い合わせたことがあります。古林喜楽先生がロンドンへ行かれた折，野村支店長が，下町の古風な雰囲気のレストランで歓待して喜んでもらったことを，彼自身が前記「菱泳」誌（古林先生追悼号）に書いておられます。　私には水泳部時代の思い出が印象深い。昭和8年春，筒井ケ丘の満開の桜を眺めながら共にプールサイドに集まった新入水泳部員は，関西学院水泳部で鳴らした高商部出身の野村君を中心に小樽高商出身の小池三郎，大野整（当時千葉姓）片山四郎（戦死）の諸君や佐賀高出身の大槻繁君と私の6名であったと思う。ポプラの若葉に囲まれた25ｍ5コースのプールで，5月ともなれば薫風素肌に快く練習も賑やかになるが常に野村君がリーダーでした。関西インカレ，三商大戦等対校試合の得点源であった。マネージャーでもありコーチでもあり主力選手でもあった。宝塚プールだったか，三商大戦で東京勢にオリンピックチャンピオンの清川正二選手がおり専門のバックのみならずクロールでも活躍得点を稼がれたことがありましたが，それ以来の縁であろうか，葬儀の際には清川氏が参列されたとのことです。卒業後20年頃だったか旅行会が有馬古泉閣で催されたことがあったが，宴席で芸妓連の踊など

盛上った所へ元気のよい彼が裸で舞台一ぱいおどり廻ったことがありました。愉快な明るい性格の一面を示したものです。御子息によればテツマンの翌日2ラウンドゴルフをやったという位の体力の持主の彼が，晩年は諸病併発し，最後は脳梗塞で入院寝たきり15ケ月の間奥様と御家族に看とられながら静かに旅立たれたとのことですが，私は心の中で「ホンの少し遅くなるがすぐ行くからプールサイドで待っていてくれ」と呼びかけています。

野村弘兄を偲ぶ

（昭11 学5） 小 池 三 郎

古賀克己君の依頼を受け，今は亡き野村弘兄の足跡を，謹んで辿ってみたいと思う。

野村弘兄は，昭和60年8月4日午後8時30分永眠された，とのご通知を奥さんより受け，翌5日は丁度学部5回生（五凌会）の月例会の日に当っていたので，5日のお通夜，6日の告別式その他を報告，全員が野村兄と別れを惜んだ次第である。同時に凌泳春秋会の先輩諸氏にも取り敢えずご通知申し上げた次第である。

野村兄は，糖尿病・パーキンソン氏症候群という病名をもち，足が弱っていた。然し持ち前のきかん気で，世田谷上馬2丁目の自宅から約4キロの距離にある，駒沢オリンピック公園附近を午前中歩きまわって，足を鍛えていた。月例の五凌会及び凌泳春秋会には必ず顔を出していた。然るに或夜自宅階段より滑り落ち，相当な怪我をしてしまった。それ以来入院生活を重ねられたのである。

野村兄との出会いは，昭和8年上筒井にあった神戸商業大学に入学して間もなくと思っている。小生が趣味を水泳・スキーとして書類を提出したところ，水泳部の誰かに強力に勧誘され，水泳部に入部することとなった。その時以来である。長い長い付き合いであった。

野村兄が入学したことは，神戸商大水泳部にとって大朗報であった。兄は関西学院高商部から，念願の商大に入学したのであるが，当時所謂関学と言えば，関西の水泳界の強豪で，中でも野村兄は短距離において第一人者であった。その兄が入学したのであるから，俄然，神戸商大水泳部はいろめき立ち，大きな期待を寄せたことは当然であった。古林喜楽先生は，特に兄の入学試験の成績を調べ，よい成績で合格したことを知り，嬉しげに語っておられたことが印象的であった。

さて，水泳部における兄は，三商大戦・大阪商大戦等において，期待通り圧倒的強さを示し，特に3年の時はキャップテンとして，われわれを助けてくれた。但し総得点においては，勝ったり負けたりで，特に小生などの貢献度は微々たるものであって，今でも恐縮している。小生は北ぐにの小樽高商からはるばる来たもので，スキーなら多少自信があったけれど，水泳は自信がなか

った。スキーの方は弘前高等学校出身者などと共に，スキークラブを作り，関西インターカレッヂで一部校となり，その中で入賞したりした。つい横道にそれてしまった。お許しあれ。

さて，野村兄の思い出は尽きない。プールサイドの兄は流石にきびしく決められた距離は最後まで泳がせた。小生なども疲れ果てて，プールからなかなかあがれないことが間々あった。一方，兄の宴席における余興は飛びぬけておって，例えば，“私のラバさんは酋長の娘”を唄い出すと，縄のれんの様なものを腰の廻りに縛りつけてぶらぶらさせながら，南洋の土人よろしく踊り出す。また鼻下に浅草海苔を貼りつけて“ハイル・ヒットラー！”これはまた傑作であった。その他裸踊りなど満場を湧き立たせたものである。

兄は昭和８年大学卒業後直ちに兼松江商株式会社に入り，持前の社交性と真面目さから重要視され，海外の生活が長かった様である。先ず最初はオーストラリヤ，次はパキスタン，ロンドン等で，ロンドンでは支店長としてヨーロッパの中心的立場にたっていた。業績もあがった様に聞いている。最後は部長の要職から子会社の責任者となった。小生も三共株式会社の子会社の代表となり横浜におったが，偶然兄の会社が遠からぬところにあり，旧交をあたためた次第である。

兄は，その風丰から言っても，年令から言っても，われわれの兄貴であった。兄の愛称は「おじん」であった。その由来は知らないが，それが不思議に兄にぴったりなのである。仲間の間では，兄を呼ぶときは大抵「おじん」であった。

さて，「おじん」亡きあとのご様子はどうであろうか。男のお子さんと女のお子さんの二人であるが，お二人とも非常な親孝行で，奥さんを見守ってくれている。男のお子はアルプス電気の山形工場に勤務していて，野村兄は息子と一緒に住むべく，工場の近くに１００坪の土地を購入してあった。現在息子さんは既に立派に家を建て，兄の生前から一緒に住もう，何時でも来て下さいと息子が言ってくれていると，嬉しそうに話をしていたのを思い出す。またお嬢さんの方は結婚して鎌倉に一家を持ち，折々奥さんを尋ねては慰安に努めている。現在の奥さんは，用賀に主人の菩提寺があるので，足腰の丈夫な間はお参りをしたい。主人にも話しかけたい。子供達の話はありがたいが，今暫くはこの家でなき主人を偲びたいと言っておられる。

野村兄よ。どうぞ安らかに眠って下さい。

最後に，関西水上連盟の野村兄と小生との「えにし」について，兄にお礼を申し述べたい。関西水上連盟会長であった藤井正太郎（故人）は，小生の岳父であり，この藤井正太郎の次女が私の家内であって，神戸商大水泳部に特別の親しみを持っていた岳父と，連盟の世話役をしていた兄と小生との関係に，深いきづなを感じている。

野村兄よ。ありがとう。

兄のご冥福を心から祈りつつ筆を擱く。（合掌）

マスターズゲイムズ ’85参加の記

（昭7 学1）　小　山　賢之助

第1回マスターズゲイムズは，昭和６０年8月7日から２５日まで，カナダ，トロント市において開催された。競技種目は陸上競技，水泳等２２種目で参加者8,０００人と発表された。マスターズ競技は国とは関係なく２５才以上の男女は誰でも参加出来る。国籍とは関係がないので正式な参加国数の発表はなかったが，約６０ケ国であった。

この中で水泳は8月8日から１４日までの7日間に行われた。水泳の場合２５才以上であればアマでもプロでもよいことになっているから，マスターズの場合アマチュアリズムの理屈は要らない。国別もないから国内予選もない。２５才以上を５才毎にグループを作ってそのグループの中で着順を競うのである。　いくらおそくても自己のペースで泳げばよい，５０人出泳して５０位でもよいのである。６０才以上になると種目によっては，一種目出泳者が８名未満のものもあるから入賞確実なものもあり，８０才以上ともなれば金メダル確実なものもあるわけである。競技は予選決勝がなく一発勝負のタイムレースである。

日本からは７６才（１９８５年8月１４日現在）の私が最年長で６１人の男女が出泳した。個人種目では金１８　銀１５　銅１１，4位乃至8位の入賞は５８で延１０２の入賞を果した。

リレーは3位まで入賞で，金１　銀4　銅1　計6であった。日本の獲得した個人種目１８の金の中１２は６０才＋のもので，リレーも男女混合２４０才＋であったから金１９の内１３は６０才以上の人が獲得した。世界各国の平均寿命は日本が男子 ７4.５4年 女子８0.1８年で共に世界一であるという。恐らく高年令層の好成績はこの統計と相関するものと考える。５９才以下の金６の内，3は平泳である。これもアムステルダムからミュンヘンに至るオリンピック平泳における金メダル獲得と無関係ではないと思う。

私は７５＋の平泳　５0，１００の２種目に幸運にも1位を取ることが出来た。幸運にもというのは，マスターズ水泳の過去3回の国際大会（８２，８３年米国　８４年3月ニュージーランド）において７５＋の中に1人私より強いのが居たのであるが，此の人がトロントに来なかったのである。７５才の寺尾敏夫はフリー　５種目　バック５０と個人種目で６個，男女混合リレー　２４０＋で優勝のチームメンバーで計７個の金を獲得した。この人については，６０年9月１５日老人の日のＮＨＫ特別番組で放映されたので御存知の方も多いと思う。今回のトロントの様な全競技を包含する第二回マスターズゲイムズは4年後即ち１９８９年，種目数２８，参加人員1万名を目途として，デンマーク，コペンハーゲンで行われる。

マスターズ水泳が我国で行われたのは昭和５３年であった。スイミング，クラブ（Ｓ．Ｃ）協

会の生涯水泳委員長となった岡田亘（毎日スポーツ企画社長）が，Ｓ．Ｃ発展のため，１８才以上の泳手を５年毎のグループに分ち，マスターズスイミング，フェスティバルと称して競技会を始めた。之が次第に盛大になった。

日本水泳連盟（ＮＳＲ）は，マスターズをＮＳＲの手で行うよりは，別の団体によって行う事を適当と考え，１９８４年の初めＮＳＲの顧問である　清川正二，北村久寿雄をそれぞれ日本マスターズ水泳協会（ＪＭＳＡ）の名誉会長，会長に任命しＳ．Ｃ．協議会とＮＳＲより半数宛の役員を選任し協会を結成した。

北村会長は，国際マスターズ水泳協会（ＭＳＩ）その他関係団体と連絡を取って，同年３月ニュージーランドのクライストチャーチで行はれた第３回国際マスターズ水泳大会及びカナダのトロントの第４回ＭＳＩ大会（第１回マスターズゲイムズと兼ねる）に日本から選手を送ると共に第５回ＭＳＩ大会を東京で開催することとして諸準備を開始した。

一方国際水連（ＦＩＮＡ）では日本と異なり組識の内部にマスターズ委員会を作ってその委員長をＭＳＩに代表として出している。マスターズ水泳の普及を見てＦＩＮＡは之に触手を動かしたと見るべきであろう。日本においてはＮＳＲとＪＭＳＡとの友好関係は良好で，Ｓ．Ｃ．協議会との関係も良いが，他の国では三者の関係がよくない国も多い。北村会長は東京で行う第５回ＭＳＩ大会をＦＩＮＡ公認の世界大会にすることに成功した。

今年（１９８６年）７月東京で行われるＭＳＩ水泳大会は世界マスターズ水泳大会となった。日本人の参加を2,０００人で〆切り１５００人程度の外国人を迎える計画である。

ＦＩＮＡ公認如何にかかわらずマスターズにはマスターズの独特の雰囲気が醸成されている様に見える。私は国際マスターズ参加はトロントが初めてであるが，同行の泳手の中には４回，３回，２回と参加を重ねている人がおって，水泳半分，海外旅行半分という様に競争という観念と程遠い人々が大半であった。中にはゴルフバッグをワザワザ日本から持参して，競泳のない時はゴルフをやろうという人が，男性にも女性にもあった。全く生活をエンジョイする人が大部分で試合で緊張しているという情景は見ることが困難な位であった。私は今後身体に気をつけて先づ８０才を目標にマスターズ競技に出場することを続けたいと思う。神戸大学水泳部ＯＢの中にもマスターズ協会に生涯登録をした方々が数人あるが，出来るだけ多くの人がマスターズに生涯登録をして，国内は勿論海外にまで遠征して元気の好い老後を送られる様希望する次第である。

（文中敬称略　お許しを）

「第二回日本マスターズ長水路水泳大会参加の記」

(昭42　L15)　宮　部　高　博

井上隆史先輩(昭37B10)から11月3日・4日　千駄ケ谷室内プールに於て開催される日本マスターズに参加しないかとの連絡をもらい，東京地区(関東支部)の菱泳会の幹事を務めている関係もあって，マネージャー役をひきうけました。早速，田渕五郎(昭30B3)　山田貴彦(昭37E10)　浅間啓介(昭37E10)及び武政英幸(昭39B12)の各先輩に連絡を取り，各氏のスケジュールから，大会2日間のうち11／4菱泳会として参加することにしました。

当日の記録は別掲の通りですが，菱泳会の名前で水泳活動(大会出場)が出来たことは，非常に楽しい想い出になりました。何故なら大学のOB会からの出場は我々だけだったと考えられるからです。又出場人数が少ないながらもメダルを4個も取れたこと，特に田渕先輩の金メダル獲得は輝やかしい事でしたし，200米リレーにもメンバーを組めました。そして大会終了後近くの飲屋でビールをやりながら，出来る事なら菱泳会の年中行事に出来たらナアー等と話し合いました。来年('86年)は世界マスターズが東京で開催されるとのことです。菱泳会員諸兄の多数の方々の参加を期待したいところです。

追伸

この大会には菱泳会から小山会長が大会委員として参加されて又選手としても，阿部洋三氏(T15)と同じく東京YMCA所属で参加されました。それぞれが金メダルを獲得されました。又，当日世界マスターズ記録が3種目も樹立され，又田中聡子さん(現姓竹宇治　ローマ大会100米背泳銅メダル)など著名ななつかしいスイマーの顔がみられました。

記　録

田渕　五郎(50～54才)

100米　背泳　1－28－22　(金メダル)

井上　隆史(45～49才)

100米　背泳　1－28－26　(銅メダル)

200米　個人メドレー　3－30－71　(銅メダル)

浅間　啓介(45～49才)

50米　自由型　(銅メダル)

山田　貴彦（４５～４９才）

５０米　平泳　５０－４７

宮部　高博（４０～４４才）

５０米　自由型　３３－００

２００メートルリレー（宮部，井上，浅間，田渕）

（１６０～１９９才）２－１１－２２

トライアスロン挑戦の記

（昭37　P10）　米　田　啓　祐

この年にもなって，ふと２０数年も前の学生時代に泳ぐことに賭けていた情熱のようなものが，また頭をもたげてきたのである。

トライアスロン競技に参加しようと思い出したのだ。トライアスロンは，泳いで，自転車をこいで，走ることを長い距離にわたって連続してやる耐久レースだ。

私は，大学卒業後，２０年余り兵庫県北部の山間の小さな小学校の教員をしていた。トライアスロンのことが頭をよぎるようになったときには，小学校の現場から離れ県立の社会教育施設に出向を命じられているときであり，私は何か燃えるものを求めていたのかもしれない。

私は，通勤の時間をトレーニングにあてることにした。自宅から勤務先まで二十キロ余り，ちょうどマラソンの距離の半分だ。初めてロードレース用の自転車を購入し，小さなリュックを背負い，ヘルメットをかぶって通勤を始めた。ときには，途中に自転車を置いといて走ったり，全部を走りとおしたりした。雪のはげしいときなどは，停滞している自動車群などよりは，走っている私の方がはるかに早いことしばしばあった。

泳ぎのトレーニングはほとんどできなかった。しかし，これは２０数年前であるが大学で4年間もトレーニングしたのだからなんとかなるだろうと思っていた。

４５才になってまもなくの昭和５９年7月，本州最南端の和歌山県串本市で開かれた大会に初参加した。この時は，水泳が太平洋の黒潮の中を２キロ，自転車は串本市周辺を２９キロ，走ることは潮岬周辺を１６キロと，トライアスロンとしては小規模のものであった。

しかし，普段，クーラーのきいた部屋で生活している者にとっては，真夏の炎天下のレースはこたえた。泳ぎは，それでも１３位ぐらいで上がったが，後，自転車，走ることは遅れる一方であった。結局，８０人ほど参加していて６０位であった。このとき，ドーバー海峡を横断した大貫映子氏も参加していて，彼女は６１位であった。

それから１年，とにかく通勤のトレーニングは続けていた。

６０年６月３０日，滋賀県彦根市を中心にした琵琶湖トライアスロンに参加することにした。これは水泳3.9キロ，自転車１８０.２キロ，マラソン４２.２キロという本格的なものだ。これを完走したい。私の胸がおどった。この大会には，４５０名ぐらいの参加があった。これに１００位以内であれば，ハワイの大会への参加資格があるという。

午前７時，台風の接近が報じられ時おり雨の降る中で，彦根市松原水泳場からスタートした。琵琶湖の沖に向い，途中で船を回り，次は大きなホテルのゴールを目標に泳ぐ。この水泳は，ほとんどトレーニングできていないので，ゆっくりでもとにかく泳ぎ切ることが目標だった。しかし，冷い。あの梅雨の頃の六甲台プールを思い出す。タイム１時間４１分３８秒。順位は２２０番ぐらいであった。

続いて自転車。彦根から長浜，そして湖北の田園の中を走り，南に下って伊吹山のふもとの方にまで向かう。平旦な道はおよそ時速３０キロぐらい。坂を下るときは６０キロぐらいがでるときもある。自転車に乗っている間に，クッキー，バナナ，食パンを食べ，飲み物を飲む。自転車は，乗っていても楽しさがある。一度トイレに降りただけで，６時間４５分，乗りっぱなしであった。順位は１８０番ぐらいに上がっていた。

最後はマラソン。２０キロ地点あたりから，どっと疲労感がでてきて走れなくなった。初めてイスに腰をおろして休む。食パンを３，４枚食べ，バナナを食べ，熱いお茶を飲んだ。そして，再び走った。はげしい雨の中，午後８時２２分，出発してから１３時間２２分４６秒で，彦根市金亀野球場にゴールできた。（マラソンのタイムは４時間５５分）順位は１６７位であった。

一つの目標が終わった。トライアスロンは私にとっては大きな遊びであった。充実したやりがいのある遊びであった。

o太平洋で泳ぎ，琵琶湖で泳ぎ，それぞれの土地を駆け，忘れられない旅となった。

oトレーニングでは，大地を走り，汗をかき，風雪に吹かれ，雨にうたれ，季節を体に感じた。

oトレーニング時間を生み出すために，日常生活を引きしめることができた。

o体重は７３キロから６５キロが日常となった。

昭和６０年度 凌泳会総会議事録

昭和60年5月19日　於　六甲台教官食堂

◇ 出席者

小山賢之助（学　１）	吉野　　栄（学　９）	三宅　　林（学１６）
石井　義章（学２２）	佐藤　一夫（Ｊ　３）	橋本　　力（Ｔ　３）
冨岡　道雄（Ｂ　４）	岡田　重義（Ｂ１０）	丸山　昱也（Ｔ１３）
酒井　正人（Ａ２６）	太田　雅彦（Ａ３１）	酒井　　潤（Ｅ３１）
長谷川泰造（Ｔ３１）	田中　俊哉（Ｔ３１）	山野　和則（Ａ３２）
坂田　純孝（Ｊ３３）	川島えみこ（Ｐ３３）	織田　芳子（Ｐ３６）

他　現役部員一同

1. 会長挨拶　　　小山賢之助氏
2. ＯＢ自己紹介
3. 現役部員自己紹介
4. 議　　事

(イ) 凌泳会

５９年度経過報告

・岸　楢夫氏を特別会員に迎える。

５９年度会計報告

・別紙参照

６０年度予算案

・別紙参照

・今年度予算案については，修正無しで承認

役員改選

・今年度も幹事長は空席

・幹事に，久保田勝己氏（Ｅ３２）就任

・中部支部長，浅間啓介氏の転居に伴い空席となっているので，支部において後任をきめる。

・その他の修正無しで承認

その他

・夫婦で会員となっている場合は，今年度から一方の会費を半額とする。

（条文の改正は来年度に）

・日本マスターズ水泳協会に，葭泳会としてチーム登録する。

(ロ) 水泳部

５９年度活動状況，並びに戦績報告

５９年度会計報告，並びに６０年度予算案

（記録　近藤直明）

日本マスターズ水泳協会加盟の事

（昭27　学22）　石　井　義　章

６０年度総会議事録にもあります通り葭泳会として，日本マスターズ水泳協会にチーム登録する事が可決されましたので早速その手続をとり，昭和６０年６月４日付を以て登録承認されました。登録番号は１４－０６９です。代表者は小山賢之助葭泳会長になって頂き，事務連絡者は私が当る事に致しました。

マスターズ水泳については前号葭泳誌で小山会長が「生涯水泳のこと」と題して詳しくご紹介頂いておりますので御承知の事と存じますが，その目的は水泳を通じて生涯の健康と体力作りを図ろうとするものです。

その趣旨に賛同し，葭泳会員からも既に１０名以上の方が１００才登録（１万円で生涯登録出来る）をすまされました。登録御希望の方は小生迄御一報下さい。資料並に登録申請書お送り致します。

尚，６０年１１月に行われた長水路大会には在京メンバーで葭泳会チームを編制，大いに気をはいて頂きました。（宇部君の記事参照）

又，小山会長は早くより本競技に出場，７５～７９才男子平泳の日本記録を次々と書替えておられるのみならず，６０年８月，カナダ，トロント市に於て開催された世界マスターズ大会では並み居る世界の強豪を押えて，５０ｍと１００ｍの平泳ぎに見事優勝を果されました。その様子は別掲「マスターズゲイムズ’85参加の記」を御参照願います。

６１年７月には東京に於て「第１回世界マスターズ水泳選手権大会」が開催される事になっており，今後益々マスターズ水泳は盛んになっていく事と思います。葭泳諸兄姉の一人でも多く登録，活躍される事を希望致します。

以　上

「凌泳」誌に関するアンケート集計報告

凌泳編集幹事　石　井　義　章

６０年度号「凌泳」に折込みました同誌編集方針に関するアンケートの集計を下記の通り御報告致します。

出　状　　　約３００通　（全会員）

回　答　　　　７０通　（２３.３％）

1. 凌泳誌について

(イ) 興味を持って読んでいる	４４
(ロ) 一部拾い読み	２５
(ハ) 読まない	１

2. 保存について

(イ) 毎号保存している	４２
(ロ) １年間保存	２５
(ハ) すぐ廃棄	３

3. 内容について

(イ) 今のまゝでよい　５０

(ロ) 追加したい項目

随想，支部だより，仕事・趣味等紹介，紀行文，海外体験記，リレー随筆

ＯＢ十傑表，年令別記録（マスターズ方式）

(ハ) なくてもよい項目

商神　応援歌，会則は別冊名簿へ

(ニ) 戦績記事を

もっと詳しく	５
もっと簡単に	８
今程度でよい	３９

(ホ) ＯＢ寄稿を

もっと多く	１９
もっと少なく	０
今程度でよい	３５

4. 大きさについて

(イ) 現在（Ｂ５）のまゝでよい	４７
(ロ) 小さく（Ａ５）でもよい	１４

5. 発行について

(イ) 従来通り毎年発行	５７
(ロ) 隔年発行	８

6. 名簿について

(イ) 従来通り本誌に入れる	４０
Ａ 毎年掲載	１９
Ｂ 隔年掲載	１２
Ｃ ３年毎掲載	９
(ロ) 別冊にする	２７
Ａ 隔年発行	１６
Ｂ ３年毎発行	１０

7. 広告をとる事

(イ) 賛 成	４７
(ロ) 反 対	１５

以 上

（その他御意見）

◎ ＯＢ寄稿と名簿と知人の消息に興味あり。現役の動向には関心なし。質・量共もっと落してもよい。

◎ ＯＢの親睦誌でなく，記録集になっている。記録よりももっとＯＢの消息を交換すべきだ。

◎ 返信の近況文をもっと充実し，全員に書かせるよう。

◎ 消息のない人に指名して書かせては如何。

◎ 現役の記事ヤヤ冗長

◎ 資金不足なら会費をあげればよい。

◎ 現役の活躍が詳細にわかり，毎年面白く読んでいる。

◎ 労力と費用が大変，もっと簡単にしたら。

◎ 凌泳発行のエネルギーを練習，競技に注いでほしい。強くなればＯＢの応援も熱が入る。雑誌の豪華さを競うな。

◎ 本誌によって水泳部とつながっていることを実感する。年に一度の凌泳を楽しみにしている。

以 上

（幹事所感）

毎度乍ら，返信率の悪いのにガッカリ。設問がまずく，回答しにくかったのかとも思いますが，それにしても２３％は少ない。（アンケートの返信なんてこんなもんだとの声もありましたが…）これだけの回答で判断することは危険です。設問(1)にしても，(イ)，(ロ)合せて６９人，率にして，９９％の人が読んでいる事になりますが，見方を変えれば無回答の２３０人の人（全体の７７％）は全く目を通さず従ってアンケートの事も知らず屑籠直行かもしれません。

それでも一応の傾向は推測出来ます。無記名可としたため正確な事は分りませんが筆跡から判断して，高令者の方は現役の戦績・記録よりもＯＢの消息に興味あり，若い方はその逆になる様です。名簿の別冊化については，やはり従来通り本誌に入れる方を望まれる方が多く，一方現役の意見を聞きましても，1年間に全会員の４０％の方が何らかの訂正を要する事となり，変更ケ所を本誌に掲載するのであれば二重手間になり，むしろ従来通り本誌１本の方が整理しやすいとの意向でした。将来会員が５００人を突破する様にでもなれば何らかの対策を考えねばならぬと思いますが，当分は現行のまゝとしたいと思います。

何れにしましても，「菱泳」をより楽しい物，親しめる物にするためには，1人でも多くの方が1行でも寄稿して頂く事につきると思います。身近な出来事，御意見，御感想等何でも結構です。ふるって御寄稿をお願い申し上げます。

以　上

支部だより

関東支部新人歓迎会

（昭42　L15）　宮　部　高　博

新人会員の歓迎会を8月23日（金），東京の菱霜クラブで行いました。出席者は14名でした。いつも必ず御出席下さる小山会長が，世界マスターズ出場，神戸ユニバシアードとスケジュールの調整がつかず，欠席されたのは残念でしたが，出席全員おゝいに飲み，食い，楽しい一時を過しました。

長老三井先輩の水のみ健康法には小生驚きました。毎朝一升の水を飲み，健康の増進に努めておられるとのことですが，確かに（失礼ながら）年令や老を感じさせない，三井先輩の笑顔に，さわやかな気分になったのも小生だけではなかったと思います。

山口支部長，岡山先輩のお話しに続いて新入会員浦野，吉田両君から，現役部員の活動状況や練習法などを知らせてもらい，出席者一同，現役諸兄の活躍におゝいに満足していたようです。

最後に山口先輩の音頭で商神を歌い散会しました。

（幹事　宮部，阿部）

○三井　栄三郎　（高19　大14）

若い会員の諸君に接して大いに若返りました。色々の運動を手がけてみましたが，僕の経験では水泳が健康に一番効果的の様です。83才を機会に来年から又水泳を始めてPOOLの中で21世紀を迎へたいと思っています。老人の冷水とお笑い下さい。

○山口　宗樹　（学10　昭16）

今年も元気に働いています。

○関山　道雄　（E1　昭28）

若い人達に頑張ってもらいたいと思います。

○田渕　五郎　（B3　昭30）

五十肩治療のリハビリにプールに通っています。復調具合によっては記録にも再挑戦してみます。

○井上　隆史　（B10　昭37）

新入会員も2名を加え，又，活気が出て来ました。久し振りに大阪から戻ってきた人もおり，楽しくなりそうです。ユニバシアードの開会式の日と重なり，小山会長が欠席されたのは残念でした。

○鈴木　剛弘　（Ｂ１１　昭３８）

４年間の大阪単身赴任を終え，６月にまた東京に戻ってきました。よろしく。

○荒井　康之　（Ｂ１１　昭３８）

２２年前にエレクトロニクスの会社に入りましたが，最近，会社は異るとはいえ，この業界に皆さんが入社されるようになり，心強く思っております。最先端をになう諸君のご健闘をお祈りします。

○武政　英幸　（Ｂ１２　昭３９）

三年振りで帰ってきました。

長男（高２）は京都の学校へ残しています。

○中畑　勝明　（Ｂ１４　昭４１）

水泳部の現況を聞き，活躍振りをたのもしく思います。

○阿部　洋三　（Ｔ１５　昭４２）

東京支部の幹事をおおせつかり，何とか新人歓迎会にこぎつけました。あいも変らず東京ＹＭＣＡで泳いでいますが，最近は１００ｍが続きません。（７５ｍぐらいから浮いてしまいます）悲しい思いをしている今日この頃です。

○後藤　信人　（Ｂ２６　昭５４）

初めての東京支部会合に出席させて頂きました。年と共に菱泳会本部とは疎遠となってきた自分に，これではいかんと思い，㊎をガマンし，やってきました。

２人目の子供も，もうすぐ生まれ，上の女の子ともども，水泳の好きな子に育てようと考えています。

○吉田　不二彦　（Ｂ３３　昭６０）

社会人としての自覚が持てなくて苦労しています。

○浦野　敏明　（Ｂ３３　昭６０）

現在研修中の身で，毎日毎日コンピューターの勉強をしています。しかし，定時には終わるので，ちょくちょくプールにも通っています。

関東支部忘年会

（昭42　Ｌ15）　宮　部　高　博

昭和６０年１２月１７日　東京菱霜クラブに於て恒例の菱泳会関東支部忘年会を行いました。御出席下さった方々は，小山会長以下１５名，おゝいに飲み，人生や水泳について語り，なかな

か楽しい忘年会でした。それぞれの方々のお話の一部を御紹介致します。

小山会長（昭７　学１）

日本水泳連盟，専務理事を務めていた頃の事，今回のトロント（カナダ）での世界マスターズの事，又優勝メダルの披露，そして８０才になったら，世界マスターズ記録樹立を目標にしているなど，いつも若々しい会長でした。

草野　嘉一（昭７　学１）

近況について，特にワインの会を主催し，手頃な値段の世界のワインを味わっているとのこと，又サラリーマンユニオンの活動を応援しているとのことでした。

太田　正元（昭１３　学７）

近頃，小田急線読売ランド前駅近くのスイミングプールに通いながら，水泳と麻雀（？）を同時に楽しんでおられるとのこと。又，三商大のカップは太田先輩の力添えを得て立派に新しくなったとのことです。

平井　　洋（昭１６　学１１）

健康上の理由で，水泳，ゴルフ，海外旅行にストップがかかっているとのことですが，酒はＯＫとかで，元気そうでした。又，俳句，作詩活動をなさっており，その本の紹介がありました。そしてスピーチを自作の詩「勝負」，「砂金」の朗読で語られました。

中崎日出男（昭２４　学１９）

サントリービール発売当時のことや社内水泳大会について元気に話しておられた。

井上　隆史（昭３７　Ｂ１０）

先日のマスターズ大会で個人メドレーを初めて泳いだことを楽しく語っておられた。現役当時は，この種目はありませんでした。

林　荘八郎（昭３８　Ｅ１１）

ブラジルでの生活について，特にゴルフボールが貴重なものだとか，あるいは現役時代の三商大戦での先輩宅への分宿のことなど。

武政　英幸（昭３９　Ｂ１２）

少年時代の水泳とのかかわりや菱泳会で出場したことのある関西水球選手権大会の思い出などを話された。

樋口　周平（昭４１　Ｂ１４）

時間の都合をつけて参加して下さいました。

井上　史朗（昭４５　Ｂ１８）

少々遅刻されたが，中崎さん以下，林，井上とサントリー勢は全員集合でした。

呉竹　正人（昭５９　Ｊ３２）

会社で水泳部のキャプテンを務めているとのことでした。

浦野　敏明（昭６０　Ｂ３３）

呉竹君と同じく２人で参加されました。この２人には幹事の補佐役をしてもらい若手ＯＢの連絡等をやってもらいます。

幹事　阿部　洋三（昭42　Ｔ15）

宮部　高博（昭42　Ｌ15）

◎追伸

山田貴彦（昭３７　Ｅ１０）は急な仕事とかで顔を出されてすぐお帰りになりました。

阪神地区懇親会

（昭59 ＥⅡ31）　金　一波

昭和６０年度淩泳総会も，無事終了し，六甲台から席を変え三宮のＫＵＣ（神大クラブ）で，午後５：３０より懇親会が開かれました。

この懇親会は，淩泳会員は年々増加するのに，淩泳会行事への参加数が一向に増加せず，月見の宴等，伝統ある行事がすたれていくのを懸念された，小山会長の発案で，少しでも多数の会員が集まりやすいようにと企画された会です。現在，会員の内３分の２は新制の卒業生であり，卒業後４～５年は横のつながりも密にとれ，個々のグループでは時おり集まり，旧交を温めている話もよくききます。やはり，淩泳会を今後一層発展させるためには，それら若い力が個々の単位でなく，淩泳会員としてどんどん積極的に会に参加し，諸先輩と交流を深め，またそれを後輩に伝えていかなければならないと思います。特にジェネレーションギャップが声高に言われている今こそ，淩泳会のすばらしい伝統を守るため，若手世代ががんばらなければと思っております。

何やら“創政会”いや淩泳会決起集会の檄文のような出だしになりましたが，それはさておき懇親会の話題に移らせて頂きます。

懇親会には，総会に参加なされた小山会長をはじめとした諸先輩方や，総会には参加できないが懇親会に参加なされた方など多数出席されました。特に今回特別ゲストとして葉室鉄夫先生にご参加頂きました。

ご存知とは思いますが，葉室先生はベルリンオリンピック２００ｍ平泳ぎの金メダリストで，日本水泳界の黄金時代を造り上げた名スイマーであられます。又，現在も日本水泳界の重鎮とし

て，水泳界の発展にご尽力なされておられます。

さて，今回，特別に凌泳会の懇親会にご参加頂いた経過を説明しますと，先生は，私が，所属しておりました，サンタマリアスイミングスクール（大阪）の校長をなされており，私は選手時代から現在にいたるまでを公私にわたりご指導を仰いでおり，特に先生のご子息も神大文学部を卒業なされている関係からも，特にかわいがって頂いております。今回懇親会の話があった時，たまたま先生と会う用事があり，その時に先生に会を盛り上げるためにもぜひ特別参加して下さいとたのんだ所，二つ返事で了承して下さいました。当日は，オリンピックでの思い出話や，小山会長や吉野副会長をはじめとした大先輩方と往年の水泳界の話題にも花がさき，大へん会を盛り立てて頂きました。この誌面をおかりしまして，先生につつしんでお礼申し上げます。

最後に，余談ではありますが，先生は日本大学水泳部のＯＢであられ，現在日大水泳部ＯＢ会である桜泳会の会長をなさっておられます。私の長年の夢であります神大水泳部がインカレで日大水泳部を負かすのは遠い夢であっても，せめてマスターズ大会や，会の興隆をもってして凌泳会が桜泳会をしのげるよう，若手ＯＢ諸兄！　凌泳会行事に積極的に参加しましょう！

つたない懇親会報告文でしたが，私の凌泳会に対する熱情に免じご容謝下さい。
次回，多数の参加を期待いたします。

◎　当日の参加者（写真参照）

小山賢之助（７学）	古賀　克己（１１学）	吉野　　栄（１５学）
三宅　　林（２１学）	石井　義章（２７学）	橋本　　力（３０Ｔ）
佐藤　一夫（３０Ｊ）	冨岡　道雄（３１Ｂ）	以西　吉一（４８Ｔ）
酒井　正人（５３Ａ）	太田　雅彦（５８Ａ）	田中　俊哉（５８Ｔ）
金　一波（５９ＥⅡ）	山野　和則（５９Ａ）	長谷川泰造（５９Ｔ）

特別ゲスト　　葉室鉄夫氏

阪神地区忘念会

阪神地区幹事（昭31　Ｂ４）　冨　岡　道　雄

○忘年会をかねて大阪曽根崎でＳ６０年１２月３日第３回懇親会を開催しました。

阪神地区先輩方の懇親会は１回目２回目は神戸で行いましたが，今回は気分も変えて，大阪在住の皆さんに多数集っていただきたいと願って，大阪駅近く曽根崎の居酒屋“虎連坊”で開催しました。

○出席は１８人の先輩方でした。

もう少したくさんの方に集っていただきたかったので少々残念でしたが………

いつも阪神地区で大変お世話になっている，吉野　栄（Ｓ１５）　石井義章（Ｓ２７）先輩をはじめ，久しぶりに顔を見せて下さった大先輩方や，若手の諸先輩の皆さんで，よせ鍋をつつきながら，出席会員の皆さんの近況報告や不参加の皆さんの動静についての情報交換，そして最近の六甲台現役部員活動の様子から，先輩方の商売の話やら，そして日本，世界，政治・経済の動きにいたるまで………　ワイワイ　ガヤガヤ……

楽しい有意義な一時を過しました。

ご参加の先輩ありがとうございました。次回からは，ご自分の前後左右お近くの先輩同志お声をかけあって是非多数ご参加下さい。

懇親会幹事役も努力不足を反省しています。今後はもっと多くの先輩に集っていただき，楽しんでいただけるよう工夫し努力したいと思っています。お仕事にお忙しい先輩方ばかりですが，次回からのご参加をお願いします。

◎　当日の参加者

吉野　　栄（１５学９）	前田　　寿（１６学１１）	荻野　茂希（１８学１３）
山越　重義（２３学１７）	小西　信次（２３学１８）	石井　義章（２７学２２）
中井　三郎（２７学２２）	榊原　修造（３０Ｂ３）	堂本　直正（３０Ｔ３）
冨岡　道雄（３１Ｂ４）	松田　司朗（３２Ｊ５）	岡村　　司（３４Ｊ７）
岡田　重義（３７Ｂ１０）	久保佑四郎（４２Ｅ１５）	井上与志男（４７Ｊ１８）
酒井　正人（５３Ａ２６）	杉野　　誓（５８Ｔ３１）	山野　和則（５９Ａ３２）

「詩」

（昭16 学11）　平　井　　洋

大きな柘榴

輸入促進とかの

奇妙な荒東風（こち）が吹いて

果舗の最前列に

嬰（ややこ）の頭ほどの大きな

アメリカ産柘榴が並んだ

いっぱし力んだ真赤な顔

いまにも泣きだしそうな歪んだ顔

極限のメモ

たちこめた機内の白煙のなか

戦慄　絶望　祈り　慟哭が

ダッチロールをくりかえす

ゆくてには御巣鷹山の急斜面

夕くだちの中に剥（む）きだされた

悪魔の巨きな牙

牙が火を噴き

五百重（いおえ）の理知も

感情も

一瞬のあいだに嚙みくだいた

牙のあいだからひとつのメモがこぼれた

「ママ　こんなことになるとは残念だ

さようなら　子供達のことをよろしくたのむ」

時計を見ながら事故の経過もメモ

畏るべき沈着冷静な魂が

絶巓（ぜってん）にとび散った

飛行機の残骸のなかから　すっくと

立ちあがった

砂　金

停年

それは砂金掬いの篩（ふるい）

職制・義理・世辞・虚飾の砂は

どんどん落ちていく

落ちにくい砂は虚構のギブス

揮って落せばよい

残った砂金

それがほんものの人生だ

学友・戦友・社友・句友・酒友

e・t・c

友よ

これからは砂金の輝くエデンの園で

仮装を脱いで

虚構からの脱出感をたっぷり満喫しよう

勝　負

勝負はおわった

王将も飛車も金も歩も

ひとつの箱の中に投げ入れられる

人生は終ったと思うのは錯覚

君!!　ほんとうの勝負は

これから始まるんだよ

会員からのお便り

月見の宴案内状返信より

○岸　　梢夫（特　）

当日，先約があり，残念ながら欠席致します。現在も毎日，学生と一緒にプールで過しております。ご参会の皆様によろしく。ご盛会を祈ります。

○高森　安夫（大１４　高１９）

満８３となり，寝込みはしませんが，体のあちこちにいたみを生じ，修繕に多忙です。

鋭意高齢者の健康につとめています。

○足達　英彦（大１４　高１９）

会社勤めを６０才の停年で退職し，松山市の郊外，正円寺町の娘夫婦と同居。息子二人も日本航空と大正海上保険会社勤務，小生も今年８３才子供達からも解放されて老後をしたい事をして，道後の温泉も１０分（バスで）位の所，生かして下さる限り環境まかせで生きて行くだけです。小生８３才，Ｗｉｆｅ　７７才　他に頼らず不自由ナシ。

○三吉　吉郎（昭６　高２５）

今年７５才となりましたので水より陸にあがりマスターズのフィールド競技に挑戦，広島市中国大会で７５才～８０才クラスで砲丸投げ１０.０５米（日本記録），更に１０月１２，１３日の全国大会（鳴門市）で頑張る積りで目下猛練習中です。陸に上がったカッパですが御声援の程，皆様も大いに頑張りましょう。

○植木　実就（昭６　高２５）

本人は割合に元気でございましたが，郷里に病人が出来，病人に附添って２年近くに成ります。７６才の身では大変な事で，大分疲れた様でございます。病気にならなければよいがと案じて居ります。　　　　（留守宅　　植木　鶴子）

○小山賢之助（昭７　学１）

トロント（カナダ）第一回マスターズ大会，水泳，平泳５０ｍ，１００ｍ優勝，金メダル２個獲得，ＯＢ諸兄のマスターズ参加をお勧めします。

○草野　嘉一（昭７　学１）

お蔭様で元気にしております。

家内と９月１１日から１ケ月の北米旅行に出掛けます。家内には初めての私には１６年目の

訪米で，その間の変化を見るのを楽しみにしております。

○宮本　伯夫（昭9　学3）

毎日家に居りますが雑用があって結構忙しいです。老化防止に囲碁とゴルフをやっていますが段々腕が落ちてきます。年は争えないですネ。喜寿を迎えますから少々ボケて来たのかも知れません。物忘れして仕様がありません。でも元気です。

○本間　孝之助（昭１０　学４）

昭和１０年３月卒業以来満５０年の歳月が過ぎて，半世紀になり，顧みると，赤松城趾に本校が新築され，同時にプールも新設されて，当時の水泳部長北村先生を囲み，記念写真を撮った時のことが思い出されます。六甲山麓の緑濃い松林に囲まれて，水泳部員は当時１０人程でした。若き日の苦楽を共にした部員仲間のことを時々思い出したりして居ります。御蔭様で健在です。

○池谷　俊一（昭１０　学４）

最近健康状態も回復し，元気に過しております。月一回，３・４日の予定で浜松に出張しております。

○古賀　克己（昭１１　学５）

元気でおります。毎日，通勤しております。８月中旬家内をつれて，北欧旅行のツアーに加わり，１１日間の涼しい国々の観光をしました。プールでまだ泳げることを知りました。

○小池　三郎（昭１１　学５）

元気にしております。足，腰を鍊える為に朝五キロの速歩を行っています。頭の運動としては，中学のときから興味のあった短歌のみちにのめりこんでおります。その内に歌集を出そうと思っております。

○伊藤　英二（昭１３　学７）

最近漸く退院しました。目下，自宅療養中。朝夕２回の散歩と午后安静の毎日です。幸い目方もふえて来たので全快も近いと思います。スポーツは来年春以降までおあずけです。

○太田　正元（昭１３　学７）

学生時代水泳をやって本当によかったと思って居ます。会社を退いて，何もやる事がないのですが，月曜と木曜は必ず近くの小田急よみうりグリンクラブで水泳を仲間と一緒にやって楽しんで居ます。７０才を越しても出来る運動は誠によいものです。

○福永　拓造（昭１４　学８）

一昨年入院治療後小康状態にあった持病の悪性リンパ腫が今年に入って再発し，３月以降先月迄に１００日以上も慶応義塾大学病院に入院し，現在自宅療養中です。寝たり起きたりの状

況です。

○大内　義仁（昭１４　学８）

雨の降らない今年の夏にはよわりましたが，得意の水とんの術でプールに通い，水底に潜んで涼を得ています。おかげで色つやも良く，同年の友人よりうらやまれています。家内もハッブンして毎週土曜日には，プールに出かけ，神経痛に良いと喜んでおります。

「カッパ　ヤメラリョウカ」です。

○山川　初雄（昭１６　学８）

今年の夏は猛烈な暑さだったせいか，まさに夏バテ寸前までいってアップアップしていた次第。でも昨今の雨でやっと生気を取り戻した。矢張りトシのせいかな？

○満野　公介（昭１４　学８）

６０年度の戦績，大変優秀な成績で御同慶至極に存じます。今後の活躍を期待致します。

○大西　真博（昭１５　学９）

お蔭様で元気に過しています。今年は一回プールにて泳ぎました。若い頃の様にはスイスイとは泳げませんが水の中の楽しさは忘れません。機会あれば泳ぎます。皆様によろしく。優秀なる戦績おめでとう御座います。

○吉野　　栄（昭１５　学９）

元気です。参加たのしみにしています。

○山口　宗樹（昭１６　学10）

本年も皆様のご活躍で好成績を上げられ，何よりと存じます。小生，相変らず忙しく毎日を過して居ります。健康第一に元気で居ります。在阪の諸兄によろしく。

○前田　　寿（昭１６　学１１）

冬場に一寸血圧が上昇したため今年はスキーを中止し，プール通いも自制して，毎日２Kmのジョギングか４Kmの散歩を日課とし，週３回位の本屋廻りを日課としています。もっとも購入する本は，文庫本が主体となり，固いものは疎遠気味です。

○平井　　洋（昭１６　学１１）

敬老日　とどのつまりの　ふたりきり

洋城

○木村京一郎（昭１７　学１２）

今年３月末，県立会津短大を停年退職して福島女子短大に勤めています。水泳できたえた体は丈夫ですが，水とは縁遠くなりました。若い女の子と接しているので，まだ年老いたという感じはしません。当分頑張ります。

○冨中　　暁（昭１８　学１３）

御藍様で健康で相変らずサウナと水泳に励んでいますが，あと２～３キロの減量が至難です。毎日の食事とアルコールは全く摂生しないのですから，虫のよい考えかも知れません。御参会の皆様によろしく御鳳声下さい。

○山内　利男（昭２０　学１５）

商社「冬の時代」は新しい四季を迎へたが，私の担当する鉄はやっと氷点下の底冷えを脱しつつある程度で，鉄は熱い中に打てと言われる程の熱気は程遠い。
個人的には熱い夏には食欲と体重を増す性だが，土日に泳ぐ位では物足りない。

○三宅　　林（昭２１　学１６）

私用により欠席します。御参集の皆様によろしく。平井洋（城）さんに俳句の御指導を頂いています。

○山越　重義（昭２３　学１７）

多忙　元気　皆さんによろしく。

○佐脇　鷹平（昭２５　学２０）

いつも欠席で，不勉強なことを恥じています。転勤続きで一体自分自身誰だったかなと考へ直すことが必要な昨今です。　皆様方のご健康をお祈りしております。

○石井　義章（昭２７　学２２）

ユニバーシアードも無事終り，やっと平常の生活に戻りました。２年も前から準備したのにアッという間に過ぎ去った１０日間でした。凌泳会からも，橋本，前田，高岡，米田，岡田，丸山，平石，酒井の諸君，並に現役学生多数が競技役員として活躍してくれました。御苦労様でした。

○中井　三郎（昭２７　学２２）

毎日元気で働いています。月に一度程度プールで泳いでいます。せめて週に一度行こうと思って居りますが暇がなく，なかなか思う様にゆきません。皆様によろしく御伝え下さい。

○田渕　五郎（昭３０　Ｂ３）

家の近くのスイミングクラブで週１～２回（夜遅く）泳いでいます。

○橋本　　力（昭３０　Ｔ３）

当日は，県高校ジュニア大会（水球）のため，残念ながら欠席します。ご出席の皆様によろしく。

○松田　司朗（昭３２　Ｊ５）

７，８月と本年は猛暑のためプールにつかり切りで計４１日の新記録達成しました。当日所

用のため出席出来ず残念です。出席の皆様によろしく。

○石本　茂樹（昭３３　Ｅ６）

１０月１日転勤しました。４年間単身でやってきました。丁度よいころです。水泳部の皆さん色々ありがとう。３回六甲台へ行きました。

○高橋　靖周（昭３３　Ｅ６）

学生時代に泳いだお蔭で，今もって元気にやっています。最近は毎年１人ずつ後輩が入ってくれるので，当行も凌霜会のメンバーがやっと二桁に達しました。今年も月見の宴に出席できませんが心から盛会をお祈り申し上げます。

○北村　　敏（昭３４　Ｅ７）

月見の宴当日はマレーシヤに出張中のため残念ながら出席できません。昨年秋以来，中国関係の仕事が増えてきたので，一念発起して中国語の勉強を始めましたが，なかなか思うように進みません。それでもなんとか頑張って続けております。皆様に宜敷くお伝え下さい。

○栄川　泰介（昭３４　Ｅ７）

平素無沙汰ばかり，皆様に失礼致しております。年中東南アジアの田舎巡りで時間に追われています。先日，岡田君（東銀リース）（９回）に会い久しぶりで昔話をしました。又，同君に遅れていました会費を託しましたので御収め下さい。次回には参加したいと思っています。今回は９／１０～９／２５インドネシアに出張しますので悪しからず。

○山本　哲弘（昭３４　Ｂ７）

卒業以来一度も六甲台のプールを訪れておりませんので，一同機会があれば寄ってみたいと思っています。皆様によろしく。

○酒井　孝栄（昭３６　Ｅ９）

北海道に転勤以来２年半，この地の良さがようやく理解出来る様になりました。後輩の玉置明選手（？）共々，札幌生活を楽しんでいます。後輩の皆様の御活躍大変喜こんでいる次第です。

○柳本　正雄（昭３７　Ｂ１０）

社用で出張いたします。御盛会であります様願っています。

○井上　隆史（昭３７　Ｂ１０）

今年は少し泳ぐ回数が減った感じです。これから秋にかけて，体力ｕｐのため泳ぎたいと思います。皆様によろしく。

○萩原　　武（昭３７　Ｔ１０）

皆様には殊の他忙がしく，かつ思い出多い夏であった事と存じます。ユニバはＴＶで楽しま

せていただきました。おかげ様で家族ともども元気でおります。

○岡田　重義（昭３７　Ｔ１０）

今年度の好成績，大慶の至りです。オフシーズンの間に，夏の間に充分できなかった勉学に励んで下さい。両立しなければ値打ちがありません。実社会で勝つのも容易ではありませんゾ。

○高岡　保宏（昭３７　Ｐ１０）

前略，久しく六甲台プールには行ってないのでなんとか参加したいと思うのですが当日所用で参加出来ません。皆様によろしくお伝え下さい。ユニバーシアード神戸大会（水泳競技）には，凌泳会から石井，橋本，岡田，米田，前田，丸山，平石の諸氏と，私の計８名が競技役員としてそれぞれ重要なパートを受け持ち，無事大会を終えました。また会期中に観戦に来られた小山会長を囲み，世界マスターズ大会優勝の話を聞きながら楽しいひとときを過ごしたことを報告しておきます。

○山田　貴彦（昭３７　Ｅ１０）

現役諸君の活躍振りに目を見張っています。

○米田　啓祐（昭３７　Ｐ１０）

この前のユニバーでは石井義章組の一員としてボランティアしました。大会（とくに水泳競技）がなごやかに礼儀正しく行なわれていたのは，ひとえに石井組長の指導力と人がらの表われたものでした。私は表彰の中で国旗を掲げる係を平石君達とやっておりました。

○荒井　康之（昭３８　Ｂ１１）

残念ながら欠席いたします。４年生の皆様ご苦労様でした。新しい幹部の方々のご健闘をお祈りします。皆様によろしくお伝え下さい。

○林　荘八郎（昭３８　Ｅ１１）

お蔭様で元気にやっています。銀座のバーで３年先輩の永野氏が歌を歌っているのに出くわしたり，在学中ポロの練習試合をよくやった池田高のキーパー住谷君（その後慶応大へ進みオリンピック選手になった）とも仕事の上でおつき合いがあったり，水泳人との縁は切れません。

○武政　英幸（昭３９　Ｂ１２）

三年振り，二度目の東京です。

○丸山　昱也（昭４０　Ｔ１３）

丁度大きいプロジェクトがすむ時分なので，気持ち良く参加出来ると思います。現役諸君，今シーズン御苦労さん！

○前田　和秀（昭４０　Ｊ１３）

福岡に来て４年目に入りました。現在フィッシングにこっています。そろそろ福岡から足を

洗って阪神地区に行きたいと思っています。御出席の皆様によろしく。

○真喜志好一（昭４１　Ｔ１４）

この夏はずい分泳ぎました。ホテルのプールなので混んでくると遊泳になってしまうのですが　。今日，タイムをとってみたら，５０Br 47″，５０Fr　45″と，現役時代と変りません。現役時代遅いと，オトロエも遅いものですネ。

○手嶋　忠之（昭４１　Ｓ１４）

本年も立派な成績，御苦労様でした。この６月半ば，流行性角膜炎（通称はやり目）をわずらい，２ケ月近くプールから離れておりました。春には２度もひどい風邪にかかり，厄年のせいではないかと話しております。

○由佐　禎男（昭４２　Ｔ１５）

今年の春，知らぬ間に右肋骨を骨折，今は完治しましたが，多分準備運動なしのクラブ素振りが原因だと思います。皆様も十分御注意を。

○阿部　洋三（昭４２　Ｔ１５）

本年度の成績もなかなか立派なものだと思います。（我々の時代と比較すると特に）４０才を越えスタミナのおとろえを痛感していますが，長水路マスターズ大会に向けて練習を続けています。

○鈴木　俊彦（昭４６　Ｍ１７）

久しぶりに皆様にお目にかかれる事を楽しみにしております。

○井上　史朗（昭４５　Ｂ１８）

東京に来て４年になります。長野県担当から東京下町墨田区担当になりました。墨田区とは今相撲をやっている両国がある所です。又隣の台東区との境界の隅田川では大花火大会があります。

○得丸　哲士（昭４６　Ａ１９）

この４月に大阪から東京へ転勤しました。大阪にいる時は，毎週１回以上は泳ぎ，１回あたり2,０００ｍ以上を泳いでいましたが，東京に来てからは，勝手が分らず，最適なプールにいつ出会うかと探している毎日です。このままでは，今年のノルマ１０万ｍ達成が……。

○藤井　元洋（昭４８　Ｐ２１）

ただひたすら自分にできることをやっていく。それしか道はないなあと感じ始めた今日此頃です。

○長谷川　健（昭４９　Ｅ２２）

当店，支店慰安旅行為残念乍ら，欠席させて頂きます。当日御出席の皆様に宜しくお伝え下さい。

○印南　修三（昭４９　Ａ２２）

４月に長女が誕生しました。時たまＤｏスポーツへ行って泳いでいますが，なかなか頻繁には行けません。

○植西　　勝（昭５０　Ｓ２２）

仕事がら夏は子供たちの水泳指導をしながら楽しく泳いでいます。水に入ると，安らぎをおぼえるのは４年間の水泳部生活で身についてしまった習性のようです。

○平石　　康（昭５３　Ｐ２６）

運動会で行けません。残念です。８月後半から，９月の最初までユニバの手伝いをしていました。トップの泳ぎをみてパワー不足をかんじました。マスターズ１００才登録しました。トライアスロンにもでてみたいです。冬は走りこもうと思っています。テニスもがんばっています。

○後藤　信人（昭５４　Ｂ２６）

９／８　社内の三店対抗（東・大・名）があり，今年は大阪店が当番だった為，関学大の室内プールを借用し，大会を開きました。関学水泳部ＯＢ会の会長松田氏が弊社ＯＢでもあり，長年ＫＧ水泳部の世話もやいて頂いていたこともあり，無理を言って，立派なプールを貸していただきました。神大にも早く，それに負けぬプールを造ってもらわねば。９／６　，次女誕生。長女同様ベビースイミングに入れます。

○酒井　正人（昭５３Ａ２６）

去年の１１月２人目が生まれ，家庭サービスも，いっそう大変になってきました。プールに練習に行くのにも，最近はこぶつきで満足に泳ぐこともできないしだいです。

○塩浜　英二（昭５３　Ｔ２６）

今年こそは月見の宴に出席したかったのですが，どうやらその頃は親父になりかけているのではないかと思います。現役の皆さん，ＯＢの皆様方によろしくお伝え下さい。

○平野　輝雄（昭５３　Ｐ２６）

本年度も現役諸君はずいぶんがんばり好成績が残せたようで，私自身も嬉しく思います。これからも来年度に向けてのトレーニングをおこたらないように，頑張って下さい。

○木下　修一（昭５３　Ｐ２６）

まだ生きてます。30歳を目前に控え乍らも，依然独身を保っています。独身人生を謳歌している人，甘んじている人，あせっている人，皆さん！凌泳会内派閥『独身会（仮称）』を結成しましょう！

○大林　良和（昭５５　Ｍ１３）

６０年４月より循環器病センターに勤務しております。　神戸大学水泳部のますますの御発展をお祈りいたします。

○杉山　和弘（昭５５　Ａ２８）

去年から社内で水泳部をつくりがんばっております。同志社大から3名入いっており成績もまあまあです。

○館谷　彰司（昭５５　Ｔ２８）

変化なし。とりあえず元気です。

○慈幸　弘樹（昭５７　Ｐ２８）

8月に福岡で全日本実業団があり，応援に行ってきました。出場者は，杉山，上田，山本隆，金。フォームは学生時代と変わらないようですが，力強さが……。みんな楽しく泳いでいました。ところで，来年の全国国公立戦は福岡ですね，ここからは近いので，必ず応援に行きます。男子・女子ともに団体で出場して下さい。

○上田　剛弘（昭５６　Ｂ２９）

新入社員に寮を追われ，今，三宮のマンションの一室に身をひそめています。今年は一度も顔を出せませんでしたが，思いのほかの実績に喜んでおります。月見の宴は遅くなるかもしれませんが出席します。

○芝　暢彦（昭５６　Ｅ２９）

卒業以来，一度も六甲台のプールに行っておらず，ＯＢといっても名ばかりで，何のお手伝いもできませんが，毎年の戦績は楽しみにしています。部員の皆さん，今年1年おつかれさまでした。

○山本　隆（昭５６　ＥⅡ２９）

社会人4年目，落ちる一方だった記録がやっと前年を上まわりました。これからは，３０才までこの記録を少しでも伸ばそうと思います。

○竹内　啓子（昭５６　Ａ２９）

現在妊娠9ケ月め，週に一度マタニティ・スイミングでパチャパチャ泳いでいます。月見の宴の盛会をお祈りします。

○冨岡　洋三（昭５７　Ｂ３０）

9月より東京勤務となりました。やはり大阪地盤の会社がらか，全員関西弁で仕事をし，阪神の優勝目前に躍る毎日です。

○白子　靖則（昭５７　Ｂ３０）

元気にやっております。来シーズンもがんばって下さい。

○嶋田（旧姓辻）陽子（昭５７　Ｐ３０）

Ｓ６０年4月，結婚のため転居しました。1年位沖縄に居る予定です。是非，水着ひとつで遊びに来て下さい。

○酒井　康司（昭５８　Ｔ３１）

先月，裏面住所に引越をしました。公私共に多忙な毎日を過しています。皆様によろしく。

○杉野　　誓（昭５８　Ｔ３１）

現在，武庫川団地の中の市立中学を建てています。精神的にも肉体的にも大変ハードな毎日を送っています。体育館の屋上にプールが完成したら，一番に泳ぎたいと思っていますが，残念ながら竣工は年度末です。御出席の皆さんによろしくお伝え下さい。

○長崎　真人（昭５９　Ｂ３２）

素晴しい戦績おめでとうございます。今年はプールで泳ぐよりも海で泳ぐほうが多く，１００ｍ泳げばグッタリしてます。残念ながら，当日は参加できません。諸先輩方に宜ろしく。

○山野　和則（昭５９　Ａ３２）

当日法事の為，遅れて参りますが悪しからず御了承ください。

○呉竹　正人（昭５９　Ｊ３２）

進境著しい選手が多いようで嬉しく思います。私，今季は美人マネージャー獲得の実績を買われてＹＨＰ水泳部主将を務めました。元慶応主将の監督さんに，タイムは期待してないと言われたものの，１００Fr１′08″でぐったりです。

○谷水　利行（昭５９　Ｊ３２）

事情により欠席させていただきます。来季も頑張って下さい。

○浦野　敏明（昭６０　Ｂ３３）

社会人になって約半年，まだまだ勉強勉強で半人前にもなれません。しかし水泳では東京都実業団２個メ２位。タイムは秘密。貢献してます。月見の宴には出席できませんが，皆様に宜敷くお伝え下さい。

○土井　健治（昭６０　Ｅ３３）

後輩の活躍をこの目で見ることができなくて残念です。地元に残ってますのでできるだけ月見の宴には参加したいのですが……。

○川島えみこ（昭６０　Ｐ３３）

当日は，勤務校の文化祭なので，出席したい気持はおおいにあるのですが，今のところどうなるかわかりません。２学期が始まり，夏休みボケのなおらない生徒たちと，何とかがんばっています。教室の中は摂氏３６度で窓側は４０度をこえており，クーラーの必要性を切に感じます。

○中坪　朋子（昭５７　準）

筑波での半年間の生活も無事に過す事ができました。多くの友達が世界中に散ってしまい，

悲しみと共にやっと科学博の終りを実感している今日この頃です。神戸に戻る事になりました。みんなと会える事を楽しみにしています。

○藤田　弥門（昭５７　準）

今年は浦野君を含む３名の新人を迎え，会社の水泳部も１１名となり，初めて東京都実業団に出場しました。卒業後初の長水路，記録は１′２？″５まだまだ元気ガンバルぞ～！

○坂井　美奈（昭５８　準）

自社製品の飲みすぎ？？ではありませんが，お盆の頃より発病し，その後しばらくの入院生活を送り，今は寝たり起きたりの生活をしています。さんずの川を渡りそこねたものの昔の様な“みなぎる力”が出ず困っています。当日は欠席させて頂きますが皆様へよろしくお伝え下さい。

○藤本　栄美（昭５９　準）

ユニバーシアードも終わり，やっとひと息ついています。競技役員として，なまの試合が見られると楽しみにしていたのに選手村の方に回されて試合が見れず残念でした。そのかわり各国のコーチや選手と直接話しができておもしろかったですヨ。

○小田ゆかり（昭６０　準）

水泳部の活躍を聞くたびに昔がなつかしく思われます。みなさん来年もより一層がんばって下さい。

特集 '85 ユニバーシアード神戸大会

昭和６０年8月２４日より9月４日迄の１２日間，神戸に於てユニバーシアードが開催されました。殊に水泳競技は連日生放送が流されましたので，その熱戦の様子をＴＶを通じてご覧になった方も多いと思います。

本大会開催に当り，兵水連より各大学ＯＢに対し競技役員を出してくれるよう依頼がありました。吾が裳泳会からは，以前より兵水連役員として活躍していた橋本力（昭３０Ｔ３），高岡保宏（昭３７Ｐ１０），米田啓祐（昭３７Ｐ１０）に加えて石井義章（昭２７学２２），前田　修（昭３４Ｓ７），岡田重義（昭３７Ｂ１０），丸山昱也（昭４０Ｔ１３），平石康（昭５３Ｐ２６），酒井正人（昭５３Ａ２６），藤本栄美（昭５９準），合計１０名が参加しました。又現役水泳部員も学生委員会の要請に応えて１８名の諸君が競技役員・補助役員として参加，彼らは水球の経験をかわれ，主として水球競技に携わりました。

学生のオリンピックともいうべきユニバーシアードが，昭和４２年の東京大会に次いで，神戸で開催されました事を記念し，本号をユニバーシアード特集号として編集する事にしました。

さて，競技の内容及びその結果は既にご承知の事と存じますので，報道機関に流されなかった裏話或はエピソードを夫々の体験者より語ってもらいたいと思います。

（編集幹事　石井　義章）

表彰式こぼれ話

（昭２７学２２）　石 井 義 章

私がユニバーシアードに関係する事になったのは以下の経緯からです。

１０年程前，橋本君（昭３０Ｔ３）から兵水連を手伝ってくれといわれた事がありましたがその時は裳泳会の世話で手一杯だから勘弁してくれと逃げていました。所が５８年初頭，兵水連より今度神戸でユニバーシアードをやる事になったから，各大学ＯＢ会も協力してくれとの要請あり，「神戸ユニバーシアード」となると地元の「神戸ユニバーシティー」，ＯＢの裳泳会も一肌ぬがねばなるまいと，ついその気になってＯＫしてしまったのが事の始りです。

しかし永らく競技運営の実務に携わってないし，年も年だから技術的経験が無くても出来そう

で，楽な仕事と思って表彰の方に回してもらいました。

所がこれが大変な誤算でした。成程国内大会なら大した事はないのですが，ユニバーシアードとなるとオリンピックに準ずる国際大会。国旗の掲揚，メダルの授与，セレモニーの式次第，コンパニオンの動作から，行進音楽まで，凡そ表彰式に関する事はすべて私の責任でやらなければならないのです。

これは大変なくじを引いたと思いましたが後の祭，今更後へは引けません。

その失敗やら苦労話の二，三をご披露致しましょう。

（その１）　同タイム同順位

近年着順審判並に計時が機械化され，タッチと同時に電光掲示板にそれらが表示される事ご承知の通りです。

それも次第に精度が上って千分の一秒迄計れるようになりました。所がミュンヘンのオリンピックだかで，千分の二秒の差で順位がついた事があり，その後それではあまりに酷だとの論が出て，百分の一秒台が同じなら同着として同順位にすることとなったそうです。

昨年のロスアンゼルスオリンピックでも大会劈頭の女子百米自由形で金メダル２人が出た事はご記憶に新しい所です。今や百米を４８秒代で泳ぐ時代ですから千分の一秒といえば長さにして２ミリたらず，泳力の差よりも運の如何に依るものといえ，これは合理的な処置，選手にとっても喜ばしい事と思います。

所がこれが表彰係泣かせになろうとは，自分が担当するまで気がつきませんでした。

まず，国旗掲揚の事。昔の様に，タイムはどうあろうとも，着順審判員が順位をつけてくれた頃はポールは３本用意しておけば何の心配もなかったのです。所が前述の通り何人同着が出るか分らないとなると，それに対応出来る様な掲揚設備を用意しなければなりません。神戸のポートアイランドプールには正面電光掲示板の左右に夫々３本ずつのポールがあるのですが，どう考へてもこれでは対応の仕様がありません。前述のロス五輪の折はあの２人がどちらもアメリカ選手だったので星条旗１枚を中央ポーに揚げて切抜けましたが，もしあれが国が違っていればどうしたのでしょう，恐らく担当者は肝を冷した事と思います。

ユニバーシアード組織委員会（以下Ｏ.Ｃ.と略）にもこの事を強く申し入れ，式典課並に施設課と再三に亘る協議の結果，電光掲示板に向って左側の３本のポールを撤去し，天井から８ｍのパイプを水平におろし，これに国旗を吊り下げる事にしました。長短のロープ数組とそれを取付けるフックを色々用意しておけば，これで４枚迄の国旗ならどの様にでも掲揚出来る訳です。

しかしこれとて3位が3人同着となると5枚の旗を揚げねばなりませんのでお手あげですが，まあそんな事は万が一にもなかろという事で妥協しました。

その他メダルも余分に用意せねばなりません。リレーの同着も考えて毎日金，銀，銅，夫々6ケづつ予備を用意しました。

又，表彰台も大の男が8人迄上れる様に（リレー同着の場合）大きな物を作ってもらいました。

所が結果は皮肉なものでこんなに苦心して準備したのに遂に3位以内の同着は一度もありませんでした。目出度し，目出度し。

（その2） 優勝選手の国旗が無い。

8月25日，競泳競技第1日目の最初の決勝レース，女子100m自由形でオランダのフォンベンタム選手が優勝しました。所がこの時点でオランダの国旗が用意されてなかったのです。優勝者の国旗無しで表彰式は出来ません。といって表彰式を取り止める訳にもいきません。どうすればよいのか，途方に暮れてしまいました。

何故こんな事になったのか説明しましょう。今回のユニバーシアードは100ケ国以上の参加を目標に，発展途上国には費用の援助をしたり，相当無理して参加国をかき集めました。従って入賞など到底考へられない国もいくつかあります。そこでO．Cは3位以内に入りそうな国をリストアップしてくれといって来ました。しかもその期日が四月末。まだ国別エントリーもほとんど出てない頃です。どの競技の担当者も困っていましたが，過去の戦績等を参考に一応のリストを出したようです。

水泳競技の場合，競技団体は日水連一つですが，その中に競泳，飛込，水球と全く異質の3競技があり，そのすべての予想を私一人で立てる事は不可能です。そこで夫々の競技の専門部長に，選択を依頼しました。その結果競泳からは，日本，中華人民共和国，オーストラリヤ，西ドイツ，フランス，ソビエト，アメリカ，カナダの8ケ国（他に東ドイツがあったが不参加）の申請がありました。飛込も8ケ国，水球は12～13ケ国の参加と思はれるのに何故か32ケ国もの申請がありました。しかし，この水球のおかげで随分救はれたのです。もしこれがなければ，まだ9ケ国も旗なし表彰式になる所でした。

さて，競技第1日目の25日，朝から予選が始まりました。所が国旗が一向に着きません。O.C.へ催促しても担当者がトラックに積んで各会場を回っている，今しばらく待ってくれというばかり。そのうち予選の結果が入って来ました。オランダのフォンベンタム選手がベストタイムで通過しています。これは悪くても決勝で3位以内に入りそうです。国旗注文のリストを見ると競泳は勿論飛込にも水球にもオランダは入っていません。これでは国旗が到着してもオランダが入

ってない事は明らかです。近くのワールド記念館でやっている体操競技，又，国際展示場でやっているフェンシング競技に使いを出し借りようとしましたが，どちらもオランダ国旗は用意してないとの事です。すぐＯＣに電話を入れ大至急オランダ国旗１枚都合してくれと泣きつきました。何とかしますといってはくれたものの仲々届きません。

３時すぎになってやっと旗が届きました。決勝レースの始まる１時間前です。勿論その中にオランダ国旗はありません。

遂に４時。決勝の第１レース開始。果せるかなファンペンタム選手が優勝しました。万事休す。審判長に事情説明して表彰を後へ回し次のレースを先にやってくれる様に頼みました。

次の種目のコンソレーションが済み，決勝レースが終った頃やっとやっとオランダ国旗が届きました。早速これを国旗掲揚係に回し，２つの種目の表彰式を続けて行いました。

ユニバーシアード賛歌の演奏と共に中央一段高く上って行くオランダ国旗を見て，やっと安堵の胸を撫でおろしました。

所がこの国旗掲揚には更に私の知らなかった苦心談があったのです。それは国旗掲揚の指揮をとってくれた米田啓祐君（昭３７．Ｐ）と平石康君（昭５３.Ｐ）が書いてくれると思いますのでそちらにゆずります。

（その３）　コンパニオンのストライキ

表彰式には選手や表彰者を先導したり，メダルを運んだりするコンパニオンが必要です。最初は神大の水泳部の女子選手でも頼もうかなと思っていたのですが，水泳は回数が多いので交代要員も含めて９名要る事，それに水連幹部の希望ではコンパニオンは表彰式の花だから身長，体重を揃えたり，その範囲は身長１６５㎝±３㎝，体重５５㎏±３㎏でしかも大学３年生までというのです。これでは神大水泳部では到底まかないきれません。どこか女子大学でも頼まなければと考へた時，私の頭にひらめいたのは松蔭女子学院大学です。

松蔭といえば女子水泳界では名門ですし，殊に私の現役時代，六甲台のプールが米軍に接収されていたため，青谷の高等部のプールでよく練習させて頂いた思い出多い学校です。しかしそれも３５年も昔の事，お願いに上るに何かコネはないものかと思案していた所，ある人から教えられて理事長（前学長）友枝氏は神戸経大２７年の卒業（私と同期）又，現学長黒沢氏は２８年卒の神戸大１回生，更には神戸経大予科の９回生という事が分りました。こうなるともう身内の様なものです。早速神戸大の西，谷一つ隔てた伯母野山に黒沢学長を訪ねお願いした次第です。

前おきが長くなりましたが，黒沢学長のご尽力で容姿端麗なお嬢さん９名が揃いました。何

度かの研修会，リハーサルを経ていよいよユニバー本番を迎える事になりました。

ポートアイランドのプールは神戸市の誇る近代設備の調った５０ｍ８コースの室内プールですが，何故か換気が悪いのです。水に入って泳ぐ選手は良いとして，スタンドの観客，プールサイドの競技役員はたまったものではありません。まるでむし風呂に入ってる様です。その上ＯＣが用意してくれた表彰コンパニオンの制服は白のワンピースそれも総裏付に絹のネッカチーフという代物です。全競技統一の制服ですから，冷房のきいた体操とか柔道の会場，又表彰式が１～２回しかない，サッカー，バレー，バスケット等は問題ないでしょうが，水泳は競泳だけでも1日5回，6日間で計３０回その上に飛込も水球もやる訳です。プールサイドの控室で待機しているコンパニオンもたまりかねて，団扇を持出しパタパタやっていました。所がこれが水連役員の目にとまり，見苦しいから止めさせろといってきました。彼女らは素直に聞いてくれた様に見えたのですがさて次の表彰式が始まると，出て来るコンパニオンの様子がいつもとどこか違うのです。よくよく見るとネッカチーフをしていません。ワンポイントアクセサリーともいうべきネッカチーフがないと，ワサビを忘れた寿司の様でピリッとしないのです。式が終って引上げて来てから，どうしたのだと尋ねてみても，皆押だまって返事をしません。そこでハタと思い当りました。前述の団扇の一件が気にさわって集団示威行動に出たらしいのです。事実彼女等の控室はむし暑いプールサイドの中でも特に風通しの悪い凹んだ一角なのです。

すぐさま先程注意をした役員の所へとんで行き，事情説明して団扇の使用を認める様交渉しました。幸，すぐに了承され，彼女等も次の表彰からは又元通りネッカチーフをつけて出てくれました。

さすがは現代ッコ，ブツブツ文句云ったりせず，だまって実力行使に出るそのあざやかな手口に毒気を抜かれて，むしろ感心した次第です。

（その４） 有難き哉，浚泳仲間

5月の下旬だったと思います。各パートの主任が集まって，競技役員の割当会議がありました。

どうやるのかと思って見ていると，広い会議室のフロアー杯に，役員一人一人の名前を書いたカードをばら撒き，各自欲しい人を拾えというのです。

新参の私にはまだ名前と顔が一致する人は少なく，誰を取ったら良いのか分りません。とにかく浚泳仲間を確保しようと探したのですが，仲々見つかりません，やっと岡田重義君を見つけました。まだ居る筈だがと思って探すのですがありません。ふと見ると，記録係主任として来ている橋本力君が何枚か持っています。

「誰々取ったんや一寸見せて」

と見た所，米田啓祐，丸山昱也，平石康の３人の札をしっかり握っています。

「米田と平石，ワシにゆずってくれや」

と強引に，巻上げてしまいました。後は４，５人の顔見知りの札を拾って切上げました。

そして米田君と平石君には国旗掲揚係の指揮者をお願いしました。表彰式のクライマックスに於て掲揚される国旗です。取違いは勿論，上下，左右，裏表の間違いも絶対に許されない，一つ間違えば国際問題にもなりかねない重要な仕事です。

又，岡田君には入賞選手確保係の指揮をお願いしました。これはレースが終ってすぐ３位迄の入賞者を間違いなく捕まえて表彰式の控室迄連れて来る役です。うっかり逃してしまうと名前と顔が一致しない，言葉も通じないでは探し様がなく，従って表彰式が出来ません。

これら重要ポストに彼らが居てくれた事でどれだけ心強かったか，お察し頂けると思います。そして１０日間の長丁場を確実にその職を果してくれました。ここに改めて彼らにお礼申しますと共に，慶泳仲間の有難さを痛感した次第です。

（その５） 雑 感

世界新記録の樹立を目の前で見る。何年振りの事でしょう。古橋，橋爪，全盛期以来と思いますから３０年はたつでしょう。久し振りに身体が震う様な感動を覚えました。そばに居たコンパニオンの一人は泣き出してしまいました。恐らく彼女にして見れば生れて初めて見た世界新記録だったのでしょう。

それにしてもビオンディとはなんという男でしょう。あんな遅いピッチでよく５０秒が割れるものです。５０ｍ泳ぐのに１６～１７ストロークです。世界新を出した時のラスト５０でもせいぜい１９ストロークです。あれでピッチが上れば，４８秒を割るのも遠い事ではないと思いました。

そのビオンディが足に怪我をして４００米リレーに出場出来ないとのニュースが伝って来ました。さあコンパニオンのお嬢さん方の心配一方ではありません。何とかお見舞いをしたいと９人が夫々千円づつ出し合って花束を買い，西神学園都市にある選手村迄ワザワザ出かけました。残念乍ら本人には出会えず受付に預けて帰って来た様です。所が後でその怪我というのが，レース前に体毛を剃っていて剃刀負けをおこし，それが化膿したものと分り，何となくシラケた感じでした。

マスコミ取材の強引さは世上物議をかもす所ですが，私も此度それを目の当りにして全く腹が立ちました。レース前待機している，ビオンデイの鼻先にＮＨＫのカメラマンが，ハンディカメラを突きつけて動かないのです。彼はそれをいやがって，身体の向きを色々変えるのですが，執拗に前に回って撮ろうとします。しまいには，表彰係の女子役員が並んで座っている長椅子と壁の間に逃げこんでしまいました。レース前はそうでなくても神経が高ぶっているもの，出来るだけそっとしておいてやるのが常識なのに全く非常識なカメラマンです。一方，女子役員は私達のお尻でビオンディを隠してやった。大きい事はいい事だと大威張りでした。

八つ当たり

（昭３４Ｓ７）　前田　修

推薦してくれなくてもよいのに，ユニバーシアード・神戸大会の機械審判員として巻き込まれてしまった。元凶は橋本力先輩らしい。私が多少コンピューターを使えると，兵庫水連吹田大輔会長に吹聴したものだから，お蔭でユニバーシアード会場中最も高温多湿のしかも大型機械の発熱と人いきれの中で，ひどい「あせも」をつくるはめになった。

競泳の技術専門委員会委員長のピーター・デーランド氏が「運営は申し分ないが，この暑さなんとかならんかね，次回会場は空調を条件とする」と言ったとか。橋本先輩も連日の徹夜作業に「今日はむつかしいことは何もわからんですワ」とＫＯ寸前の負けボクサーみたいに，「まいった」の連発だったから，まあ勘忍してあげる。

疲れ果てて，やれ終わったと思っていたら，次回の「淩泳」はユニバーシアード特集号にする。「何か書け」，「絶対に書け」と石井義章先輩がヤイノヤイノおっしゃる。　この人も賞典主任として相当に「しんどい思い」をしたはずであるのに，ものすごいスタミナ。平素淩泳会の世話をしてもらっているし，年齢は離れているにもかかわらず，親しくお付き合い頂いているので，これも辛抱して勘忍してあげる。まずは書きたくない文を書くことにして，表題「八つ当たり」の序文とする。

1. 消　耗

いま思い出しても辛かった。ユニバーシアードでは，多人数の競技役員がそれぞれの役割を分担しており，楽なところはひとつも無かったと思う。私たちの機械審判だけ，私だけが苦しかったと言えるものではない。しかし今日進歩した競技会はコンピューター化されて，すべて自動的だから「機械審判は見ているだけだろう」と思われているのはしゃくの種。どういたしまして，

コンピューターとはマニュアル（手動）の機械である。ときには競技運営上の苦情まで，私たちのところへ飛んでくるのである。

競技会当日，私たち機械審判員７名が操作する機械は，競技進行と準備のためのコンピュター端末３台，タイマー２台（さらに１台は製作会社員が作動），電光掲示制御とその附属機械各１の合計７台だから，競技中は猫の手も借りたい。

ＣＲＴディスプレイ（ブラウン管画面）に表示される記号を見る。場内アナウンスを聞き，競技の進行を見るためにプールサイドを常に移動している審判長の動作を追う。スターターの号砲，フォルス・スタート，全員ゴールの確認。眼，耳……の五感に加えて第六感，すべてを動員する。一瞬の判断でタイミングを計ってキー（ボタン）を押す。遅過ぎても早過ぎても，審判長や観客からお叱りを受ける。このような気の抜けない日々が１２日も続いたから，どれだけ消耗したか，少しはわかってもらえたかも知れぬ。

もしキーボードから手をはずし腕を伸ばせば，スタート台へと行進する選手に触れることができる。緊張にこわばった顔がズーム・アップしてくる。しかし私たちは見ることができない。網膜には立派に写っているのだが，知覚をつかさどる脳細胞まで神経のシナプスは連結していない。「至近距離で見られていいですネ」，「トンデモナイ」

名スターター植田和行氏の号砲が鳴った。

2. 白昼夢

インディアンが通る　アッホイ　アッホイ　アッホイホイ
小さな木の実拾って行った　アッホイ　アッホイ　アッホイホイ
誰におみやげやるのかナ　アア　アッホイホイホイホイ

幼稚園児の娘琴が長い竹を持って家中を一人で行進している。「ア」に力を込めて，アッホイホイ。昨日の近畿春季水泳大会では小学三年に混って優勝したのだ。ねむい！　なんだ夢か……

ビオンディが通る　アッホイ　アッホイ　アッホイホイ
（Ｍ．ＢＩＯＮＤＩ．ＵＳＡ）

可愛げのある奴だ。ほんの一週間程前にパンパシフィック大会（東京）で世界新を連発した。大変な拍手だ。アッホイホイ　また世界新（１００自，４９－１４），たいしたもんだ！

グロスが通る　アッホイ　アッホイ　アッホイホイ　（Ｍ．ＧＲＯＳＳ．ＦＲＧ）

後頭部の髪を，カタカナで「ドイツ」と刈り込んでいる。日独は互いに好感を持っているものだが，ちょっと生意気そう。いや，機械審判といえども審判という名が付いている限り，余計な感情を持ってはならぬ。それにしても彼らは馬鹿でかい。「六尺を豊かの大男」。私は育ちざかりが戦中戦後の食糧難，食わしてもらえず「五尺三寸色男」

マーハーが通る　アッホイ　アッホイ　アッホイホイ　　　（M．MEAGHER．USA）

東京からの機械審判主任服部次男氏が，小声で「可愛いい，人柄がいい」を連発する。昨夏の日本選手権（東京五輪プール）でタイマー操作を修業させてもらったとき，「私情をはさまぬよう」厳しくご指導頂いた。いったん競技に入れば公平厳格間違いなしだが，どうもこの人はマーハーさんと，それから日本選手では渡辺智恵子さんに弱いらしい。昨年の学生選手権（当ポートアイランドプール）のときは，「渡辺さんは良い子」を随分聞かされた。私も好きだ。だけどネェー，今日の「マーハー」は少々うるさい！（服部先生カンニン）

秀香ちゃんが通る　アッホイ　アッホイ　アッホイホイ　（興水秀香　JPN）

秀香ちゃんとは興水（甲府ＳＳ）さんのこと，私の娘琴とは三才の年齢差がある。彼女は末っ子で琴は長女だが大の仲良し，ウマが合う。お姉ちゃんみたいなもんだ。国際試合には何度も一緒だったし，二人とも初めての日本記録（長水路）を同じ競技会で，同室に泊っているときに出した。今年の正月も彼女をコーチしている古屋哲男先生宅の雑煮をよばれて来た。「ガンバッテ」とテレパシーを送る。通じたのか４００個人メドレーで５分を切った。現日本選手で４分台を出せるのは彼女だけ。私の念力も大したもんだ。

プラドが通る　アッホイ　アッホイ　アッホイホイ　　（R．PRADO．BRA）

水泳雑誌の伝えるところによると，身長１６７cm，体重６７kgである。体重はともかく日本の女子選手並みの体格で，１９８２年の世界選手権では世界新で優勝したし，ロスアンゼルス五輪でも銀を取った。今回のユニバーシアードでの優勝タイム４－１９－８３は今期世界最高だ。私はプラド君は「阿波踊り」すなわち「エライヤッチャ」と思っている。

ウチの娘は，なぜ，通せんぼかネ　アア　アッホイホイホイ

（前田琴　Lonely選手　JPN）

輝かしいユニバーシアード，この一月前の試合には，いま目前を通った選手に大差を付けて勝ったのに……　私だけが出場している。なぜ？

一昨日早朝練習に来た英国の監督さん，「平泳ぎの英記録保持者だった」と自慢していた。「娘さんは出ないのか」と私に聞く。「イイヤ」“Why？”「高校三年だから」……

今頃，微積分の問題と格闘しているだろう。

3. 勝者も敗者もなく

審判長がレース終了を宣告した。「ちょっと待って……，変です／」あと一人分のゴールタイムが入っていない。老眼をショボつかせながら，ＣＲＴディスプレイを再確認する。「レース　シュウリョウ」の信号がまだ入って来ない。

プールの水面を見る。小さく見える頭と長い脚がゴールまで二十米を残して奮闘している。黒人選手のようだ。この状況では審判長が勘違いするのも無理はない。「あと一人」のサインを送る。

最終泳者がゴールした。肩で大きく息をしている。澄んだ眼がキラキラ光るのはあながち光線の加減だけでもなさそうだ。彼の黒い膚は上気した顔色が赤いかどうかをわからなくしている。

肉眼でもテレビを通しても，どれだけ多くの国際試合を見てきたことだろう。しかしいま初めて黒人選手の競泳を見た。残念ながら強くないし，今日のレースでも決勝に残りそうにもない。だけどだ，陸上競技短距離，バスケットのような球技，ヘビー級ボクシングのような格闘技にも，彼らがいかに優れた素質と実績を示したかは堪能するほど見せ付けられてきた。機会が与えられれば必ずや競泳にも強くなるに相違ない。

ある人が言う，「誰も口に出さないが，人種差別，公然の秘密だ。同じプールでは泳ぎたくないのだ」　もう少しソフトな意見も聞いた。「低階層に置かれている黒人たちは，社交性の強いスイミングクラブに入るだけの経済力がないからだ」

以前にこんな話を聞いたことがある。ほとんどの近代スポーツが英国貴族によって発展させられた。彼らが好んだのは，互いに身体を接触させない競技である。ウインブルドンのテニスに典型例を見る。ネットを介して，ボールを媒体に技を競う。クリケットも然り。ラグビーの五ケ国対抗の中味は英仏のみ，スクラム組んでも仲間うちだけだ。

因習に捕われた年寄の目には，若者は「跳ね上がりのおっちょこちょい」に見えるものらしい。他人様のことは偉そうに言えない。私も思想の上ではこの年でも老化しているかも知れぬ

から……　閑話休題……　新しがり屋は若者の特権だし，何ごとも深刻だったり，気にしたりしない。これが世の中の進歩の原動力かと私は思う。

現に，このユニバーシアードの場で，白・黄・黒交ぜくちゃに，密度の高い媒体の中で泳いでいる。これがユニバーシアードであると私は反すうしている。

レバノンからのただ一人の女子選手Ｍ．アブハマドさんが入場して来ました。これから２００ｍ個人メドレーを泳ぎます。彼女は１００ｍ自にも出場しているが，いずれも予選１組の１レーンである。眼鏡をはずし，トレーニング・ウエァをたたみ，篭に入れる。スタート台に立った。おどおどしていて痛々しい。案の定号砲に合わず，遅い入水。妙に気になる。ＣＲＴディスプレイから時折目を離して彼女のレーンを見る。他の選手に随分水を開けられてゴールした。水から上がるとき，このレースの審判長西善弥先生に，消え入るような小さい声で「すみません」と言った。審判長は黙ってうなずいた。

レバノン国内は紛争中である。政治的，経済的いろいろ困難があるだろうに，よく神戸まで来てくれた。国内に居るのか外国へ留学中か知らないが，水泳どころではないかも知れぬ。

それから私は彼女が何教徒か知らぬ。レバノンにはキリスト教徒もいるが，アブハマドという姓から察するに回教徒の可能性が強い。乏しい私の知識だけれど，回教色の強い国の女子学生はチャドルをかぶらないまでも，膚を見せることはまず考えられないことだ。

そのせいか，彼女自身の性格なのか，古風に育てられたわが国の戦前の娘さんの「しとやかさ」を見る思いがした。戦後，靴下の強さと並び称せられる現代日本の娘さんも，それなりによろしいですがね。

考え方や宗教の違いで仕方がないことかも知れないが，世界にはまだまだ女性が解放されてない国もある。彼女は日本の小学生よりも遅いタイムで泳いだが，ユニバーシアードはこれを許した。西審判長はうなずいたのだから……

ビオンディ君，マーハーさん，プラド君はユニバーシアードの勝者であるが，あの黒人選手やＭ・アブハマドさんも勝者だ。ユニバーシアードには敗者はいない。

4. 梁山泊

兵庫水連機械審判員は津田孝男主任を含めて体育が三人，物理，数学各一人の高校教官と化学の私との合計７名で構成されている。全員が水泳部顧問，監督など何らかの形で水泳教育に関係していることは推察どおりである。

加えて，日水連派遣の服部次男氏との二人主任，総勢８名となる。計測機器会社からの操作員も常時６名はいたから，機械審判室は装置と人とで溢れていた。

私たちは仲がよく，息が合っていた。津田主任がユニバーシアードのための人的構成を考え始めたころ私が兵水連に入ったらしくて，それから二三の出入りがあったが，現在の構成員は変わることがなかった。この三年間何度ものリハーサル競技会を共にした。

競泳期間中は全員がホテルに宿泊した。飛込み，水球の期間に入って機械操作が少人数ですむようになると，宿泊は交代になった。私の場合は，帰宅するにも終電車に間に合わないので，お願いして長期９日間の宿泊にしてもらった。

夜遅く終わるから，２４時間営業の酒屋と食品店に立ち寄って買い込み，毎晩酒宴した。審判長の西先生はブランデー持参で，また東京，京都，和歌山などからユニバーシアードに協力して頂いた先生方のうち，お身体の空いている人もわれわれの部屋に来ていただいて歓談した。硬，軟，冗談，あらゆる話が続出した。多人数ゆえに，私の知らない世界の話も多く，随分勉強になった。「お開き」ののち，要点を書き込んだ手帳の欄が一杯になっている。

傑作であったのは，わが菱泳会会員丸山昱也君，彼は若手の機械審判員と一泊同室になった。厚かましくわれわれの宴会場にやってきて，タラフク，飲むは，食うは，しゃべるは，冗談ばっかり。腹の皮はよじれるし，笑い過ぎて頬の筋肉は痛い。実は彼と私は同じ高校，学部は違うが共に理科系である。菱泳会と兵水連両者に関係があるから，私などは格好の槍玉，後輩の彼には随分イジメられた。「とにかく面白い人やで……」というわけで，たいそう人気があった。

津田先生はとても気を遣う人だし，機械審判全員で新参者の私をかばってくれた。まだそんな年ではないのだが，老眼と入れ歯だと言うだけで大切にしてもらった。ただ一人自動車の運転免許を持たない私はＶＩＰ然と会場ホテル間を送迎してもらった。「お互いに疲れているのに，すみません」というと，「運転が趣味，好きなことは疲れません」との答が返ってきた。

この文の表題が「八つ当たり」である以上，梁山泊の悪口を何か書かねばならぬ。読後に「嫌悪感」を持たせることが出来なければ，筆が立たぬことになるが，どうもあら捜しに失敗したようだ。私の拙文は，はじめからだが……何だかわけがわからなくなってきた。

5. お嬢さん！

先輩の石井さんは，ケチンボだ！　「あの二人目のお嬢さん，何んて言うの」と聞いても教えてくれない。手替え品替え随分ひつこく聞いても絶対に教えない。

賞典係のコンパニオン嬢が，手を延ばせばとどくところを通っている。私は汗だくになって，

うるおいのない機械と格闘している。石井先輩は「気を遣う，大変な仕事」といっているが，可愛いいお嬢さんを集めて，一人悦に入っているではないか。

私だって，水玉のスカーフがよく似合う奇麗なお嬢さんとの苦労ならば，ナンボでもしてやるよ！

「住所や電話番号までは聞いてないんだから，何子ちゃんくらい教えてくれてもいいでしょう」と非難する。

「松蔭女子大の学長から預かった大切なお嬢さんたちやでぇ，あんたに教えるのは，猫に鰹ぶしみたいなもんや」と冷たい返事。

「うちの大学にはエエ男子学生多いねんで，石井さんの後輩やねんでぇ」と私。

「うちにもエエ息子居る。うちの嫁に取っておく」

何言うてもアカンワ！　「石井さん，ズルイョ」

'85ユニバシアード神戸大会に参加して

（昭37. P10）高　岡　保　宏

本大会は県水連が主管した国際大会としては最大のイベントであった。前回の日中大会を一つのステップとして，この大会に臨み，地方都市においても中央大会以上の成果をあげ，兵水連の実力を全国に認めさせたことにおいて大いに意義のあることであった。

この兵水連の組織において，神大游泳会の占める位置はどんなようすであろうか。私が卒業し，姫路に帰り，兵水連の仕事をはじめたのが昭和３７年であるが，それ以後のことについて若干考察してみたい。

吹田会長体制がこの２３年間ずっと続いている。理事長が和田氏，松尾氏，堀氏とかわり，ごたごたしながらも何とか現体制を維持している。４氏の中で神大と関係があるとすれば姫路師範出身の和田氏ぐらいで，我が游泳会のかげが非常にうすい。理事として名をつらねていたのは数年前までは橋本氏（昭３０Ｔ３）米田氏（昭３７Ｐ１０）と私ぐらいで本当に心細いことであった。最近になり，神大が兵庫インカレで優勝しはじめてから，石井氏（昭２７学２２）を参与として迎え，大変心強く思っている。また，学連の方もこゝ２０数年間，関学，甲南で，神大が担当したことはなかったように思う。何故今頃になって，こんなことをあえて書いたかというと，組織を同一体制が何年も支配してくると，あらゆるところにその幣害があらわれてくるということである。今の県水連も考えなくてはならないところにきているということを問題提起しておいて，

先輩諸氏の意見を聞きたいと思う。

とあれ，私は今回，競泳競技の着順審判として参加した。着順審判員は日水連から古河秀延氏，荒木昭好氏，近畿関係から岸楢夫氏，西脇茂氏，小池哲郎氏，山本新吾氏，県水連から私と中村純雄氏の８名であった。しかし山本氏が場内係として報道関係の仕事にまわられたので実質７名で行った。岸先生（凌泳－６０年度号で橋本氏が紹介されている。）とは大学卒業以来久しく会っていなかったので大変なつかしく，色々話をしながら一緒に仕事が出来て大変うれしかった。

最近の着順審判はオール自動計の出現により，大変楽になっている。機械が百分の１秒まできちっと判定して順位を出してくれるのでトラブルがないかぎり我々は必要ないのである。あまりにもひますぎて，競技中居眠りをしてプールに落ちた人の話をよく聞くのであるがそれくらいひまなところなのである。しかし実際は国際大会で超一流選手が参加し，大観衆の中では，ちょっとそれは誰も出来なかったようである。

私は本部側のデスクで機械のうち出すデーターを記録用紙に記入しチエックする席に居たのでその附近のことが比較的よく観察出来た。隣でコンピューターを一心に操作されていたのが前田氏（昭３４Ｓ７）で機械操作のこと，タッチ板の入力信号のこと等説明をしてもらったが私には全くわからない。また，後の部屋では記録係の橋本氏，丸山氏（昭４０Ｔ１３）がこまねずみのように動きまわっている。とくに主任の橋本氏などはデイリープロ作成のため連日徹夜で作業されたと聞く。そういう点で日水連から来たチーフの人達は呑気なものである。全部が全部そうではないのだが我々は指導に来ているんだという顔で臨まれるから，地元の役員としてはたまったものでない。

一つ傑作なことがあった。出発合図である。タイミングの問題で，ＴＡＫＥ　ＹＯＵＲ　ＭＡＲＫ　からピストルのドンまでの間のとり方が早い，遅いとうるさいのである。初日に審判長の笛を吹いた林氏，出発合図の主任植田氏が我々の坐っている後ろでわめきちらすのである。再現すると合図員「Ｔａｋｅ　ｙｏｕｒ　ｍａｒｋ」………後の声「今だ」……　ピストル「ドン」，後の声「駄目だ，あれじゃ遅いよ」，また次のレース，同様に後の声「駄目だ，あれじゃ選手は泳げないよ」。本当にうるさいのである。

しからば見本と言うわけで植田氏がうつわけだが見事フライングを見逃してしまった。それ以後静かになったことは言うまでもない。

役員として外国語がしゃべれないということは国際大会では致命的である。審判長の指示についても国内大会では厳しく笛を吹き注意をうながす場合でもへたなパントマイムをみているようで，何かちぐはぐでこっけいですらある。自分におきかえてみてもおそらく他人からみれ

ばあいつは何をやっているのだと思っているに違いないと思うと動作がよけいぎこちなくなる。そこへもってテレビの放映はそれに更に拍車をかける。テレビは主催者にとって大変有効にはたらいたと思う。役員調達にこれ以上有用なものはない。誰か一人でも休むと，その穴埋めに希望が殺到するのである。少々しんどい仕事でもテレビに映るとなるとしんどさなんか一ぺんにふっ飛ぶらしい。

o印象に残ったレース

① 二日目（8月26日） 100Mバタフライ決勝

3コース グロス，4コース シーベン 5コース オニール，6コース ビオンディ，そうそうたるメンバーが勢ぞろいした。50Mではシーベンがトップで折り返した。続いてビオンディ，グロス，ビオンディがぐんぐん加速し，頭一つリードしてゴールへなだれ込んだかにみえた。私の記録用紙には，6，4，3，5，7，2，1，8と無意識のうちに目で追った結果がならんでいた。電光板をみると，タッチが流れたらしく，1着4コース シーベン，53－97GR，2着6コース ビオンディ 54－03GR，3着3コース グロス 54－16GR，4着5コース オニール 54－60GR，シーベンが手をあげている。本当に圧巻であった。表彰式でもシーベンはシチズンのマーク入りのユニホームで場内一周し物議をかもした。

② 三日目（8月27日） 100M自由形決勝

3コースは予選3位のレンショウ（オーストラリア），4コースは予選トップのキャロン（フランス），5コースは予選2位，注目のビオンディ（アメリカ），すごいスピード，23秒台での折り返し，他はほとんどが24秒台である。結果がまたまた大変である。1着5コース ビオンディ49－14WR，2着4コース キャロン 49－97GR，3着8コース マッカダム 50－63，場内は世界記録に沸いた。このレースで審判出来たことは本当にラッキーだった。

最後に楽しかったことを一つ紹介すると，NHKの解説を田口氏と一緒にしていた久米直子さんを一晩連れ出し三宮界隈で飲んだことである。彼女は美人で知られているが，気性もさっぱりしていて出演料などをたずねると，田口さんはゴールドメダリスト，私は6位入賞，それだけの差がありますよと軽く笑いとばす。遅くならないうちにホテルにお送りしたがさわやかなお嬢さんである。

プールの片隅で

（昭37P10） 米田啓祐

ユニバーシアードのための役員研修会は，2年ぐらい前から始まっていた。競技についての研

修や大会での実習などであった。それらは，たいてい神戸であって，私の住んでいる所からは少し離れていて，私自身は参加したり，休んだりであまり熱心には研修はしていなかった。それでも，たまに，神戸に出る口実にはなるので，ユニバシアードの競技役員にはなるつもりであった。

昭和５９年の９月，ユニバシアード本番をちょうど一年後にひかえ，本番のリハーサルということで，「全日本学生水上競技選手権大会」が開かれた。現役時代には，こんな大会に出ることなどとうていできない私ではあったが，大学卒業後２５年ほどたって，ストップウォッチを押す係で参加した。

そのときの，一つの感想を私は文にまとめているので，次に書き写しておく。

☆　☆　☆　☆

９月の初めに神戸で全日本学生の水泳競技会があって，私も会場の片隅でその手伝いをしていた。各種目の決勝が終わると，その表彰が行なわれる。速さにおいては，日本一流の選手達が表彰台に立つのだが，それらの選手達の態度は余り感心したものではなかった。ウェアをだらしなく着たり，姿勢も少しもきりっとしたものがなかった。

しかし，その表彰を手伝っている数名の女子高校生のコンパニオン達の歩き方，姿勢，表情などには感心した。彼女達は５０ｍプールの端から端まで表彰状やメダルを持って歩き，角を曲がり表彰台に向かう。そして，順番に表彰状などが渡しやすいように，複雑に位置を変わる。その時のひきしまった，そしてなごやかな態度は大会そのものさえきりっとひきしめた感じがした。

後でわかったのであるが，このコンパニオン達を指導されたのは私の尊敬する先輩であった。その先輩は，この大会で表彰の部門を担当され，それをどのようにやるかいろいろと考えられたそうである。そして，まず，今年のロス・オリンピックの表彰の場面をビデオテープに採って研究されたとのことである。そうしてみると，表彰式にかかわる人達の歩き方，曲がり方，階段の登り方，姿勢などがいかに型にはまっているかに気づかれたそうである。その上に，表情や感情が表現され感じのよい表彰式がなされていたということであった。ついで，オリンピックの後，テレビ放送もしていた日本選手権（水泳）の表彰式もビデオに採られたそうであるが，これはその姿勢の悪さ，歩き方の不ぞろいなどひどいものであったということである。

今年のオリンピックの開会式の行進で，日本選手団の歩き方は堅苦しくて，もっとアメリカ選手団のように解放的に，というような意見を読んだことがある。しかし，日本の選手だって，その開会式をお祭りとしてとらえるなら，もっとにぎやかに陽気に歩くことだってわけないだろう。解放的で陽気に歩くことだってわけないだろう。解放的で陽気にやっているといわれる

外国の人達でさえ，きちっとやらなければならないところは，型にはまり整然としているのである。日本選手団の歩き方は，今日本からも失なわれつつある一つの型の表現であったと思う。

☆　☆　☆　☆

この先輩とは石井義章さんのことである。石井さんは，大会の中での表彰をどのように位置づけるか，どう演出し盛りあげていくかなどを，綿密に研究・工夫されていたのである。その成果の一端が，この大会でも発揮されていたのだ。

なお，この時，表彰台に立った一流選手の何人かは，その後，オリンピックに行っていて大麻を吸ったり，日本に持ち帰ったりしたことが明るみに出た。表彰を受け持つ演出者達は，心をこめ整然とした表彰をやられているのに表彰台に立った選手がそのような問題を起こしていて残念なことであった。そのとき，規律ある整然とした日本のオリンピック入場行進を笑い，やゆしていた多くの新聞が，今度は，「甘えがある」「規律がない」と選手達を批判していたのもおかしなことであった。

さて，ユニバシアード開催の本年を迎えて私は，平石康君と共に，石井さんにスカウトしていただいて表彰部門のスタッフに加えていただき，国旗の担当となったのである。

日本では，国旗に対する敬愛の気持ちは失なわれているように思えるが，今でも国旗掲揚で国際問題にまでなったこともある。テレビも，クローズアップするときがあるし，掲揚のときはみんなが国旗に注目する。私達は緊張もしていた。

6月23日　打ち合わせが，兵庫選手権の行なわれているポートアイランドプールであった。石井さんはどこで手に入れられたのか，『国旗の知識』という，国旗の取扱い方や国旗についての話が書かれた冊子を手渡してくださった。この本によって私は，日本国旗であまり問題にならない旗の裏表とか上下とか，各種の模様の意味など初めて知ったことが多かった。

この時は，場内にどのように掲揚するかがまだはっきり決まっていなかった。ポールに揚げていくのか，バーにつり下げるのか，どこでやるのかなど，これから石井さんが交渉してくださることであった。この日は，表彰授与の手伝いのほか，国旗の持ち方，折りたたみ方など実習した。

8月14日　立命館大，神戸商船大の水泳部員の何名かも加わって国旗掲揚の練習をした。平石君と私は，主に指揮者で，実際に旗を運んだり，揚げたりするのは学生諸君であった。国旗の保管場所や我々の控室はプールサイドの一番隅の小さな部屋であった。そこから，国旗を持って，階段を上がり，二階正面の通路の端で待機する。表彰のファンファーレと共に，ハンドルを回してワイヤーを捲くもの，三位までのそれぞれの国旗を持っている者3人，補助者1人，そして指揮者の計6人が，通路を行進して，反対側にある掲揚場所まで行く。メダル授与が終わって，「ユニバアシアード讃歌」が流れだすと，ハンドルを回し，ワイヤーが捲かれ，とりつけられて

いるバーが揚がっていく。表彰選手が場内を1周して，退場すると，降納する。というような進め方を練習した。

単純なことではあったが，整然として，そしてミスのない国旗掲揚となるよう細かいことまで実際にやってみた。レースでは，めったにないけれど同タイム同着ということだって起こりうることである。そのときは，どうするかなど，いろんな場合を予想して万全の注意をはらった。

さて，いよいよユニバシアード本番であるが，遠方を口実に欠席がちであった私より，国旗掲揚の中心になって指揮をしてくれた平石君の方がよりくわしい記録を書くことと思うので，私はいくつかの感想を書くだけにしておきたい。

- o プールの中でははげしい闘いがくり広げられていたが，表彰は整然としていてなごやかなものであった。選手と観客と，そして役員とが，健闘を讃えあい，喜びあい，心を通わせる場となっていた。これらは表彰主任として計画し運営されていた石井さんの力によるものであった。
- o 表彰部門の中には岡田重義君もおり，ペラペラとしゃべれる英語で表彰選手を待機させたりして，心強いことであった。こういう表彰部門の中で私は気楽に仕事をやらせてもらっていた。
- o ついうっかりのミスは許されないことであった。表彰選手の順位，国名，国旗，国旗の裏表などは何度も何度も確かめた。旗の上がる寸前まで確認していた。
- o 大会の一番目の表彰で，優勝した国の旗がなくて大変あわてたけれど，後はスムーズに無事にやれたと思う。学生諸君もよく動き　きちんとやってくれた。
- o その国の国旗を揚げるくらいなら，演奏の曲目も，その国の「国歌」ではいけないのだろうか，と思っていた。
- o 日の丸は，競泳の最終日に2位でようやく一度あがった。やはりなつかしい，あたたかい旗であった。
- o テレビ中継を見ていた家族が，国旗掲揚のとき，帽子の先端がちょっと出ていたと言っていた。帽子の先端どころか，誰の目にもつかないようなところで，走り回り駆けまわって，この大会を支えていた人もたくさんあった。私にとっては，よい夏の経験であった。

「ユニバーの思い出」

（昭40T13）丸 山 昱 也

ユニバーシアードが過ぎて4ケ月。健忘症の私ですが未だ記憶に残っていることは2つの事

柄。

それはレバノンからの選手のことと，橋本力さん（昭３０Ｔ３）の奮闘振りであります。

私が役員として参加したのは８月２５～２７日の３日間だけで，「記録係」がその仕事でした。細かい大切な仕事は橋本さんとその他のよく慣れた人達がされ，「記録員」初体験の私達はコンピューターからアウトプットされた記録紙のコピイと配布の段取りをプールサイドのクーラーは入っているが，なにせ多勢の人間の出入りする蒸し暑い部屋で行ないました。

１００ｍ男子自由形予選は８月２７日の９時５０分からでしたがその直前，９時半頃に私は，「記録の方は居ませんか？！」という殺気立った女性の声に廊下へ呼び出されました。
まだ２日目のせいでしょうか皆さん方は（私も含め）とても殺気立っていたのです。

廊下へ出ますと，色の浅黒い中肉中背の好青年とその殺気立った女性が並んで立って居ます。

「この方の出場時刻は分りませんか？」

「（……ソンナアホナ……）この人の選手団の役員さんに尋ねて下さいっ。（ナニイウトンネン，ソンナ基本的ナ事柄ナンカ昨日ノウチニ各国ノ役員ニ文書デ通達済ヤ。ケッタイナ事ヲ云ウナ！）」

「それが分らないんですよっ。」と，えらい剣幕である。

聞くと，こうです。彼はレバノンからのたった一人の水泳選手で昨日（２６日）午後３時頃に選手村へ到着し，何故か知らぬが未だ自国の役員に会っていないとのこと。

えーっ，レバノンから？　あのレバノンから……？衝突，抗争，内乱，爆発，テロ，無法及び狂気の渦巻くあのレバノンから……？

私は感激しました。もともと感激性である私は手嶋忠之君（４１Ｓ）をオーブンで小焼きにしたようなハンサムなレバノン青年の手を握り，おおよう来たなァ，と思わず播州弁で叫んでしまったのです。傍の殺気立っていた彼女（通訳嬢でした。）は思わず笑ってしまいましたがちゃんと英語に直して彼に伝えてくれました。

彼は１分４秒なにがしかのタイム（私のベストと同じです。）で予選落ちでした。

次は橋本力さんの獅子奮尽振りです。先輩の働きには全く頭が下ります。記録係のボスとして翌日のプログラム作りで毎日が午前１時，２時の働き振りです。それも大会中だけでなく大会の３週間位前からこの程度の執務時間と聞き御健康が損なわれないか，と心配でしたが，今はもう大丈夫でしょうか。

あっ，国旗がない

（昭53P26）平　石　　康

私たちは，女子１００m決勝を学生コンパニオンといっしょに，祈るような気持ちで見ていました。というのは，この決勝レースに残っている国のうち，２枚も旗がなかったからです。何といっても，予選１位で通過しているオランダの旗がなかったのです。けれども，プールサイドでの私たちの祈りにも似た念力も及ばず，あれよあれよというちに，オランダのファンペンタムは，強豪のアメリカの２選手をおさえて，圧勝してしまったでは，ありませんか。

とにかく国旗が届いたのが，決勝レースの1時間前，点検が終わったのが，３０分前，決勝のリストと見比べて，この日だけで3枚も旗がありませんでした。幸い，近くの体操会場やフェンシング会場から，２枚は何とか，工面しましたが，オランダの旗は，どこの会場にも，ありません。そうこうしているうちに，決勝レースは，始まってしまったのです。

国旗がないと，表彰式はできるはずはありません。急きょ，大会本部へ電話をしていただいたんですが，なかなか旗が届きません。待つ時間は，長いものです。水泳会場は，冷房が入れてありませんでしたので，冷や汗やら，暑いやら，汗だくだくです。玄関で，待っている間にも，決勝レースは，どんどん進んでいきます。もし国旗がなかったら，「みんなで，紙に色ぬって作ろうか。それとも，フランスの国旗を，縦にしてあげよか。」コンパニオンとの冗談が，本当になってしまいました。

待つこと３０分，やっと届いた旗を，とんでもって入り，ほっとして，ふくろをあけたまでは，よかったのですが，届いた旗は，屋外用の，横に二つひものついた旗でした。水泳会場では，旗の上に1本，ポールを通すための袋があり，そこにポールを入れて，旗をあげていました。しかし，これを揚げないと，全ての運営が滞ってしまいますので，揚げないわけには，いきません。旗をセロテープで，ポールにひっつけ，なんとか落ちないようにしました。とにかく，「急げ，急げ。」でそれが，勢いっぱいだったのです。

そして，表彰式が始まりました。何といっても初日の，最初の表彰です。満員の観衆，各国の選手，記者，みんなが注目しています。「それでは，選手の栄誉を祝し，国旗を掲揚いたします。国旗掲揚台をご注目ください。」全ての目が，国旗に集まる瞬間です。ユニバシアード賛歌とともに，旗がゆっくりあがっていきます。アメリカの国旗にはさまれて，オランダの国旗があがりました。全員の割れんばかりの拍手，本当に，胸をなでおろしました。

しかし，どこでもれたのか，その日のＮＨＫのスポーツニュースで，「どうしたわけかオランダの国旗がなく，近くのフェンシング会場から借りてくるというハプニングがありました。」

と放送しているではありませんか。少々，サイズが小さかったぐらいで，うまくいったと思っていたのに，ガックリきてしまいました。余計なことを言うなと思う反面，さすが記者だなと感じました。

なぜこんなことが起こるのか，不思議に思われる方も多いと思います。普通は，エントリー国，全ての国旗を用意しておくのが本当なのですが，旗は，入賞しそうな国の分しか用意されてなかったのです。ですから，次の日も，決勝リストを見ながら，ない旗を借りに右往左往することになってしまいました。さっそく次の日は，２００ｍ自決勝です。しかしオランダの国旗は，どの会場にもなく，東京から新幹線で，3時に到着するということで翌日は，なんとか間に合いました。

案の定，ファンベンタムは２００ｍ自も優勝し，またまた，その日のＮＨＫニュースで，「今日は，真新しく用意された国旗が，彼女を祝福していました。」と皮肉っぽく言っています。本当に，言わなくてもいいことを，私たちにとっては，追い討ちをくらったようなものです。幸い，オランダからの抗議もなく，事なく運営が進みましたので，ほっとしています。

ビオンディの世界新や，目移りするハイレッグカットの水着，いろいろ書きたいことはありますが，他のみなさんに，お任せしたいと思います。

とにかく，いろいろな人との出会いが，自分にとってすごくプラスになったと思います。

水　　球

（昭５３Ａ２６）　酒　井　正　人

今年度ユニバーシアード神戸大会において，幸運にも水球の競技役員をする機会を得た。目の前で世界の一線級のプレーが見られるのは，またとないチャンスである。

今大会は，アメリカ，ソ連，カナダ，中国，イタリア，韓国，ユーゴスラビア，グァテマラ，日本の９カ国が参加したが，決勝は，ソ連とユーゴで行なわれ，接戦の末，ソ連が優勝した。日本は5位と低迷したが，それでも目前での全日本チームのプレーにはさすがに目をみはるものがあった。

さて，試合の結果は，ともかく，8日間の競技期間中には，ユーモラスな，また何ともいえない微笑ましいエピソードにもいくつか出くわし，試合の強烈な印象とは反対に，ユニバーシアードというひのき舞台の裏側をかいま見た気がした。

では，ここにそのいくつかを紹介しよう。

今大会で何よりもおどろいたことは，外国選手の背の高さだ。特に，アメリカ・ソ連・カナダ

イタリアなどは，２ｍ級の選手が何人もいる。その中で逆にひときわ小柄なのがグァテマラの選手たちで，なぜか非常に親近感を覚えた。グァテマラは中南米の一小国で水球の実力は論外だが，とにかく愛きょうがあり，われわれ競技役員にも常に笑顔をふりまいていた。

何試合目かは忘れたが，グァテマラの試合の時に，とにかく一勝だけでもしてもらおうと，選手ひとりひとりにかぶとを作ろうということになり，女子競技役員を中心に紙で大きなかぶとを折り，選手に手渡したところ，グァテマラの選手も選手で，何とそのかぶとを選手紹介の時に全員頭にかぶりプールサイドに並んだのだ。その光景は見ていて本当に微笑ましい限りだった。後日談だがその中の何人かは試合中もかぶっていたとか。

競技期間中，私は他の２人と共に，受付案内係をしていたのであるが，一番困ったことは，何と言っても外人客の応対だ。水球というマイナースポーツの窓口なので，そうたびたび来たわけではないが，それでも何人かは尋ねて来た。

会場には，もちろんボランティアの通訳がいたのだが，常にその場にいるわけではなく席をはずしていることもしばしばであった。また，彼女（ほとんどが女性であった）たちの胸には自分の通訳のできる外国語だけを明示したプレートがついていて，その言葉以外は通訳できないのである。

その時は午前の第一試合が始まる前であったが，入口にいた通訳の方から，ある男性の外人客がカナダチームの監督を尋ねて来られたので，呼んで来てほしいと依頼され，私ははや足で，試合前のウォーミングアップをしているチームの監督らしき男性をプールサイドに見つけ，かけ寄ったが，そこはさてどう話したらいいものやら，すらすらと英語が出てくるはずがない。そこで周囲を見回したら，ちょうどＥＮＧＬＩＳＨと書かれた名札をつけた女性がいたので，用件を伝え，通訳をお願いした。やれやれ，ほっとため息をついたのもつかのま，驚いたことに，彼女は何も言い出さずにじっと考え込んでいるのだ。そして，私に「えー私，わからないわ，少し待っていてください。だれか呼んで来ますから。」と言うなり，その場を去って行ったのだ。私はあ然としたが，彼女を待っていることもできず，とにかく単語の羅列やジェスチュアーで用件を伝え，客の所まで案内した。

競泳の中継でも通訳が通じなかった場面があったようだが，これではどちらが通訳かわからない。が，しかし言葉というもの，いざとなればそれなりに何とか通じるものだとも思ったのであるが，それは少し楽観しすぎるのであろうか。

さて，最後にもうひとつエピソードを書こうと思うが，競技日程も進んでいくうちに，各国選手たちもわれわれに慣れてきて，いろいろ話をするようになってきたのだが，その中からひとつの合い言葉のようなものが生まれてきた。それは「チェンジ」という言葉で，その意味の

通り，物と物とを交換することだが，これは互いに持っていないものをほしがるという自然の摂理とも言うべきことで，他の会場でも見られた現象だと思う。実は私もこの一言でモスクワ五輪に関係するかわいい子ぐまのバッチを手に入れたのだ。

バッヂと言えば，この手で１０数個も外国のバッヂを帽子に付けていた人もいたが，見てみると，外国選手とすれちがうたびに「チェンジ，チェンジ。」と言いながら手を出しているのだ。だが，それもまだかわいい方で，ソ連の某選手などは，暇があったら自国から持ってきたバッヂを袋いっぱい持ち歩き，日本人に「チェンジ，チェンジ。」と言い回っていた。これがあの華麗なプレーを見せる選手かと思うと信じられなかった。また役員の中には，あのユニバーの帽子を選手に持っていかれた人もいたようであるが，彼の場合は，「チェンジ」ではなく，「ギブ」であった。

事前の研修期間も入れると，ユニバーに関係した期間は半年近くあったが，過ぎてみれば早いもので，数々の楽しいエピソードも今ではとてもなつかしく思われる。

今後，神戸で世界大会が開かれることは，しばらくはないと思うが，その世界大会で競技役員として参加できたことは，貴重な経験であった。その道の人とも数多くのコンタクトがとれたし，何よりも，世界のトップレベルのプレーを目の前で見ることができたのだから。

神戸ユニバーシアードに参加して

（昭５９EⅡ３１）金　一波

８５年，夏 世界のトップスイマーが，ユニバーシアード神戸大会に参加すべく神戸ポートピアプールに集結しました。

モスクワオリンピック，ロサンゼルスオリンピックとあいつぐボイコット合戦によって，ほぼ１０年近くにわたり実現できなかった，米・ソを中心とした，自由主義，共産主義両陣営のトップスイマーによる直接対決が，この大会で実現することになりました。大会前から米，ソを中心とした各国は，オリンピックレベルのトップスイマーの派遣を決定し，大会は，いやが上でも世界の注目をあつめるビッグイベントとして大きなもり上がりを見せていました。

この大会を直接運営する兵庫県水泳連盟も早くからこの大会の準備をはじめ，幾度もリハーサルをくり返し，来たるべきビッグイベントに備えていました。私も，水泳界にたずさわっている，一水泳人として，このビッグイベントに何らかの形で参加し，世界の水泳界のレベルを，この目で見てみたいと願っていました。そこへ突然，中央本部の方から今回のユニバーシアードにおい

て，ＤＰＲ・ＫＯＲＥＡ（朝鮮民主主義人民共和国）のナショナルチームの強化コーチを引き受けてくれるないかという，願ってもない話がふってわくようにやって来ました。

もちろん，仕事の段どりも，すべての予定もキャンセルし，要請を引き受け，８月上旬，ＤＰＲ・ＫＯＲＥＡチーム来日とともに，チームに合流，選手村入りして，大会に備えることになりました。大会前までは，役員でも，雑役でも，とにかく参加できればと思っていたのが，ナショナルチームのコーチとして，競技に参加し，世界のトップと競えると思うと，天にものぼるような気持でした。まして，水泳のコーチを職業としている自分にとっては，突然，他のスポーツで言うなら日本シリーズや甲子園ボウルに出場できるような，身にあまる光栄な出来事でした。それと，今回，アメリカチームの総監督として来日するフイリップ・ダー氏とは，氏のスイミングクラブと私がかって所属していたスイミングクラブとが姉妹校である関係から長年おつきあいをさせて頂いており，ユニバシアードというビッグゲームで互いにナショナルチームをひきいて，再会できるという最高の機会に恵まれました。とにもかくにも，天にも昇る気持で選手村に入り，競技にむけての生活がはじまりました。しかし，現実は，さすがに厳しく，まず直面したのが，やはり，政治的な問題でした。３年後にソウルオリンピックを迎えるという状況の中，マスコミは，南北問題をむりやりドラマチックにとらえようとするし，南北両国の指導陣も過度の政治的配慮で，ピリピリした状態でした。そんな緊張感が何となく選手にも伝わり，他の国の選手たちが，オリンピックとは又，一味ちがった自由なふんいきの中で，あたかも競技をエンジョイしている様子とはまったく違ったふんいきで試合に臨んでいるのが，ひしひしと感じられました。

しかし，日が立ち，選手村の生活にも慣れるにつけ，やはりスポーツをする人間同士，硬さもしだいにとれ，政治的な緊張感は，試合に対する緊張感へとかわっていくのが，手にとるようにわかっていきました。

今回，ＤＰＲ・ＫＯＲＥＡ競泳チームは男子２人，女子２人の小人数のエントリーでした。ましてや，アメリカ等，自由主義陣営が参加する国際大会にはほとんど初出場にも等しく，選手の状態は想像していただくなら，あたかも神戸大チームが全日本インカレに出場している姿を思いうかべて頂ければ，だいたいの感じは察して頂けることと思います。

しかし，小人数のチームとはいっても，世界レベルにはまだ遠いですが，そこそこに高いレベルの選手たちばかりで，中でも，女子平泳ぎにエントリーしているキム・ヨンスク選手は，前のアジア大会で日本の長崎宏子についで２位という実績があり，今回も上位入賞を目ざす実力を充分そなえていました。このような状況から考え，今回私のコーチとしての役割は技術がどう，調整がどうという前に精神面のテーパリングを，選手たちにスムーズに課してやるという

ことでした。

幸にも，今回のユニバーシアードには，石井，橋本両大先輩をはじめとし，たくさんの淩泳会の諸先輩が役員として活躍しておられ，又全日本チームのコーチや選手にも友人が多数いて，私自身，わりとゆとりをもって大会にのぞめたおかげで，初めての国際試合参加にもかかわらず，割と冷静に選手をコーチングすることができました。

また，フイリップコーチを通して，アメリカチームやアメリカが調べた他国のデーター等も，教えてもらい比較的スムーズに調整することができました。

また選手たちもたいへん素直で，自分が国家の代表であるという高いプライドと同時に少しでもすぐれた選手から常に何かを吸収しようという姿勢で，私の言う事以上によくやってくれました。

そのおかげで，私のつたないコーチングにもかかわらず，キム・ミョンスク選手が２００ｍ平泳ぎで堂々６位入賞，他の選手も決勝進出はなりませんでしたが，ナショナルレコードを記録するというりっぱな成績をおさめることができました。又，私自身コーチとしてすばらしい経験をつむことができました。特に，キム選手の２００ｍ平泳ぎ決勝では，自分の選手が，国際試合の大舞台で，世界の強豪相手に戦うという最高にエキサイトする時間を味わうことができました。

レース前のウオームアップを見ていると，となりのコースで，すでにレースをおえた，マット・ビオンディやミハエル・グロス　ジョン・シーベンたちがダウンをしている。これからレースにのぞむキム選手より，コーチの自分のほうが上がってしまい，ストップウォッチをもつ手がふるえてくるのがよくわかりました。召集席にキム選手をつれて行くと，そこには，文字通り世界№１のブレストストローカーと言われるブルガリアのタニア・ボゴミロワ等，マスコミを通じてしか知りえないスーパースターたちが，レース前の張りつめた緊張の中で，激しい闘志を燃やしていました。不思議とそのような緊張感に身をおくと，さっきまでのうわずった気持は消え，めらめらと闘志がわいてきました。

私は自分に言い聞かせるように，キム選手に何度も，恐れることはない，勝てるんだ，何も不安材料はない，自分のレースさえすれば充分世界に通じると言い聞かせました。そして，最後に綿密なレースペースの確認を行ない，キム選手をレースに送りだしました。

ピストルが鳴ってレースが始まると，以外に冷静にレースを見ることができました。確実にラップを読みとり，ストロークをはかっていましたが，ラスト２５ｍになってレースが，ソ連，イタリアの両選手とせりあいになり６位に入賞するかしないかというレース展開になるにしたがい，心臓の鼓動は高まり，その場から逃げ出したいような衝動を覚えるほどエキサイトしました。

ゴールの瞬間，私の目には確実に６位に入ったと映りましたが，電光掲示板が映るまでは，自分の目を信じることはできませんでした。そして掲示板が６位を示した時，私の体の中で感動とい

う熱い血がかけめぐりました。レースを終えたキム選手を迎え，彼女の健闘をたたえていると，フイリップコーチや全日本の佐藤監督，同志社の岩岡コーチを初め，全日本のメンバーたちが祝福の声をかけにやってきてくれました。このすばらしい瞬間がある限り，自分は水泳の世界から一生離れられないと思いました。又，もっともっと勉強し，真に世界のトップに立つようなスイマーを育成し，もっとすばらしい感動を味わいたいと決意を新たにしました。

その他，選手村の生活では，前出のフィリップコーチの教え子であるジョン・ミッカネン君（ロス五輪４００ｍ自　銀メダリスト）や，マット・ビオンディ，ジョン・モフェットら，アメリカのスーパースターたちを紹介してもらい，いっしょにケーキを食べにいったりし，私のつたない“はったり”英語で，彼らと語らうことができました。彼らと話して感じたことは，けっして彼らは泳ぐ怪物でも哲人でもない，ごく普通の大学生だということ。また彼らもそれを充分意識しており，日本の選手が少し速くなるとスター意識をもつのとは大違いで，実に謙虚に自分自身を冷静に見ていること。もうひとつは，水泳を非常にｅｎｊｏｙしている事であり，彼らのｅｎｊｏｙは，苦しい練習に打ち勝ち，勝利する喜びを味わう過程をｅｎｊｏｙする事であり，日本でいう軟弱同好会が言うｅｎｊｏｙスポーツとはまったく価値感が違うということ。そして，自分自身の人生を豊かにするため，水泳をしているという強い意志が感じられました。現在，日本水泳界再建のため，数々の指導者がアメリカの技術を学ぼうとしていますが，肉体的な問題や練習方法より以前に，精神面を勉強しなくてはいけない事を痛感しました。

その他，もっともっと書きたい事がありますが（ユニバシアード　夜の遊びの部等）伝統ある凌泳誌を私のつたない文でけがしては申しわけないので，このへんで終らせて頂きます。最後にユニバシアードに協力なさった凌泳会の諸先輩，現役諸君ごくろう様でした。それにもうひとつ，いつかは国際試合に神大の水泳部から参加する選手が出ることを信じ，今年は時間のゆるす限り後輩を厳しく指導しようと決意しております。

「そんなこと言わずに　またやりましょう！」

（Ｔ３５　４年生）　中　川　善　雄

僕は水球の補助役員として働いた。名古屋遠征から帰ってくると，すぐに仕事がはじまった。それからの約２週間，毎日プールへ通った。楽な仕事も１日中やれば結構疲れるものだ。寝不足になり頭痛が直らなくなったりした。しんどかった。でも，大義名分のおかげで合宿はサボれた。これはラッキーだった。そして，やはり何よりもラッキーだったのは，数多くの経験ができたことだ。

とにかく，あれ程多くの外国人と真近で接するのは初めてのことだった。困った事はやはり言葉の問題だ。いざとなると英語は思い浮かばない。そして，言葉がみつかっても，それを口にするのにあれ程度胸がいるとは思わなかった。外人に世話をしてあげた時に相手が“Thank you”と言うのに対して“You're welcome”と答えられるまでに3日程かかってしまった。もっともこれは人によるようで，Tくんはいきなり「ねぇねぇ」と友達になろうとしていたようだ……。

各チームを大会前からずっと観ていられたのだが，それぞれのチームカラーは予想されたものと全く同じで，皆，国民性が良く表われていた。

例えば，イタリアはルーズ，ソ連は秘密主義（彼らは他チームとの合同練習を絶対しない）そして，何よりも日本の生真面目さだ。

開会式の前々日，コーチの方が選手に説教された。

「おまえたち，やらされてるつもりかよ！　だったら　やめちゃえ　やめちゃえ」

やはり全日本のチームでも同じようなことが言われていることに感心してしまうと同時に，こんなこと言うのは日本くらいのものだろうとも感じた。

無論，強くない日本チームは，必死に練習しなくてはならなかったのだが，何か悲愴感が漂っている。それにひきかえ外国チームではまさに「選手の自主性を重んじる」方針がとられているようで，練習も楽しそうだった。しかし，練習中にコーラを飲む奴がいたのには本当にまいってしまった。

1日中プールにいると，接するのは選手たちと，ひと握りの役員だけ。常に図体のでかい連中を見上げながらの生活だった。だから，あの頃はラッシュアワーの電車に乗ろうものなら，「なんて小さい連中ばっかりが，ひしめき合って集まっているのだろう」などと思い，エコノミックアニマルという言葉を連想し，異和感と嫌悪感を覚えたものだ。

以上，外国人に関することだけを選んでみたが，やはり，忘れてはいけないことは，世界の一流選手のプレーを生で見れたことと，たくさんの人達と親しくなれたことだ。これらは，何よりの収獲だったし，今の自分にとても大きな財産として残っている。

また，忘れられないことといえば，ガテマラのことがある。そして，これら以外にも本当にたくさんの出来事があったし，それらのすべてが僕の中に良い思い出として残っている。ユニバは本当に素晴らしいものだった。あの時，村山さんは「こんなしんどいことは，2度とやりたくない」とおっしゃったが，僕はこう答えた「そんなこと言わずに，またやりましょう！」

「ユニバーシアードに参加して」

T36（3年生） 井 口 恵 理

ユニバーシアードでは，競技役員として，水球の記録係を担当させて頂きました。最初のうちは，見る事する事が新鮮ではりきっていたのですが，連日の猛暑の中で，選手の手から手へボールを目で追うこと，国際試合だけにミスのないように注意することが長時間続き，担当試合数も多かったので，さすがに4日目ぐらいには，ぐったりと疲れてしまいました。でも，水泳連盟の方々や大先輩の方々に接することができ，励まして頂いたり，楽しいお話を聞かせて頂いたり，色々と勉強させて頂きました。また，水球というスポーツを通して，全国から関係者が集まり，大会を成功させるという目的のために協力しあうことの素晴らしさを感じたと同時に，その1人として参加できたことを光栄に思っています。

そして何といっても忘れられないのは，最終日の決勝戦と表彰式でした。主任の方の「これが最後の試合です。がんばって下さい！」という言葉で，セクレタリーの間をものすごい緊張した空気が流れ，その中でくりひろげられる試合は，1点入れて1点返す白熱したものでした。そして表彰式が始まって整列した時，明日からは，朝早くここに来ることもないし，この制服を着ることもないし，記録用紙に選手の名前や時間や得点を記入することはないんだなあと思うと，ほっとしたような，切ないような複雑な気持ちになったのを覚えています。

結局，記録係としては大きなミスもなく，無事終えることができ，お世話になった方々に大変感謝しています。ただ，私が4月に入部したばかりで，もっと早くに水球に触れて知っていたなら，1つ1つのＰＬＡＹをもっと深く見たり，理解できたのではないかということが心残りです。私にとって切り離すことのできないスポーツ，水球について，これからも勉強していきたいと思います。

ユニバーシアードを観て……雑感

（昭15学9） 吉 野 　 栄

神戸で開催されるユニバシアード。 之迄に行はれた多くの行事は概ね成功裡に終っている。果して今回は？ こんな懸念が去来した。俊泳会並に現役部員の面々も準備に多忙，本来の水泳の活躍はと，些か心配していました。曽ての日米対抗なぞ切符の入手に苦労したものです。最近のテレビで見るプールサイドの有様なぞ観客の少なさにがっかり，之では選手達も力が出ないのでは？…… だから今回のユニバシアードでは貧者の一票にでもと“何日が良いのかな”

と石井義章君に相談した処，“ソ連のサルニコフの出場する１５００ｍ，米ソの決戦が面白いのでは”　“それもそうだ”と最終日の３０日に決めました。7月下旬頃切符を求めましたが未だありました。やはり余り人気もないのではと気掛りになりました。それでも東京での１００ｍフリーでの世界記録の出現，それに参加者のプロフィルも世界一流だし何となくわくわくして来ました。酷暑続きの夏でした。ユニバシアードの開会以来バレーに於ける日本勢の活躍等で人気も大変高まって来ましたし。さて水泳で日本選手の活躍，毎日のテレビ画面では失望の連続でした。昔は大試合でこそ抜群の力を発揮していたのに，敗戦のショックかと考えましたがフジヤマのトビウオの時代もあったのですが日本人の生活の向上の為かファイティング精神の欠除しか考えられません。水連サイドの選手への甘やかしが最大の要因と思えます。

愈々３０日，競泳の最終日です。ポートライナーで中央広場駅に下車，指定席ではないのでプールへ急ぐ様は今も昔も変らず妙にわくわくしたものでした。上々の人気で当日券も早々に売り切れたらしく，定刻既に満員，だが座席数しか切符を売らなかったらしく，何とか席を見付ける事は出来ました。さて観客はと見渡すと我々世代の人間は殆ど居らず，大部分が小・中学生，即ちスイミングスクールの生徒らしく，それと父兄達。見物の少ないのを懸念して事務局が手を廻したのかと思いました。それでも少年達は嬉々として試合を見ていましたし，何日の日にかプールに自分の姿を眺めた事でしょう。試合については全てが驚きでした。体位の向上もある上に，一年中インドアで泳いでいる為でしょう，記録は御存知の通り。昔の様に水と格闘する姿など見ることもなく実に巧みに軽々と泳いでいました。曽ての対校戦に見る様な悲壮感はなく，各国の選手達は夫々たのしそうにやって居り，国旗の掲揚などにも昔程の感激はない様子でした。それでも幸い女子２００ｍバタフライで高橋嬢が2着となり水泳唯一の日の丸を揚げて呉れた時は思はずジンとなりました。それにしても外国勢は強かった。日本の選手のタイムも相当向上しているのですが，女子の記録が曽ての男子オリンピック記録に匹敵するのですから。

次に試合運営について少々。機械化が完璧でラップタイムにしても計時員がストップウォッチをもってうろうろする姿もなく，又着順なども全てタイムに従ったのではないでしょうか。時間通りに全てがスムーズに運んでいましたが裏方の御苦労もさぞかしと思いました。予選と決勝との間に相当の時間差，即ち予選は午前で終り，決勝は夕方からでした。その間時間つぶしをするにしてもポートアイランドではね。その為弁当持参の小生は飛込の練習を見乍ら何とかがまんしましたが，むし暑い事！！！　勿論真夏ですから外も暑いには違いないですが。　同行の孫娘も相当退屈して居りました。プールの水温は２６.１度（５０ｍプール）ダイビングプールは２８.１度，室温は３０度　湿度７５％と発表されていました。試合見物中はそれ程苦痛ではないのですが，ポロの試合にでもして呉れたらと残念でした。

競泳の選手にとっては予選，決勝の間は出来る丈，長い方が良いのでしょう。

それにしても見事にユニバシアードを完結させたボランティア達の御苦労，菱泳会からも相当の人が参加されたのですが，心から感謝と賞さんを惜しみません。全てが終りました。再び本学の水泳部の活躍に一層の努力を注がれる事を希望して擱筆いたします。

現役部員寄稿

脱〝できるだけのこと〟

主将　三　好　　岳

“できるだけのこと”　というものほど，物事の向上を妨げるものはないと，私は思う。“できるだけのことをやる”という決心そのものが，すでに自分自身で限界を作っているのであり，“できるだけのことはやった”という反省は，あとにつながっていくものを何も残さないからである。つまり，ふだんなにげなく使うこの言葉は最も安易な逃げ道であり，そこにいつも逃げこんでいる限り，それ以上の発展を望むことはできないと思うのである。

昨年の我々神大水泳部は，できるだけのことしかやらなかったのではないだろうか。“できるだけのことをやって負けるのならしかたがない”。という半分あきらめたような考え方が常に支配的であったように思う。これでは戦わずして負けている。それどころか，“できるだけのことをやった。”　という小さな自己満足をいつも逃げ道として持っており，実際にそこへ逃げこんでしまうので，負けても大した悔しさも感じず，次にはなんとかしようというような気持ちも生まれてこない。あとは，ただの悪循環で，その結果，我々は次々と負け，多くのものを失ったのである。

結局，できるだけのことをやっていて，何も得ることはできなかったのである。　“できるだけのことをやっている”と自分たちに言いきかせてきたがために全く飛躍できなかったのである。今，我々に最も欠けているのは，不可能に挑戦しようという姿勢ではないだろうか。そのための根性ではないだろうか。もちろん人間であるから，それぞれの時点において，ほんとうに，これ以上はできない，という限界が存在するのかもしれない。だが，決してその限界を自ら設けて，それに甘えてしまってはならないのだ。“できるだけのことをやる”などという情けない言葉は忘れてもよい。捨ててしまえばよい。そして，これからは，できる以上のことをやってやろうという気持ちを，不可能に挑戦する姿勢を持つのである。大きなことをやって，他人をあっと言わせて驚かせるようなヒーローに，自分がなるのだという気持ちを持つのである。そういう気持ちをみんなが持って切磋琢磨すれば，我々は強くなることができると信じる。

そして，昨年多くの試合に負けて，神大水泳部もまた，挑戦者となった。今年は多くの目標があるのである。昨年までのような守っていくものではなく，勝ちとっていかなければならない目標である。中には不可能と思われるような目標もあるかもしれないが，挑戦者はその目標を達成して初めて満足を得ることができるのであり，それ以外ではなんの喜びも得ることはできない。だから我々はやらなければならない。挑戦者として，なんでもやらなければならない。苦しいかもしれないがそれでもやる。部員一丸となって勝ちとっていくのだ。今こそ我々神大水泳部が試される時であり，大きな力を出さなければならない時である。そのことを各自胸にたたきこみ，今シーズンをすばらしいものにして欲しい。

競泳におけるチームワーク

競泳主任　島　崎　昌　彦

競泳は個人スポーツであり，ただのスポーツなのだから，個人のために，個人が速くなればいいのであり，そのための練習なのだから個人の思うようにやればいいのである。

では何故，神大水泳部の名において集団で活動するのか。個人専用のプールが無いから，単に仲間が欲しいから，練習方法がわからないから，いろいろあるだろうが，要するに何らかのメリットがあるわけである。ならばgive and take の原則に依り，何かしら与えなければならない。それは円滑な活動に協力することであり，自分の知識，技術を披露することであり，また，それらのことは延いては自分のためになるのである。「円滑な活動に協力する」というのは非常に様々な内容を含むことを注意しておきたい。練習や試合のことのみならず，一団体としての運営についてもである。ただし一部の部員の決定に絶対服従すべきだというのではない。何か考えるところがあっても黙して従うのは円滑な活動の妨げにこそなれ，決して全体のためにはならない。

個人の体力や性格，生活リズム等，あらゆる特性を踏まえた，その個人のためだけの練習をするのが最も効率的なのだろうが，それは大学のクラブにおいてはほとんど不可能である。ただし，若干の効率を犠牲に，タイムの代わりに得るものがあるはずである。もちろん，可能な限り効率を上げてタイムを追うのが当然であるが，集団の一員としてそれをする以上，円滑な活動に協力するのは必要条件である。

決して，限界を定めてしまうのではない。考えられる限りの可能性は追うのであるが，個人の努力で個人のベストを出すのではなく，全員の努力で全員のベストを出すということである。

ただし，我々は神大水泳部のみならず，ひいては全世界に至るまで，より大きな様々な集団

の一員であることを忘れてはならない。

水球バカのすすめ

水球主任　原　田　久富美

水球バカとは，水球が頭から離れず，ついつい水球について考えたり，あるいは水球をやりたくなってしまう人達のことである。彼らの頭の中には，クラブすなわち水球という公式が成り立つ。それ唯に力は分散されず，ブレーキもかからないので，水球に没頭出来る。このことは水球をやる上で，大変重要な姿勢だと思う。“水球をしたい。”という熱意や“水球が好きだ。” という思い入れが，不可能だと思いがちなことも可能にしうる力を生みだすのである。 水球に対する情熱が，水球のつらい側面や競泳，勉強との葛藤，その他の障壁を超えるエネルギーとなるのである。この水球のすすめは男子諸君ばかりでなく，女子部員，マネージャーを含めた神大水泳部全員に対する，“水球を好きになろう，水球をもっとやろう” という呼びかけである。“他に何も考えず，他に何も求めず，水球へと飛びこんでいこう”というメッセージである。我々の反省力はこのような姿勢にはブレーキをかけてしまいがちである。しかし水球バカ達が本当の意味において，水球を盛り立てることが出来，そして，神大の水球を良い方向へどんどん導ける力をもっているのであると思う。

体育会クラブとは

主務　近　藤　直　明

体育会クラブと同好会サークルの違いとは何であろうか。ある者は「練習の厳しさ」を，またある者は「勝利を目指すか否か」をあげるかもしれない。中には「就職の有利さ」などという情けないことをあげる者もいるかもしれない。しかし，最も重要な違いは，「ＯＢ会組織を含めた運営体制がしっかりしているか否か」であると私は信じるのである。

このプールを自由に使って練習し，試合に出場し，その他種々の活動を行うにあたって，ＯＢの方々や，大学当局から有形，無形の援助をどれだけ受けているか，考えてみてほしい。それらの援助に応え，また，さらなる援助をいただくためには，それ相当の義務を果たさねばならない。援助をあおぐべきＯＢ組織を持たない同好会では，怠慢な運営も許されるであろうが，体育会では，常に信用を保つよう努力していかねばならないのである。

私は，主将の統率するのはＭｅｎｔａｌな面，主務の統率するのはＭａｔｅｒｉａｌ な面である

と思っている。しかし，高校までのクラブでは，Material な面はほとんど顧問教師や学校側が面倒を見てくれていて，選手はただ泳いでいれば良かったためか，Material な面はとかく軽視されがちなのである。「面倒なことはしたくない，自分一人いいタイムが出ればそれでええんや。」これではスイミングクラブと同じである。しかし，ここは大学体育会，部員自身の手で運営がなされているところである。無責任な仕事をする部員がいれば，必ずどこかでダイレクトにその被害をこうむっている部員がいるのである。そして，それが許されてしまうようなチームは，慣れ合いの集団でしかない。Material な面がきちんとできなければ，Mental な面がうまくいくはずがない。土台となるMaterial な面がしっかりしていなければ，チームの強さも砂上の楼閣に終わってしまうだろう。

現在の水泳部のMaterial な面の運営体制は，あまりに貧弱である。チーム運営に対する部員の認識不足が，主務一人に任せておけばよいという風潮を生み，主務は雑務に追われ，毎年「ことなかれ」的に年度行事をこなすのみで，長期的な視野にたった計画など，ほとんど実行する余裕もない。こういった体制は，改めていかねばならぬと思う。女子マネージャーについても，その歴史はまだ１０年そこそこで，その位置づけもまだ確立されたものではないと思う。私見を申せば，女子マネージャーが主務になっても構わないし，男子の専業マネージャーが現れても構わないと思うのである。

Material な面の重要性と，その運営体制の改善の必要性を部員全員に提言して，拙稿の締括りとしたい。

「あらあら日記」より

現役部員一同

もうすでにお馴染みとなりました，水泳部誌「あらあら日記」からの抜粋です。今年は，少し趣向を変え，日記の流れに沿って抜粋をしてみました。

o水泳に対する考え方について議論がなされました。

１／１１………大学生になって，自分で酒を飲んで遊べるようになった以上は，親の援助に甘えるわけにはいきません。自分の責任でもって生活する以上は，水泳は道楽以外の何物でもありません。道楽というのは，何もお遊び気分で水泳をするというのではなく，あくまで

もサイド・ワークだという意味でいっているのです。………大学生である自分には，もっと他にすることがあると思うのです。（1回生）

1／14………僕も去年の夏同じ様なことを考えていました。別にゲロしてまで練習してコンマ何秒か速くなったからいうてどないなるねん，はっきりいうて俺は楽しく泳ぎたいんや，そう思っていました。………（1回生）

1／16………1ばん問題なのは，義務で練習してる人が多すぎる事です。練習に来ないとおこられるから来る。それではあかんと思います。………みんなが“水泳好きや／”と思い出してクラブに一生懸命出てくれるようになるのを待っています。（2回生）

1／23………前にだれかが，楽しけりゃいいんじゃ……と書いてましたが，たしかに，そういう時期があってもいいけど，それで4年間すごすと卒業する時に空しくなるんじゃないカナ……？と思います。（3回生）

1／30………たしかにK君のいうように，ぼくたちがやっていることは，“Dôraku”なのかもしれません。ぼくは，高校のときも，K君や，他の部員のひとのように“水泳人”として生きたことがありません。ですから，水泳人じゃない人から水泳人を見たことを書きます。………（トップスイマーの親戚の女の子の事，中学時代に全国3位まで登りつめたテニスの事など）………ぼくがいいたいことは，せっかくこんなきたない（？）プールに集まっているのだから，動機や目的が何であれ，楽しくやりたい。本当の意味の友情を深めたい。ということです。中学の時のぼくや，さきほどの彼女のように，自分というものを見失なってしまうと，あとでふりかえった時，とりかえしがつかなくなるんじゃないですか？（2回生）

2／2………この「水泳部」もやっぱり変わったなーとは思いますネ。……はっきり言って，金さんたちの学年の人や長崎さんたちの学年の人と，今の1，2年生とは，クラブに対する考え方や，それを表す方法が，やっぱり違ってるんじゃないかと思います。（3回生）

2／7………この秋から冬にかけては，みんなあまりクラブに来なくて，あきれてしまいました。………クラブに入った以上練習を一生懸命やって，クラブを盛り上げていく“責任”があると思います。今のうちのクラブにはその“責任”を果たしていない情けない人々がたくさんいます。（2回生）

2／7………僕はクラブに来ていない人について文句を言う気持ちはありません。むしろ，来たくない人は来なかったらええんやと思っています。………来たくない人がイヤイヤ来ると，かえって，まじめにやっている人に悪影響を与えると思うからです。（1回生）

○1人の1回生が，次の文章を残してクラブを去りました。

2／9………ぼくは今とても悩んでいます。………これまで体育系のクラブには無縁で，これからほんとうにやっていけるのか，これ以上やっても無駄ではないかといろいろ考え悩みました。………結局自信がないのです。

○この言葉が，しばらくの間，同回生の合言葉となりました。例えば，

7／16………私は今悩んでいます。ところで皆さんのところにもユニバの“委嘱状”が届いたことだと思いますが，○○はそれを“いぞくじょう”と読み，××は“いたくじょう”と読みました。

○水球論争がおこった時期もありました。

4／30………水球なんてスタートラインは同じのはずです。それなのに1ケ月，3ケ月，半年と経つにつれて差が生まれてきます。この差はいったい何から生じてくるのか？………大きな原因はやはり練習量と，ヤル気やあつかましさなどの精神面のことだと思います。

（3回生）

5／2………同時にスタートしたスポーツで，実力差がついてくるのは，練習量や“ヤル気”によるものも大きいでしょうが，そのスポーツに対する“天性の素質”というものの影響もあるのではないでしょうか？　（2回生）

5／4………ポロに素質が必要だということについては，確かに“適性”のようなものが存在すると思います。でも，それを補うことのできる“努力”もあるはずです。そして，何よりもみんなに考えて欲しいのは，その“努力”をしなくてはいけないということです。

（3回生）

5／9………素質といっても，「人よりとびぬけて上達が早い」ようなプラスの素質もあれば，「人よりとびぬけて上達が遅い」ようなマイナスの素質もあると思うのです。

（2回生）

5／9………神大が闘うレベルは私たちが，“最善を尽くせば”絶対トップレベルにまで届くことができるのです。………クラブでトップになるのは難しいかもしれんけど，“6番目を目指す”努力はやってみてもいい。だめだと思ったら，とにかくポロを知り，ポロを楽しめめばいいやないか。　「5回生」

5／10………初心者として水球をやる者が多いこのクラブで，入部している者みんなに水

球のおもしろさをわかってほしいと思います。そう願っています。　（３回生）

５／２４………人っていろいろと頭で考える。で，悩んで悩んで考える。でも答って出てこない。………人って行動して評価を得るんやし，失敗してもそれで学ぶものだと思います。

（４回生）

５／２９………先程も同回生同志と話をしていました。………我々二人が集まりさらにもう一人の同志が集まれば決まったようにそこへ話がいきます。まだ２回生になったばかり，何でも可能性があります。　（２回生）

○この頃から１回生が日記に登場。そのためかどうか，内容が軽くなりました。

６／４………ちょっと寒くなってきたので，おんもに出てきます。にゃん　にゃん　にゃん　にやぁぁぁぁん。ごろ　ごろ──っ　ごろ…　ひなたぼっこ──　（１回生）

６／１５………みんなコンパをなめたらあかん！　（２回生）

７／１　………「へたなブレスト数かきゃ進む。若さの証明ピッチ泳法」　（２回生）

７／１　………コンパは祭です。祭は全員が主役です。全員で，自分の持ってる“体裁”というカラを脱ぎ捨てて，酒ではなく，コンパそのものに酔える，それでこそもりあがるのではないでしょうか。　（２回生）

７／５………『○○と○○のコンビはクラッシュ・ギャルズに似てる』

（追伸）　ダンプ松本は××さんだそうです。　（　？　）

７／１９……エントリー代が全然ないので，毎日毎日少しずつＮさん家のみどりワニが売られて行きます。８億匹が６億匹に，６億匹が４億匹に……。ワニがいなくなったら増えなくなるから，２００匹だけ残しておくそうです。　（２回生）

８／１０……浜田くんが１′００″を切ることは心から信じていたんです。………でも，やっぱり乙女の恥じらいというものがあるでしょ………？　（４回生）

８／１７……川上景子でーす。助かってしまいました。私，人間ちゃうで！　（　？　）

○シーズンも終わりに近づくと，例年のように多くの反省が書かれます。

８／１７……大学に入って，いくら泳いでも６分（４個）に壁があったことは，自分でも信じられなかったし，とっても悩みました。悩みすぎると悩みが大きくなって，どうしてこの大学

に入ったんだろうなんて事まで考えました。大体，そういうことって，入る前に考えるべき事なのに，私の場合，何も考えてなかった。それに，周りが考えさせてくれなかった。

（別者注：私が悪うございました。）　　　　　　　　　　　　　　　　　　（１回生）

９／９…… 名古屋→ユニバ→インカレ　超多忙であった日程もよーやく終わりました。今はひたすらねむりたいと願う毎日です。　　　　　　　　　　　　　　　（３回生）

９／１２……インカレで景ちゃんと美和ちゃんがベストを出したそーですネ。やったね。さすがインカレ娘ですねえ。尊敬だぁ。　　　　　　　　　　　　　　　（１回生）

９／１７……関ポロＪｒ．優勝！でした。とうとうやりました。とりあえず今年競泳で次々と失っていったカップが１つでも増えてうれしいと思う。　　　　　（３回生）

９／１９……俺はいったい何処へ行ってしまったんだ？　自分のしなければならない事はわかりきってるくせに，逃げてばかりいる。水が恋しいのはわかるけど，そのせいばかりじゃないはずだ。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（３回生）

９／２３……水泳を始めて２年目の僕が，それこそ十何年も水泳をやってる人と対等に張り合おうなんて，全く無暴というものです。やっぱりみんなはえらい！　今シーズンはそのことがよーっくわかりました。　　　　　　　　　　　　　　　　　（２回生）

９／２５……インカレの事をちょっと書きたいです。正直いって，あのタイムに満足ではありません。あんな肩身のせまい思いをした試合はありませんでした。………結局，インカレでとても屈辱的な思いをしてしまって，棄権をまで考えてしまった経験を，これから将来においてもう一度くり返すことは，どうしてもいやなので，せめて，来年は，大学から背泳に変えたという甘えはいっさい捨てて，インカレで恥ずかしくない程のタイムで泳げるくらいになるまでは，もう，出ない………。　　　　　　　　　　（１回生）

１０／４……１回生，単位は取れる時に取っとけよ！　　　　　　　　　（２回生）

１０／９……なんかこの日記，後悔の肥え溜めになってますね。私は反省は好きだけど後悔は嫌いです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（２回生）

ｏついにシーズンオフ。オフの後はクラブへの出席率が下がります。

１０／１８……Ｓｅａｓｏｎ　ＯＦＦ　の間はみんながんばって，やりたいことをするんだーッ!!　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（２回生）

１１／６………駅伝大会　３位　おめでとうございまぁす！　　　　　　（２回生）

１１／６………駅伝を休んだ方々，特に１年生の皆さん，行事まで無断で休み，そのうえな

ーなーで許されるやろ，という体質を改善して下さい。　（２回生）

１１／9………“おれたちは水泳部。練習はしんどい。目標は遠い。けれどどうして続けることができるのか。じんわりと心に浮かぶ悦びをかみしめることが出来るから／”（３回生）

１１／１１……あっという間に六甲祭が終わっちゃいました。全然思ってたより盛り上がらず，私個人としては大きな疑問をかかえています。どうしてこんなになっちゃったんでしょうねえ。ちょっと考えなきゃいけませんよ。ホント　ホント　（２回生）

１１／１１……練習に参加できるのは水泳部員である以上の権利です。しかし，同時に，今回の学祭等の，練習に関係はないが参加しなければならないものに出席するのは，義務だと思います。義務を果たさないものに権利はあたえられないはずです。　（２回生）

１１／１３……水泳部のやっている水泳というのが結果のスポーツだからと言って，“練習の参加は自由である。とにかくそいつが速ければ良い”というのでは成り立たないと思うのです。………水泳部はサボる者は許さないと思う。しかし，勉強で将来来れなくなる者でも，水泳に情熱を持ち，水泳部に関心を持つ者なら許した。その門戸を開けた。その区別があいまいになってきているのではないでしょうか。　（３回生）

１１／１４……今クラブでやっている事が無意味だと思うなら，練習がつまらないと思うなら，出てきてそれを言ったらいい。クラブがおもしろくないなら，出てきて自分の好きな方向へ変えたらいい。　（３回生）

○２回生が部室を占領するようになり，日記も落書き帳と化しました。

１２／２０……地獄土産におがんでおけよ。雨のしずくか血か汗か。濡れております，唐獅子牡丹　（２回生）

１２／２０……もうこのノートは「あらあら落書きノート」になってしまいました。張本人の一人として反省し，かつ誇りをもっています。　（２回生）

１２／２０……あらあら日記は脳死判定を受けました。　（２回生）

１２／２０……難しい話をぐちゃぐちゃ書くんやったら，面と向かって話し会うたらええんとちゃうか。毎日，顔会わせるやつもおるねんから，言いたいことあるんやったら，直接話したらええんとちゃうか。　（２回生）

２／３…………土曜日は何ケ月振りかで２回生１３人がそろいました。なんちゅうバラバラな学年や，とあらためて感じました。　（２回生）

２／１７………新入部員の中に水球をしようと思って入って来る者が今までに多くいただろう

か。クラブにいる以上，水球にも参加する，という税金が，重税になった時，1年生はやめていく。　（2回生）

2／19………私は，冬真面目だと言われたことがある。冗談じゃない。夏と冬と変わらずやっているだけだ。　（2回生）

以上が，あらあら日記からの抜粋です。昨シーズンは，例年になく，多くのことが日記に書かれました。今シーズンはどのようなことが書かれるのでしょうか？　この日記が，神大水泳部の発展に寄与することを願います。

（解説　中塚泰弘）

「卒部の辞」

昨年度は，人数は5名と少ないものの，個性豊かな先輩方が卒業していかれました。吉川晃司の親衛隊を名乗り，六甲警備隊を名乗り，狂乱の酒宴と，ケガと，入院と，免停を繰り返し……我々後輩に多大なる影響を与えて下さいました。4年間，どうもご苦労様でした。

（P34）川原田　貢

わけもわからない間に，大学でも水泳を続けることになった。一年目，偉大なスプリンターとの競争だった。2年目，絶不調，3年目，復活なる。4年目，悔いののこるシーズン。とにかく4年間，六甲台に通いつづけ，泳ぎ続けた。酒をのみ続けた。先輩ともケンカした。愛の鉄ケンも受けた。ほかのことはすべて中途半端だったけれど，胸を張っていうことができる。「私は水泳部でした。」と。

四年間大学で学んだことは本当に少ないけれど，水泳部で学んだことは，いままでの人生の中で何ものにもかえられないものであると断言できる。そして“自分に自信を持つ”ことが出来たことが何よりも大きなものである。

最後になりましたが，たった五人の同期生，あたたかく見守ってくれた先輩方，バカな私についてきてくれた後輩，本当にすばらしい4年間どうもありがとうございました。

—後輩へ—

クラブは勝敗が全てではない。どうか水泳部員であったことを胸を張って言える自信を身に

つけて下さい。

（Ｅ３４）黒川　良介

体をまともに鍛えよう，ハードな所に入ろう，全く知らない世界に入ろう，人間を磨こう，などなど……大学入学当時，一人の少年は漠然とこのようなことを考えて，水泳部の門を叩いてしまった。初期の目的は達成できた。水泳部は十分，自分の期待に答えてくれて，決して裏切りはしなかった。経験者に追い着き追い越すことが至上命令となった少年は，語学をさぼり，仮進にもなった。しかし，残念ながらその目標は最終的にはとても達成されたとは言えない。まともな経験者と肩を並べる程には至らなかった。結果が全ての世界で，いかに“苦労した”とか，“しんどかった”とかいうのは問題にならない。（本当のスポーツマンはその手の事は，会社訪問でも何でも口にしないものである。）とりあえず，初期の目的は達成したと自己満足している。その本当の結果はこれからでるものと思っている。

もう水の冷たさも，夏の暑さも，あの感動的な試合も，クラブの予算がどんなものだったかなどということも，みんな忘れてしまった。だから何にも言い残すことなどないのだ。俺を見送って好きな事を考えてくれたらいい。会費は払うぞ。幸運を祈る。

（Ｌ３４）太田久美子

不思議といえば不思議なことである。「女子マネージャー」という，いかにも“日蔭の身”的地位を，この，目立ちたがり屋で我の強い私が，４年間，常にハッピーな気分で心から満喫してきたのだから，そして，水泳という，ことに水球という，“超マイナー”なスポーツを，この，誰もが認める超ミーハーな私が，こんなにも愛し，夢中になり，心酔するに至ったのだから。

しかし，実はこれも“マイナーであるがゆえ”だったのである。

“一般人”にはわからないこのスポーツのルールや面白さ，“素人”には決して理解できないこのスポーツの真髄（！）を，この私だけはちゃあんと知っているんだぞおー　という，何とも心地よい満足感と誇り，“スペシャリスト”なんだという，ほとんど自己陶酔に近い自信，これがあったから，女子マネージャーも決して“日蔭の身”には終らなかったのだ。（少なくとも，自分自身の意識の内では）

水球の普及を願わないわけではないけれど，どちらかといえば，いつまでもこうやって独占できるマイナーな存在であってほしい……これが本心です。

あまりにもミーハーな内容になってしまい，ひんしゅくを買いそうですが，最後に，何よりも私を盛り立ててくれたのは，先輩方と同輩たちの「久美子ッ！」と後輩たちの「久美子さんッ！」

の声の心地よい響きであった，ということに，あらためて感謝したいと思います。

（Ｐ３４）木村　典子

私は泳ぐことが好きです。この一言を心から言える今の自分を嬉しく，又誇りに思います。水泳，そして神大水泳部に対して，私は４年間ずっと片思いだった様な気持ちがします。いくら頑張ってもなかなか認めてもらえない。臆病者の私はのめり込んで自分が傷つくことを恐れ，消極的な態度で"水泳"に接してきたところもあったように思います。もっともっと水泳を，水泳部を好きになれば良かった………。

４回生になって教育実習，教採等で満足に練習ができず記録もいいものではありませんでした。それでも昨年は私にとって最高のシーズンでした。７月末まで全く練習に参加せずに突然やってきた私を暖く迎え，一諸に練習してくれた後輩の皆さん，試合等で応援して下さった先輩，４年間一諸に過ごした同輩達に心から感謝します。

これからも，私は水泳に又神大水泳部に対し片思いを続けるつもりです。後輩の皆さん，形式は問いません。すばらしい神大水泳部を築いていって下さい。

（Ｔ３４）小島　みか　　　　　「親愛なる　みなさまへ」

本当に楽しかったあの頃，……というのが実感です。ボーッとして何も考えてないように見えたけど，実はいろいろ観察していたンだゾ。

とにかく後輩は本当に可愛くて，こんなに可愛く思うと自分が"オバサン"になってしまうのではないかと自粛したくらいです。

たまにクラブに行っても，私がいなくてもちゃーんとやっているのを見て，ほっとすると同時に，ちょっぴり寂しかったりして………。

水泳部においての人間関係は，今から思うとすごく大変でしたが，それが自分にもプラスになっているのだと思います。それぞれの学年が時代の波になっているのです。

これからは OL のみかちゃんが，みんなを猫可愛がりしてあげるから，ついてきてね。

現 役 部 員 紹 介

毎年おなじみになりました。2回生による現役部員紹介です。聞くところによると，このコーナーを手がかりにして，神大のチーム分析をしているチームもあるそうな。試合場ではわからない，現役部員のナマの生態を，とくと御覧あれ。

4 回 生

◇島崎　昌彦（競泳主任）；A３５（農工）：自短：神戸高

かつては“ヤッくん”と呼ばれていたのだが，最近では，ただ単に“運転手”とか，“車”と呼ばれ，彼がバイクで来た日は誰も見向きもしないのに車で来ようものなら，クラブ中のヒーローに成り上ってしまう気の毒な彼。コンパでもビール一杯で即死してしまう彼は，ただただ飲まず，そして死亡者の運搬役をかってでるのである。

◇田中　真司：Ｔ３５（機械）：自短，ＧＫ：竜野高

僕は姫路の田舎から出てきました。高校時代サッカーをやっていたので水球のゴールキーパーとしては活躍していますが競泳の方はもう引退です。何はともあれもう年です。1日クラブで練習したら6日間は休養が必要です。「三好さん，わしに多くを望むのはまちがいや〜〜。」それから僕は下宿をいじくるのが大好きです。ビデオも買いました。下宿あらしの徳永らは最近守沖の下宿に行くので大助かりです。

◇中川　善雄（学連委員）：Ｔ３５（電子）：自長：雲雀丘学園高

比類なき容貌。いつも渋めのアイテムを無難にこなし，その頑固なまでのセンスはスイムパンツにまで至っている。例年どおり，昨年も，三商大の８００米で古林杯を獲得，学連関係でユニバーシアード競技役員，六甲祭のバレーボール大会，駅伝と自他共に認める活躍ぶりで，戦力や活気が少々消沈気味の今期の我が水泳部は彼の名誉の上に成り立っていると言っても過言ではないだろう。人生の花道を悠然と歩いてきた彼は他人の批判にも厳しいものがある。初泳ぎの際の“それは育ちが悪いんや“という一言に，中川家のスケールの大きさを感じてしまう。

◇浜田　昌己；Ｂ３５（商）：自短：三国丘高

この人は昨シーズン，１００Ｆｒで1分を切り，一躍アイドル的存在となった。彼の泳ぎは実にゆっくりしたピッチであるが，なぜか速く泳げるという。一見しただけでは，一生懸命泳いでいるのか，手を抜いているのかわからないほどである。バイト収入の少ない彼の稼ぎ口はパチンコであり，その強さは大変なものである。今シーズンはパチンコ同様，寒さに強くなって，練習を乗り切ってもらいたいものである。

◇原田久富美（水球主任）；Ａ３５（農化）：個：明石北高

彼の名は"たぁみねぇたぁ"である。あふれる彼のパワーの前には，スペースバンパイヤであろうと，バタリアンであろうと彼の敵ではない。どんなに狂乱の酒宴が催されようとも，ボロの練習の時には必ず蘇生し，限りなく迷惑に近いパワーをふりまいてくれるのである。

じぇ〜ったいに弱点のなさそうな"マラダ"さんだが，意外と弱点は多い。１ℓの日本酒が胃袋に入るや否や，だらしのな〜い顔でわめいた後，下宿生の部屋のゴミとなるのである。

◇日比　勝己（学連委員）；Ｊ３５：平：池田高

黙々と練習をこなす彼には，地道な努力が感じられます。しかし，彼の観察眼は非常に鋭く，たまに口からもれるその指摘は，適確以外の何物でもありません。我々としては，その観察眼の対象となることは，ぜひとも避けたいものです。そんな彼も，その適確な判断力を生かして水球では鮮やかなプレーをみせ，レギュラーとして，重要な役割を果たしています。今シーズン，より一層，そのプレーに磨きがかかることを期待します。

◇三好　　岳（主将）；Ｊ３５：個：兵庫高

彼こそが大きな丈夫な身体で神大水泳部を支えている主将なのである。そのタフさといったら，彼に"カゼをひくやつはミーハーだ"と，のたまわせるほどのものである。また，その酒量たるや，杯単位でなく，缶単位で，バケツ又はドラム缶で計らなければならぬほどの底なし胃袋＝ウワバミである。酒に弱い筆者など，彼が酔っぱらっているところさえも，見たことがないほどである。主将という重責を負いながらも，今シーズンは学生最後の年として，大判振舞をしていただきたいものである。

◇安井　啓史；ＥⅡ３５：自長：舞子高

出会った時にはいつも，にこやかに私達を迎えてくれる，優しいお兄さまのような先輩で

す。折をみては，モロゾフのプリン，コーヒームース，ｅｔｃ……と甘党の私達には，涙のちょちょぎれるほどうれしいものをプレゼントして下さいます。

トレーニングに関しても，Ⅱ課程という時間的制約を受けながらも，人一倍熱心に取り組んでいらっしゃいます。その姿は，時間的制約を全く受けない私どもには，大いに見習うべきであります。ね，安井さん！「なんだよ，おめぇ〜。」

◇吉岡　成人；Ｔ３５（土木）：蝶：港高

“何してんのー？”　“だからぁ〜〜”でおなじみの成人で〜す。今度４回になった僕の大好きなものは，ＰＥＲＳＯＮ’Ｓと芸能界，それにセーラー服。去年の六甲祭で“本田美奈子は俺のモンじゃあ”って叫んじゃったし。そうそう六甲祭と言えばまた事故ってしまった。　ぐす，ぐす………。最近は４－３－２回生のＮ・Ｓ・Ｍラインも安定してきたし，あとは去年のスランプを脱する為４度目の夏に向けて，また，なると海流で１コースひとりじめっ！

◇林　磨智子；Ｐ３５（初等）：自長：大手前高

とてもやさしい先輩で彼女のそばに居るとホッとします。練習熱心で女子面のリーダーとして女子面を支え，ひっぱってくれます。彼女の特技はいつでもどこでも熟睡できることです。合宿の時など，２回生を筆頭に甘い物の誘惑に次々と負けて夜を過ごす中，フトンの中ですやすや眠る彼女をみると，何故かとても安心してしまいます。一瞬にして眠ってしまう集中力が最後のシーズンに全開されることを期待します。

◇三住　千里；Ａ３５（農化）：平：竜野高

わたし，ミ・シュ・ミ。人は私のことを“ヤスイ”って呼ぶの。彼とわたし，そっくりなんやからやって。
わたしね。昨年は，女子の中で平泳ぎを泳ぐの，１人だけやったから，たいへんやってん。でも，チョコレート，いっぱい食べて，とってもがんばったんよ。チョコレートは，わたしのエネルギーのもとなの。でも，合宿のときは食べすぎて動けなかったの。どうしてかなって思ってたら，なんとチョコレートの赤ちゃんがいることに気づいたの。うれしいわ。冬になってからは，ちっとも練習にいってないけど，それはね，チョコレート中毒になっちゃったからなの。だって，チョコレートがおそってくるねんもん。

3 回 生

◇有利　英明；Ｅ３６：平，ＧＫ：長田高

彼は，私の小中高の先輩である。この人の後輩であるということは，同回生の徳永氏の後輩であるということとともに，迷惑しているのである。おかげで私は，入部当初から，“ヘンなヤツ”という色めがねで見られるようになってしまったのだ”。

“神戸はせまい”というのが彼の口ぐせだが，これは単に彼の体と声が大きく，種々雑多な女性と至る所であいびきをしているのを，目撃されてしまうだけなのである。今年は，我がチームの新しき守護神としてがんばってもらいたいものである。

◇後呂　忠詳；Ｅ３６：平：明石北高

２回生コンパトリオのひとりとして去年の宴という宴を盛り上げなされたのがこの人全国国公立大学選手権大会１００ｍ平第２位の実力者，後呂忠詳であります。練習などにおきましても，ブレ面であるにもかかわらず，一番早くメニューをこなしておしまいになり，「大損!!」とのたまわれ，後輩のみならず，同輩までの尻をおたたきになり神大ブレ面の強化に努められるといった優しい面もお持ちでいらっしゃいます（？！）。
今年もクラブの期待にそむくことなく，ますますのご活躍をと願っております。
なんてねっ!

◇木下　憲臣；Ｐ３６（初等）：自短：姫路西高

今シーズンは，公私ともに一大転機。今や，姫路のヤンキーは大きく変貌をとげ，他人のみるかぎり，くせのないいい青年になったことはまちがいなし。ところが，先日，「この時期（秋）になると，角刈りが恋しなるなあ」という言葉が，グロリアに乗り，六甲台を後にする彼の口から，大きなため息と共にもれるのを聞いた私は，彼の姿とのギャップに苦しむと共に，彼の後輩として過ごした１年間が大きな誤解の蓄積であったことに異常なまでの恐怖を感じてしまいます。

◇甲野　　賢；Ｓ３６（物理）：蝶：鳴尾高

神大のヘラクレスと呼ばれるほどの体の持ち主で，ＯＦＦの間のＷｅｉｇｈｔに命を懸けている。シーズン中は，“専門コンパ”と自称するほど，コンパに強い人で，彼の春歌，下ネタのバリエーションは数えきれない。しかし，プレ六甲祭の時，下ネタ芸を披露して，応援団の女の子に，「下品なおじさんネ」と言われ，ショックを受けるほどのナイーブな心の持

ち主でもある。六甲の山奥の飯場に住み，一種違った自己の世界にひたって，唐獅子牡丹を歌う彼の姿は，まさに日本男児である。

◇郡　幸雄；Ｔ３６（建築）：蝶：姫路西高

そよそよと風のふくプールサイド，ふりむけばコ・オ・リ。真夏のうだるような暖かさに挑むかのごとく涼しげな目。ビーチサンダルの上には，物干竿に勝るとも劣らぬほどにスラッとそびえたつ足……。そう，彼こそは，神大水泳部のバタ面を肩の上にのせているその人である。そのあまりの重さのため，少し足ぶみしてしまったとか……。さすがに練習は熱心で，昨シーズンなどは，目を線にして泳ぎまくり，そのものすごさに，マネージャーも涙を流していましたとさ。

◇近藤　直明（主務）；Ｂ３６（商）：自長：尼崎北高

高校時代のスプリンターとしての彼は，どこに行ってしまったのでしょうか。“えーっ，あれが近藤さん”と一瞬思った次の瞬間，私の目にはボールをもつ彼の姿がとびこんできました。“うーん，やっぱり近藤さん”。コンパが好きで，リートレ参加以来，異常にコンパ芸に燃える彼には，殺気を感じてしまいます。しかし，主務としての彼は，すばらしく活動し，彼をおいて他に，もう主務は考えられません。主務としての活躍を望む一方，今シーズンの一層の飛躍を期待したいと思います。

◇坂田　亨；Ａ３６（農工）：自長：加古川東高

「ねぇねぇ，いい服着てるねぇ。」「ボクねぇ，今日はねぇ，“おっしゃれぇ”になった教養部に行くからこの服にしたんですよぉ。」と先輩である三好氏に語りかけ，同一化をはかろうとする彼の勢いは，万年少年と異名を取る事をうなづかせる。ま，これはＯＦＦシーズンになってからの話であるが，シーズン中の彼は全く裏腹で，完璧な出席率，意欲的な態度，とても大学から始めたとは思えない………と言うと思ったら大まちがい！！！　中川氏と同じコースで泳いでいたと思うや，川原田氏の後をついていくのであった。そんな努力が実を結び，大ベスト続出の最大元気坊やである。

◇徳永　守；Ａ３６（農化）：背：長田高

この人はとてもやさしい先輩です。ポロの練習では，わざわざ下手な後輩と組んで，いとも楽しそうに，悠々と泳ぎ，練習後は後輩を引きこんでは，マージャンをさせてくれます。夜中

にわけもなく，電話で「集合！」と叫ぶこともしばしば。また，食べ物の好き嫌いも激しく，筆者はある時，この人に「からあげ，食べませんか」と言ってひどい目にあったものである。しかし，彼は昨シーズン，ベストを出し，バック面の中心人物としての才覚を発揮し始め，今シーズンの注目株として，期待されている。

◇中塚　泰弘；Ａ３６（農化）：平：富田林高

彼の朝は早い。なぜなら，彼の家は富田林にあるからである。

彼の昼休みは，短い。なぜなら，彼は実験が忙しいからである。人気のない部室で「へ」をまきちらしながら，もくもくと弁当を食べる。

彼の夜は，遅い。なぜなら，彼はトレーニングをしたあと家に帰り，レポートを書かなくてはならないからである。

コンパの彼は，おそろしい。なぜなら，酒の入った彼は，あまりにも狂暴だからである。

彼の姿は，たくましい。なぜなら，地道な努力の成果で，昨夏はついにベストの嵐を呼び起こしたからである。

そんな彼の姿に，我々はあこがれている。

◇森田　武士；ＪⅡ３６：コ：大和川高

“彼”と“コンパ”は，表裏一体である。Ⅱ課程に通う彼は，練習に参加できることが少なく，普段は影のうすい存在なのである。しかし，ひと度，コンパということになると，パワー全開。コンパ芸に燃え，コンパに青春をかける，その爆発パワーは他に類を見ない。今シーズンも新たなコンパ芸を披露してくれることを楽しみにしている我々なのである。

◇井口　恵理；Ｔ３６（建築）：マネージャー：京都教育大学付属高

マネージャーとして入部して約3ケ月。そのあらあらという間に，ユニバの水球の記録係という大役をやりとげ，その仕事ののみこみのはやさには，全く驚いてしまいます。Long面専門マネージャーとして，コツコツと記録をとり続ける彼女の姿と，部員への細かい気くばりには，いつも感謝しています。最近，課題に追われて忙しい彼女ですが，それでも部にやって来ては，汚い部室のおそうじをしてくれる“おそうじおばさん”としても，皆に慕われています。いつまでも，部のために貢献して下さいね。

◇加地　　恵：Ｊ３６：背：京都教育大学付属高

おじょーさまだとか，気品があるとか，同じ京女でもＥＲＩ先輩とは大ちがい（失礼！）だとか，いろいろ皆さんおっしゃいますが，確かに泳ぎにはどこか優雅さがありますけどね，そりゃあ，言葉のはしばしに気品が感じられますけどね。会話のレベル（良しにつけ悪しきにつけ），根性（練習中にみせる）は，どこから見ても，否のうちようがなく，神大水泳部ですよ。というのか，この2年間で，彼女はすっかり先輩方のビョーキが感染したのでしょうか。

昨夏は家が忙しくて，大変だったようですが，今シーズンはバンバン泳ぎまくって，ベストを出して下さいね。

◇高元　智子：甲南大（文）：マネージャー：神戸高

そこいらのバーで，ママをやってもおかしくない。これが彼女への第一印象。クラブでは，マネージャーとしてよくやってくれる彼女なのですが，ただ，スターターをして声をかけようものなら，我々は気抜けしてひっくり返ってしまいます。そして，もうひとつ。あるコンパで我々が制するのも聞かず，コップのビールを次々に空にして，あらゆる理性を吹っ飛ばし，からみ上手になってしまったという経歴があるのです。今シーズン，この状況が再び目撃されないことを願ってやみません。

2 回 生

◇植松　忠士：Ｔ３７（電子）：平：兵庫高

昨シーズン，ブレー面音楽隊の最後尾を泳いでいたポチとは彼のことである。シーズン初めは，フロガマのにおいの見張り番，忠犬ポチとして，我々の体を暖めることに生きがいを感じて，ついに頭からは大きなやりがいをつき出し，ユニコーンポチになってしまいました。

そんなポチであるが，彼の天敵はあの孫悟空こと「こずえ」である。顔を見るたびに何かと言いあっている二人を，私たちは腹をかかえながら見ているのである。

◇黒田　　茂：Ａ３７（畜産）：背：豊中高

動かないでっ!! 君の後ろには，あのスゴ腕狙撃者（スナイパー）“ブラウン運動黒田”が音もなく忍びよっているんだよ。だめ！ 振り向かないで！ 少しでも動くと，君の命はなくなるよ。奴のため息光線をうけてみろ。たちまち全身の力が抜けてあの世行きだ。どこへ逃げても無駄だよ。ゴキブリのように平べったい体は，どんなすきまにも入りこめる。もう，あきらめな。おっと，一つだけ方法がある。奴にビールの匂いをかがせてみろ，きっと死んだふりをするぞ。二次会が始まるまでに逃げるんだ！

◇竹本　和広：Ｔ３７（工化）：背：長田高

球技オンチの多い水泳部員の中でも，特ににぶいのが僕です。それだけでなく，性格も変態的で，クラブ一，下品なのも僕です。練習は嫌いではないのですが，何かと理由をつけてよく休みます。そのため，先輩方から非常にかわいがられているのです。

最近は同回生の守沖らとくだらないダジャレを飛ばすことに，生き甲斐を感じはじめています。こんな僕ですが，徳永さんの後ガマとして，バックに命を懸けるつもりです。

◇守沖　　敦：Ｊ３７：個：広島修道高

ここは梅田のディスコ「マハラジャ」のトイレである。そこに一人の少年がかけこんできた。全財産を身にまとい，生まれて初めてやって来た世界に彼はとまどうばかりであった。“わしは吉川晃司の後輩じゃ”この自信も，この都会の片隅では，彼の味方にはならなかった。

激しい音楽と，まばゆい光が，突如静かになったかと思うと，目の前には一人の“おばさん”が立っていた。「ねぇ，一緒に踊って下さらない？」“何を言うとんじゃ？”そう，彼の頭には“チーク”という言葉などあるはずもなかった。彼は“気を付け”の姿勢のまま，混乱してしまった。気がつけば彼は，“おばさん”の腕の中で果てていた。あまりにもダサい“早射ちあつし”の青春であった。

◇川上　景子；Ｐ３７（体育）：個：尼崎北高

臨時ニュースをお伝えします。生存者がいないと思われていた日航ジャンボ機墜落事故ですが，ただ今入りました情報によりますと，本日未明，室戸岬沖で女性が，巻き足をしながら水しぶきを上げて泳いでいるところを，漁師が発見，救助したところ，生存者の一人であることがわかりました。彼女の名前は，川上景子さん。１６才です。救助された時，景子さんは，『神戸まで泳いでいかないと，三好さんにおこられるんです〜っ。』とだだをこねていたとのことです。

◇村上　美和；Ｐ３７（体育）：背：天王寺高

初めて彼女を見た時，私は思わず伏し目がちの上目づかいをしてしまいました。これは，私が元町の高架下で強そうなヤンキーとすれちがうときにする目つきです。どうしてなのかはわかりませんが同回生の景ちゃんの下半身と彼女の上半身をあわせればプロレスラーの一丁あがりでしょう。逆に組み合わせればフツーの女の子ができるでしょう。（注　どちらの

場合も顔は除外します。本人のため。）

ありあまる腕のパワーをいかして昨シーズンより始めたパックはすでに男子選手を駆逐しつつあるのです。

◇植原こずえ：松蔭女大（文）：マネージャー：市岡高

彼女は部で，１，２を争うわがまま娘です。入った当初から２回生のような顔をしていばりまわし，数々の苦情にもめげず，我がままをつらぬき通し，自分の気に入らない仕事はまったくしませんでした。（今もそうです。）そんな彼女ですが，昼休みに神大の食堂までわざわざクレープを食べにくるほど，食べ物に関してはまめです。そのため，ホッペがますます垂れてきて４回生の三住さんの後をつぐホッペタばばあとしてみんなにいじめられています。

注：学部記号

L……文	P……教育	J……法	E……経済	B……経営
S……理	M……医	T……工	A……農	

昭和60年度活動報告

前年度，関西国公立戦Ｖ３，関西インカレ１部残留，そして全国国公立戦２位奪還など好成績を収めた神大水泳部は，関ポロ優勝，旧三商大戦で再び完全優勝など前年成し遂げられなかったことも目標に加え，新しくスタートを切った。

３月中旬より本格的な練習を始めたが，充分に泳ぎこむためのプールがないという苦しい状況の中で，大学の施設を使ってのウェイトトレーニング，サーキットトレーニングなど練習メニューに工夫をこらした。その後４月１日からは大分県住吉浜での春合宿を行った。それまでの泳ぎこみの不足を取り戻すべく，早朝ランニング及び午前・午後の２部練習で連日，距離にして，１0,０００ｍ以上の計画をこなしていった。ＯＢ金氏もコーチとして参加してくださり，抜群の環境で泳ぎこむことができた。

新学期が始まると，４月いっぱいは陸上トレーニングに週２回の泳ぎこみを加えて５月連休明けからの六甲台プールでの練習開始に備えた。本格的にシーズン・インしてからは，各自の力量に合わせて，２段階に組んだメニューで泳ぎこみをはかる一方，水球に関しても，毎週のように御影高・尼崎北高などと練習試合を組んで，実戦を想定して練習を行った。

このようにして，数々の目標を達成するべく，我々は夏に向かって突き進んでいったのである。

（三好　記）

4月 1～5日	春季合宿	大分・住吉浜リゾートパーク
5月　11日	新入生歓迎コンパ	六甲台生協食堂
5月　19日	褒泳総会	六甲台教官食堂
6月　2日	京阪神三大学戦	京都大学プール
6月 9・22・23日	関西学生水球リーグ戦	大阪市大プール
6月 10～15日	合宿	六甲台プール
6月　14日	関西選手権（水球）	ポートアイランドプール
6月　30日	兵庫県学生選手権	神戸市民プール（西代）
7月 13～14日	関西国公立戦	大阪府大プール
7月　21日	旧三商大戦	神戸大六甲台プール
7月 30日～8月 1日	関西学生選手権	大阪プール
8月 8～9日	近畿国立大学体育大会	奈良県営プール

8月14～15日	全国国公立大会	名古屋市瑞穂プール
8月　20日	京阪神三大学Jr・戦	京都大学プール
8月21～23日	水球合宿	六甲台プール
8月　24日	対大阪市大戦	大阪市大プール
8月20日～9月4日	ユニバシアード神戸大会(競技役員・補助役員)	
9月5～9日	日本学生選手権	川口西スポーツセンタープール 明治神宮プール
9月5～7日	東京地区ＯＢ訪問	
9月14～16日	関西学生水球リーグJr・戦	大阪市大プール
9月　22日	月見の宴	六甲台プール
10月 ～ 12月	関西地区ＯＢ訪問	
11月 9・10日	六甲祭	
1月　12日	初泳ぎ	県立健康センター(住吉)
3月　1日	4回生追出しコンパ	三宮「オンチ天国」

京阪神三大学戦

「今年の京大は強い」「今年の阪大も強い」そういう噂を聞いたような気がした。「でも，どうせ今年も神大(うち)が勝つやろ。京大も阪大も真剣に勝負して来やへんやろから。」　彼にとっては，試合の後に行われる水球の練習試合に，自分が出場するか否かの方が，重要なことであった。

試合が進行するにつれ，ようやく彼にも事態が飲み込めてきた。どうやら京大(テキ)はベストに近いメンバーをぶつけてきたらしい。８００Ｒのスタートの直前，彼は尋ねた。「今，点数はどないなっとんのや？」「京大と3点差や。お前がトップで帰って来やへんかったら，ちょっとヤバいぞ」しかし，ちょっとどころのヤバさではなかった。アンカーに引継いだ時点で，神大の3着は決定的だった。残された道は，阪大が1着を取ることだけであった。彼は，目の前を泳ぐ浜田氏のことも忘れ，コース台の後ろから大声で阪大の応援をしていた………。

結局，８００Ｒは阪大が1着となり，僅差で神大に優勝が転がり込んだ。まさに，昨年度の京大，阪大，神大の地位を象徴するかのような試合であった。

京阪神三大学戦は，唯一の公認対抗戦である。それなのに，試合後そそくさと帰ってしまうの

は，いつも神大ばかりである。折角の対抗戦なのだから，もっと京大・阪大と付き合って騒いでもいいのではないか。三校が全力を尽して勝敗を争い，互いのレベルアップをはかる。あるいは，全力を尽してコンパに臨み，コンパを通して互いに何か得るものを見出す。それでこそ対抗戦ではないだろうか。目的がはっきりしないままだから，あのボロボロの優勝カップを持ち回るだけの消化試合に終ってしまうのではないか。ビールが理性を奪いつつある頭で，彼はふとそんなことを考えた。

（近藤　記）

☆京阪神三大学戦　　6月2日　於　京都大学プール（５０ｍ）

・１００ｍ自由型

浜田	１－０３－６	2位
木下	１－０７－７	
田中	１－１０－６	

・４００ｍ自由型

近藤	５－０７－３	2位
中川	５－１６－１	
坂田	５－４６－７	

・８００ｍ自由型

近藤	１０－４５－０	
中川	１１－０９－９	
安井	１２－０２－２	

・２００ｍバタフライ

郡	２－３６－８	1位
甲野	３－４１－５	

・２００ｍ背泳

徳永	２－３６－２	1位
竹本	２－５２－９	3位
黒川	３－０１－１	

・２００ｍ平泳

後呂	２－４６－１	2位
中塚	３－００－４	
日比	３－０５－１	

・２００ｍ個人メドレー

原田	２－４２－６	3位
島崎	２－４６－６	
三好	２－５１－３	

・４００ｍ個人メドレー

三好	５－５８－６	1位
原田	５－５９－８	2位
有利	６－４９－８	

・４００ｍメドレーリレー

徳永・後呂・郡・島崎

４－３６－５　1位

・８００ｍリレー

近藤・原田・郡・浜田

９－３８－０　3位

総合

1位	神戸大	８６点
2位	京都大	８４点
3位	大阪大	３８点

関西学生水球リーグ戦

“関ポロに勝つこと”　神大水泳部が長い間抱いて来た夢である。そういう望みを胸に秘め今年も市大プールに乗り込んだ。初日は京教，立命戦，どちら共に快勝したものの今一つであ

った。今年は出来るだけ２年生も出るという方針で戦ったのであるが実力の差はまだまだあるように思われた。激しくポジションを争って全体的なレベルを持ち上げて欲しいと思う。
２日目市大戦，これは郡の速攻などで楽勝した。３日目，阪大戦，試合前かなりの緊張ムードが漂う。阪大はなかなか強いと思われていたからだ。しかし終ってみると完全に圧勝していた。実力的にもそれほど大きく隔っていなかったと思うのであるがそうなった。勝負とは実力，作戦，そして気魄，この三者により決るものなのだろう。そして京大戦，両者全勝どうしの最終戦を飾る試合だったが京大は実力，作戦，気魄，すべてにまさっているように思われた。力の差は歴然で"目の上のタンコブ"的存在の京大を今年も倒すことは出来なかった。神大は苦杯をなめ，また来年チャレンジャーとして優勝を目指さなければならない。　（原田　記）

☆開西学生水球リーグ　　6月9・22・23日　於　大阪市立大プール

神戸大	Q	立命館大
5	I	1
6	II	3
5	III	0
1	IV	1
17	計	5

1. 田　中　6. 中　川(1)　11. 浜　田
2. 原　田(4)　7. 島　崎(1)　12. 坂　田
3. 三　好(3)　8. 吉　岡　13. 有　利
4. 川原田(5)　9. 郡　(1)
5. 黒　川(1)　10. 徳　永(1)

神戸大	Q	京都教育大
9	I	0
7	II	0
5	III	1
6	IV	0
27	計	1

1. 有　利　6. 中　川(2)　11. 浜　田
2. 原　田(8)　7. 島　崎(1)　12. 坂　田(1)
3. 三　好(2)　8. 吉　岡　13. 田　中(5)
4. 川原田(4)　9. 郡　(1)
5. 黒　川(1)　10. 徳　永(2)

神戸大	Q	大阪市立大
5	I	1
9	II	0
2	III	1
2	IV	1
18	計	3

1. 田　中　6. 郡　(6)　11. 徳　永(2)
2. 原　田(2)　7. 浜　田(1)　12. 坂　田(1)
3. 三　好(4)　8. 島　崎　13. 有　利
4. 日　比(2)　9. 黒　川
5. 中　川　10. 吉　岡

神戸大	Q	大阪大
3	I	1
3	II	0
3	III	2
8	IV	0
17	計	3

1. 田 中　6. 郡 (1)　11. 黒 川
2. 川原田(3)　7. 日 比　12. 吉 岡
3. 原 田(5)　8. 後 呂(1)　13. 有 利
4. 三 好(5)　9. 浜 田
5. 中 川(2)　10. 島 崎

神戸大	Q	京 都
2	I	6
0	II	5
3	III	3
0	IV	4
5	計	18

1. 田 中　6. 郡　11. 黒 川
2. 川原田(1)　7. 日 比　12. 吉 岡
3. 原 田　8. 後 呂(1)　13. 有 利
4. 三 好(1)　9. 浜 田
5. 中 川(2)　10. 島 崎

1位	京都大	5勝	4位	立命館大	2勝3敗
2位	神戸大	4勝1敗	5位	大阪市立大	1勝4敗
3位	大阪大	3勝2敗	6位	京都教育大	5敗

兵庫インカレ

競泳シーズンの到来を告げる兵庫インカレは，6月30日に西代プールにて行われた。駅を降りて，今迄のようにてくてく歩いていくと，そこには美しく生まれ変わった体育館がそびえたっていたのである。期待に胸を躍らせて，プールに足を運んだが，プールだけが昔のままの姿で，我々を迎えてくれた。京阪神につづくこの試合。どれほどの大学が来るのだろうと，我々1回生は高校時代を想像し，熾烈な場所とり合戦におののいていた。しかし，この時初めて，大学の水泳人口は少ないのだなと感じた。我々にとって，この日の試合は記録更新の試合とは違い，感動的な印象は薄い。しかし，調整が全くなされていなかったわりには，シーズンのすべり出しとしてのまずまずの大会であったように思う。ただ，女子の病気欠席者が多かった事は残念であった。

（川上 記）

☆兵庫インカレ　　　　6月30日　於　神戸市民プール（50m）

〔男子〕

・100m自由形

川原田　59－1　2位
浜　田　1－02－3
木　下　1－09－0

・200m自由形

川原田　2－14－9　5位
浜　田　2－26－7
田　中　2－40－9

・400m自由形

近　藤　5－02－6　2位
安　井　5－43－0

・1500m自由形

近　藤　20－46－2　3位
坂　田　22－00－1

・100mバタフライ

郡　1－07－0　3位
甲　野　1－22－9

・200mバタフライ

郡　2－35－4　2位
甲　野　3－30－1

・100m背泳

徳　永　1－08－2　1位
・大会新
竹　本　1－18－3　5位
黒　川　1－20－6

・200m背泳

徳　永　2－34－5　1位
竹　本　2－51－6　4位
黒　川　2－57－0

・100m平泳

後　呂　1－12－9　2位
中　塚　1－21－7
有　利　1－25－6

・200m平泳

後　呂　2－46－1　2位
中　塚　2－59－3
有　利　3－04－1

・200m個人メドレー

原　田　2－36－7　2位
島　崎　2－43－1　6位
三　好　2－47－4

・400m個人メドレー

原　田　5－46－5　3位
三　好　5－49－0　4位

・400mメドレーリレー

徳永，後呂，郡，川原田
4－28－6　2位

・800mリレー

近藤，川原田，後呂，郡
9－15－3　3位

総合

1位	関西学院大	137点
2位	神戸大	76点
3位	甲南大	51点
4位	神戸商船大	19点
5位	神戸商科大	16点
6位	神戸市外大	4点

〔女子〕

・200m自由型

加　地　2－56－2　5位
林　3－01－2

・400m自由型

林　6－32－3　4位

・100m背泳

村　上　1－19－0　3位

・200m背泳

加　地　3－20－2　5位

・200m平泳

川　上　3－10－2　2位

・200m個人メドレー

村　上　3－04－7　5位

・400m個人メドレー

川　上　6－12－6　4位

・400mメドレーリレー

加地・村上・川上・林

6－06－8　3位

・400mリレー

林・加地・村上・川上

5－01－6　2位

総合

1位	武庫川女大	170点
2位	兵庫教育大	36点
3位	神戸大	30点
4位	関西学院大	25点
5位	神戸市外大	14点
6位	神戸商船大	7点

順当負け　関西国公立戦

7月13日，14日，大阪府立大において関西国公立戦が行われた。戦う前からかなり不利との予想はたてられていたが，3連勝中の我校はやすやすとその王座を明け渡してなるものか，と捨て身の覚悟で戦いに臨んだ。

結果，敗戦。完敗である。それも，決勝に残れる者が残って取れる順位を取ったというだけの順当負けであった。我校の選手による番狂わせもなく，大ベストを出した者もほとんどいない。戦っている間からあきらめムードがただようという，非常に恥ずべき敗戦となった。そのような中で100自で川原田先輩が堂々の4連勝をなしとげたのが光る。関国史上，あまり例のないことであり，その功績を讃えるとともに目標としていきたい。

女子に関しては，村上・川上・山口ら1回生及び2回生加地らが若い力を充分に発揮し，堂々の団体2位であった。しかし，1位，大教大にははるか遠く，次はさらに上を目指してがんばってほしい。こうして，男女とも8月の全国国公立戦へと駒を進めた。　　　　（三好　記）

☆関西国公立戦　　　7月13・14日　於　大阪府立大プール（50m）

・100m自由型

川原田　1－02－2

57－7　1位

・大会新

島　崎　1－01－6

1－00－6（7位）

浜　田　1－01－0

1－01－1（8位）

・200m自由型

川原田　2－15－6

2－09－4　2位

浜　田　2－20－0

2－23－9（9位）

島　崎　2－23－2

・400m自由型

近　藤　5－01－4

5－16－0（9位）

中　川　5－07－5

坂　田　5－28－9

・1500m自由型

近　藤　19－51－3　5位

中　川　20－35－6

安　井　22－15－0

・100mバタフライ

郡　　1－05－9

1－05－0　2位

甲　野　1－23－0

吉　岡　1－26－4

・200mバタフライ

郡　　2－29－5

2－27－1　1位

甲　野　（失格）

植　松　（失格）

・100m背泳

徳　永　1－15－9

1－07－9　2位

黒　川　1－19－2

竹　本　1－19－5

・200m背泳

徳　永　2－35－6

2－32－4　2位

竹　本　2－47－9

2－50－9（9位）

黒　川　2－54－0

・100m平泳

後　呂　1－14－8

1－13－4　2位

中　塚　1－20－6

日　比　1－21－7

・200m平泳

後　呂　2－48－3

2－42－0　2位

有　利　2－58－8

中　塚　2－59－1

・

・200m個人メドレー

原　田　2－39－1

2－35－1　4位

三　好　2－44－6

田　中　3－07－1

・400m個人メドレー

三　好　5－58－3

5－49－6　6位

原　田 {5－50－6 / 5－58－6（7位）}

木　下　6－44－7

・400mリレー

川原田・島崎・郡・後呂

3－59－8　1位

・800mリレー

郡・近藤・後呂・川原田

9－01－8　3位

・400mメドレーリレー

徳永・後呂・郡・川原田

4－24－4

1位・大会新

総合

1位	京都大	86点
2位	神戸大	68点
3位	大阪大	64点
4位	大阪府立大	34点
5位	神戸商船大	18点
6位	大阪市立大	16点

〔女子〕

・100m自由型

川　上　1－09－4

1－08－4　1位

木　村　1－17－5

1－17－4　4位

・200m自由型

山　口　2－42－6

2－40－5　4位

林　3－01－2

2－55－5　6位

木　村　3－07－1

・400m自由型

山　口　5－43－0

5－37－4　2位

林　6－24－7

6－17－8　4位

・100m背泳

村　上　1－24－3

1－20－3　1位

・大会新

加　地　1－31－3

1－28－0　5位

・200m背泳

村　上　2－57－3

2－55－0　1位

加　地　3－18－8

3－07－7　4位

・100m平泳

三　住　1－43－5

・200m個人メドレー

三　住　3－43－6　5位

・400m個人メドレー

川　上　6－06－4　2位

・200mリレー

加地・山口・村上・川上

2－10－6　2位

・400mリレー

村上・加地・山口・川上

4－51－8　2位

・大会新

・400mメドレーリレー

村上・三住・川上・山口

5－38－8　2位

総合

1位	大阪教育大	89点
2位	神戸大	63点
3位	大阪大	34点
4位	滋賀大	28点
5位	兵庫教育大	27点
6位	大阪府立大	18点

注）　記録上段は予選記録，下段は決勝記録

今年も優勝　三商大戦

競泳は，今年は六甲台プールだったので大いに記録が狙える試合であったが，強化練習のさなかということで全体的に低調な記録に終った。ただ８００Ｍで中川がカップをとり戻したのが印象に残った。

水球は，対市大は互いによく知った相手で相変らずでありました。一橋に対しては４回生の主力を欠くメンバーでやって来たのでここぞとばかり"スキあり"とつけこむチャンスがあった。

試合は乱戦気味で，4Qなどはまさに点の取り合いとなった。残り8秒で一橋の山崎がシュートを決め勝ち越しの1点を挙げた。試合はこれで決まった。試合を見守る人はみなそう思った時だった。残り4秒，Halfから放ったシュートが決まり，同点，そして延長と試合はもつれた。しかしここでもまた2点差をつけられ，負けてしまった。東京の2部リーグの中堅どころだろうから，さすがに関東は強い。当りは厳しく，小技も持っている。そして何よりも違うのは得点パターンというものを持ち確実に勝つという粘り強さだろうと思う。

その後，コンパは相変らずの激しさを見せ，何でもプールにはまっていた。ゴールもつぶれた。阿鼻叫喚の地獄絵が展開されそして静かになった。私はこの騒ぎを経験するたびに人生の真理を見るような気がするのである。

最後に，大会に御協力，御声援いただいた淩泳会の方々，また，暑いプールサイドから応援をおくり，プールサイドコンパを盛り上げていただいた応援団の方々に，誌面を借りて厚く御礼申し上げます。

（原田　記）

☆ 旧三商大戦　　7月21日　於　神戸大六甲台プール（25*m*）

〔競泳〕

・100m自由型

浜　田　1－00－8　2位
島　崎　1－01－9　6位

・400m自由型

近　藤　4－57－6　1位
中　川　4－59－8　2位

・800m自由型

中　川　10－19－2　1位
坂　田　11－21－8　3位

・200mバタフライ

郡　2－28－0　1位
吉　岡　3－01－7　3位

・200m背泳

徳　永　2－29－8　2位
竹　本　2－48－4　4位

・200m平泳

後　呂　2－40－0　1位
有　利　2－54－0　3位

・200m個人メドレー

原　田　2－37－6　1位
三　好　2－45－2　3位

・400mメドレーリレー

徳永・後呂・郡・島崎
4－30－1　1位

・800mリレー

浜田・郡・後呂・近藤
9－07－6
1位

総合

1位	神戸大	77点
2位	大阪市立大	56点
3位	一橋大	44点

三商大戦記念バッジ

〔水球〕

神戸大	Q	大阪市立大
2	I	1
1	II	0
2	III	1
2	IV	1
7	計	3

1. 有　利
2. 郡　(1)
3. 後　呂　(2)
4. 近　藤
5. 甲　野　(1)
6. 中　塚　(1)
7. 坂　田　(1)
8. 黒　川
9. 島　崎
10. 守　沖
11. 三　好　(1)
12. 原　田
13. 田　中

神戸大	Q	一橋大
3	I	0
1	II	5
4	III	3
4	IV	4
1	延	2
2	長	3
15	計	17

1 田　中
2. 川原田　(2)
3. 原　田　(5)
4. 三　好　(3)
5. 中　川　(3)
6. 日　比　(1)
7. 郡　(1)
8. 後　呂
9. 浜　田
10. 中　塚
11. 吉　岡
12. 島　崎
13. 有　利

1位	一橋大	2勝
2位	神戸大	1勝1敗
3位	大阪市立大	2敗

無念の2部降格一関西インカレ

昨年度まで，ほとんどリレー種目に頼り何とか一部残留を続けていたが，今年度は背泳の徳永の個人入賞の健闘も空しく，リレー種目で他校のレベルアップについていけず，とうとう2部降格を喫することとなってしまった。しかも，昨年度は全ての大会で激しく追い上げられながらも何とかおさえてきた阪大に蹴落とされる形となったので反省すべき点は多いと思われる。

来年度は堂々たる成績を以て一部に返り咲くべく，全力を尽したい。

一方，女子は，昨年度の一部昇格の原動力となった33回生の抜けたあとを十分に補う新戦力や，4回生木村さんの大健闘等により，一部残留を成し遂げることができた。少人数ながらのこの快挙は特筆すべきものであろう。来年度は，もっと選手層を厚くし，再度一部に残留すべく，

さらにはより上位に入賞すべく，健闘を期したい。　　　　　　　　　（島崎　記）

☆関西インカレ　　　　　　7月30・31・8月1日　大阪プール（50m）

〔男子〕

・100m自由形

川原田　57－8

　　57－8（9位）

浜　田　1－00－2

島　崎　1－01－8

・200m自由形

川原田　2－11－2

木　下　2－31－9

田　中　2－41－4

・400m自由形

近　藤　4－54－5

中　川　4－57－5

坂　田　5－19－6

・1500m自由形

近　藤　19－25－4（9位）

中　川　20－11－0

・100mバタフライ

郡　1－05－6

甲　野　1－19－7

吉　岡　1－25－8

・200mバタフライ

郡　2－26－0

吉　岡　3－10－2

甲　野　3－25－6

・100m背泳

徳　永　1－08－6

　　1－08－8　6位

竹　本　1－17－4

黒　田　1－30－7

・200m背泳

徳　永　2－34－4

　　2－40－3（9位）

竹　本　2－51－2

黒　川　2－54－3

・100m平泳

後　呂　1－12－3

　　1－12－0（7位）

日　比　1－21－0

植　松　1－23－4

・200m平泳

後　呂　2－41－2

　　2－41－4（9位）

中　塚　2－56－6

有　利　2－56－6

・200m個人メドレー

原　田　2－35－1

三　好　2－43－3

守　沖　3－10－6

・400m個人メドレー

原　田　5－41－8

三　好　5－46－6

・400mリレー

川原田・浜田・原田・後呂

　　3－56－4

・400mメドレーリレー

徳永・後呂・郡・川原田

　　4－22－9　6位

・800mリレー

郡・浜田・後呂・川原田

　　9－01－1（7位）

総合（男子1部）

1位	同志社大	160点
2位	近畿大	69点
3位	天理大	45点
4位	大阪体育大	28点
5位	関西大	11点
6位	大阪大	10点
7位	関西学院大	5点
8位	神戸大	2点

〔女子〕

・100m自由型

木 村　1－14－1

1－14－4（9位）

・200m自由型

山 口　2－39－6

木 村　2－59－7

・400m自由型

山 口　5－36－4

林　6－15－1

・100m背泳

村 上　1－21－1

1－19－7（7位）

・200m背泳

村 上　2－53－3

2－54－1　6位

・100m平泳

三 住　1－42－0

・200m平泳

三 住　3－50－0

・200m個人メドレー

川 上　2－51－4

2－52－4（9位）

林　3－24－8

・400m個人メドレー

川 上　6－19－4

6－03－4（9位）

・200mリレー

木村・山口・村上・川上

2－08－3　5位

・400mリレー

村上・山口・木村・川上

4－49－2　5位

・400mメドレーリレー

村上・三住・川上・山口

5－41－1　4位

総合（女子1部）

1位	天理大	158点
2位	武庫川女大	69点
3位	大阪体育大	54点
4位	近畿大	23点
5位	大阪教育大	14点
6位	神戸大	8点

近　国　体

その1　― 真夜中の怪電話 ―

大会前夜，弁天町のＮＡＲＵＴＯさん宅にて。試合を前にパワーがとめどなくあふれるＭＩＹＯＳＨＩさん，ＹＡＲＩＴＯＳＨＩさんと共に私が床につこうとしたとき，事件は起こった。

リーン（電話のベル）　ガチャ　「はぁ～い，吉岡です。」

「ヘッヘッヘッ，ケンちゃんですよ～だっ」　ガチャッ！

この怪電話のために，我々は明日からの近国体で何かがおこるのではないかと，不安のどん底にたたきこまれたのだった。

その２　　―― ペテン師ＴＯＫＵＮＡＧＡ ――

大会１日目，事件は男子１００ｍ背泳でおこった。２回生ＴＯＫＵＮＡＧＡ氏の口車に乗せられ，京大の某氏をはじめとする数名が，予選落ちをしてしまったのだった。（それでも決勝に残れない私はなさけない……）

その３　　―― やったぜＨＡＭＡＤＡ ――

大会２日目，１００ｍ自由型決勝，８００ｍリレーでは我々を恐怖のどん底（予選落ちしそうであった）にたたきこんでくれたＨＡＭＡＤＡさんが，ゴールした瞬間，神大テントから大歓声がわきおこった。ついに１分の壁を破ったのだ。すっげーっ。

その４　　―― おまけ ――

この大会には，はるばる佐賀医大から全国国公立戦出場のために神大で練習をしていた樋口真哉君が出場していたこともつけ加えておこう。４００ｍ予選の時，事情を知らぬ他校の人達を，驚かせたのだった。　　　　（竹本　記）

☆近畿地区国立大学体育大会　　８月８・９日　於　奈良県営プール（５０ｍ）

〔男子〕

・１００ｍ自由型
- 川原田　57−63　1位　・大会新
- 浜　田　59−78　6位
- 木　下　1−04−62

・２００ｍ自由型
- 浜　田　2−14−41　5位
- 川原田　2−21−09
- 田　中　2−40−67

・４００ｍ自由型
- 中　川　4−54−06　5位
- 近　藤　5−00−05（7位）
- 坂　田　5−23−93

・８００ｍ自由型
- 近　藤　10−11−72　3位
- 中　川　10−25−09　5位
- 安　井　11−10−71

・１００ｍバタフライ
- 郡　1−05−26　5位
- 甲　野　1−22−39
- 吉　岡　1−24−87

・２００ｍバタフライ
- 郡　2−24−69　2位　・大会新
- 吉　岡　3−13−35
- 甲　野　3−19−53

・１００ｍ背泳
- 徳　永　1−08−98　1位
- 島　崎　1−16−83（7位）
- 竹　本　1−18−65

・２００ｍ背泳
- 徳　永　2−29−76　1位　・大会新
- 竹　本　2−46−16（7位）

・１００ｍ平泳
- 後　呂　1−12−79　1位
- 中　塚　1−19−22（7位）
- 有　利　1−21−43

・200m平泳

後　呂　2−41−09　1位

中　塚　2−51−62　6位

日　比　3−01−56

・200m個人メドレー

原　田　2−33−78　2位

三　好　2−42−69

島　崎　2−43−84

・400m個人メドレー

原　田　5−40−11　4位

三　好　5−40−71　5位

・200mリレー

川原田・徳永・原田・後呂

1−46−47　3位

・大会新

・400mメドレーリレー

徳永・後呂・郡・浜田

4−25−04　1位

・大会新

・800mリレー

郡・近藤・浜田・後呂

9−12−30　3位

総合

1位	京都大	113点
2位	神戸大	79点
3位	大阪大	51点
4位	神戸商船大	24点
5位	大阪教育大	16点
6位	京都教育大	14点

〔女子〕

・100m自由型

川　上　1−08−20　2位

・大会新

木　村　1−14−78　4位

・200m自由型

山　口　2−37−4　2位

木　村　2−54−0　4位

林　　　2−54−3　5位

・400m自由型

山　口　5−36−19　3位

林　　　6−09−47　4位

・100m背泳

村　上　1−19−66　1位

・大会新

・200m背泳

村　上　2−53−78　2位

・100m平泳

三　住　1−44−81

・200m平泳

三　住　3−42−83

・200m個人メドレー

川　上　2−56−19　1位

・200mリレー

川上・村上・木村・山口

2−09−50　2位

・大会新

・400mリレー

山口・木村・川上・村上

4−48−14　2位

・大会新

・400mメドレーリレー

村上・山口・川上・木村

5−36−21　3位

総合

1位	大阪教育大	99点
2位	神戸大	58点
3位	兵庫教育大	48点
4位	大阪大	20点
5位	滋賀大	19点
6位	京都教育大	17点

全国国公立戦

個人種目では，自由形で圧倒的に強い京大には少し離されるが，平でかせぐ阪大とはほぼ互角であるのに，自由形の層の薄い神大は，フリー　リレー種目，特に8継で決定的な差を見せつけられてしまった。

ただ単に順位が落ちたのではなく，追い抜かれたのが京大，阪大であるので特に無念である。2校のレベルアップには目ざましいものがあるが，我々も同じ可能性を持っているはずである。それを最大限に引き出し，2位奪還を目指したい。

女子は3種目において入賞し，総合6位にあと1点とせまる健闘を見せた。来年度は何とか層を厚くし，入賞を狙いたいものである。　（島崎　記）

☆全国国公立戦　8月14・15日　於　名古屋市瑞穂プール（50m）

〔男子〕

・100m自由型

川原田　58−09

57−39　2位

浜田　59−84

島崎　1−01−74

・200m自由型

川原田　2−09−14

2−09−39（8位）

浜田　2−17−01

近藤　2−20−39

・400m自由型

中川　4−55−39

近藤　4−56−90

田中　5−53−49

・1500m自由型

中川　20−07−01

坂田　21−36−74

安井　21−53−54

・100mバタフライ

郡　1−05−38

甲野　1−21−16

吉岡　1−26−29

・200mバタフライ

郡　2−25−56

2−26−86　6位

吉岡　3−14−96

甲野　3−17−34

・100m背泳

徳永　1−08−16

1−08−25（7位）

竹本　1−16−33

黒川　1−20−09

・200m背泳

徳永　2−29−70

2−29−47（8位）

竹本　2−50−02

黒川　2−55−18

・100m平泳

後呂　1−14−09

1−12−17　2位

中塚　1−19−88

有利　1−21−40

・200m平泳

後呂　2−39−85

2−37−98　4位

有利　2−56−18

日比　3−00−49

・200ｍ個人メドレー

原　田　2−32−79

三　好　2−45−79

木　下　2−52−89

・400ｍ個人メドレー

原　田　5−42−07

三　好　5−57−29

守　沖　6−57−52

・400ｍリレー

川原田・浜田・島崎・後呂

3−57−12　5位

・400ｍメドレーリレー

徳永・後呂・郡・川原田

4−21−66　2位

・800ｍリレー

浜田・郡・原田・川原田

9−01−97（7位）

総合

1位	筑波大	117点
2位	京都大	34点
3位	大阪大	25点
4位	神戸大	21点
5位	静岡大	21点
6位	東北大	11点

〔女子〕

・100ｍ自由型

川　上　1−08−55

1−08−79（8位）

木　村　1−14−72

・200ｍ自由型

山　口　2−38−59

林　2−53−01

木　村　2−58−05

・400ｍ自由型

山　口　5−28−71

5−30−33（9位）

林　6−04−68

・100ｍ背泳

村　上　1−20−15

1−19−17　5位

・200ｍ背泳

村　上　2−49−31

2−50−03　6位

・100ｍ平泳

三　住　1−40−14

・200ｍ平泳

三　住　3−44−54

・400ｍ個人メドレー

川　上　5−57−46

5−55−11　3位

・200ｍリレー

川上・村上・山口・木村

2−09−32（8位）

・400ｍリレー

川上・木村・山口・村上

4−45−17（7位）

・400ｍメドレーリレー

村上・山口・川上・木村

5−39−23（9位）

総合

1位	筑波大	139点
2位	東京学芸大	32点
3位	大阪教育大	25点
4位	愛知教育大	23点
5位	新潟大	14点
6位	横浜国立大	14点
7位	広島大	8点
8位	神戸大	7点

京阪神Ｊｒ

去る８月２０日，京大プールにおいて行なわれた京阪神Ｊｒ戦は勝負は二の次三の次，三大学の親善を目的としたもので，ゲーム的内容の濃いものであった。レースも各自の専門以外のものに出場，あちこちで笑いや歓声が起こっていた。

試合の後に行われたギャグレースは，王将レースと名づけられ，５０Ｍプールの向こう岸で，王将のギョーザ３人前を食べ，帰ってきて飯を２人前食べて終了というものであった。それに出場した坂田氏と竹本は，２人とも１位で帰ってきたが，2人ともギョーザをプール中に吐き出しひんしゅくを買っていた。

その後に行われたコンパもまた盛り上がり，プールには自転車，テントが沈んでいた。

（守沖　記）

☆京阪神三大学Ｊｒ戦　　８月２０日　於　京大プール（５０ｍ）

〔競泳〕

記録省略

総合

1位	京都大	１０９点
2位	大阪大	８８点
3位	神戸大	７６点

〔水球〕

神戸大	Q	大阪大
1	Ⅰ	2
1	Ⅱ	1
2	Ⅲ	1
2	Ⅳ	2
6	計	6

メンバー

1. 有利
2. 浜田 (2)
3. 中川
4. 徳永
5. 甲野
6. 近藤
7. 中塚 (1)
8. 坂田
9. 三好 (3)
10. 安井
11. 守沖
12. 竹本
13. 黒田

神戸大	Q	京都大
3	Ⅰ	5
5	Ⅱ	1
4	Ⅲ	0
3	Ⅳ	2
15	計	8

1. 田中
2. 原田 (8)
3. 三好 (2)
4. 郡
5. 後呂 (2)
6. 日比 (1)
7. 中川 (1)
8. 徳永
9. 浜田 (1)
10. 中塚
11. 坂田
12. 近藤
13. 有利

「晴れのちビール」市大戦

この日の天気は，「晴れのちビール」というごくノーマルな天気であった。朝，集合したみんなの顔は，体のしんに疲労というものをつめこんでいるようにみえた。まあ，前日までボロ合宿だったのでしかたがない。そのせいか遅刻者もわりと多く結果的に２バタのエントリーが増えることになった。市大のキンさん曰く，「バッタをバツに使うとは……！」。

そして，試合が終ってしまうと，なぜかみんな生き生きとしてきたのでした。そしてとうとう恒例の儀式が始まっていったのでした。そしてそのうち雲ゆきが悪くなってきて，ついにはビールがどぼどぼふってきてしまいました。かくして長い１日が終わったのでした。みなさん，ごくろうさまでした。

（植松　記）

☆対大阪市立大定期戦　　8月24日　於　大阪市立大学プール（５０ｍ）

〔競泳〕

・100ｍ自由型

浜田	1－01－3	1位
木下	1－07－3	2位
田中	1－22－3	

・400ｍ自由型

近藤	5－11－3	1位
三好	5－16－4	2位
守沖	6－21－8	

・800ｍ自由型

中川	10－33－1	1位
安井	11－21－1	2位
坂田	11－30－8	3位

・200ｍバタフライ

郡	2－38－2	1位

・200ｍ背泳

徳永	2－58－8	2位
竹本	3－02－5	3位
黒田	3－28－2	

・200ｍ平泳

中塚	2－56－0	2位
有利	2－56－4	3位
植松	3－08－0	

・200ｍ個人メドレー

後呂	2－31－4	1位
原田	2－55－4	3位
日比	3－01－4	

・400ｍメドレーリレー

徳永・後呂・郡・近藤

4－47－9　1位

・800ｍリレー

近藤・中川・浜田・坂田

9－55－8

1位

総合

1位	神戸大	110点
2位	大阪市立大	68点

〔水球〕

神戸大	Q	大阪市立大
4	Ⅰ	1
1	Ⅱ	1
3	Ⅲ	2
4	Ⅳ	3
12	計	7

1. 田　中
2. 原　田
3. 三　好　(1)
4. 中　川
5. 日　比
6. 後　呂　(5)
7. 郡　　(5)
8. 徳　永
9. 中　塚
10. 近　藤
11. 坂　田　(1)
12. 浜　田
13. 有　利

全国インカレ

関ポロ2位ということでインカレの出場権を得た。相手は東京大学，むこうでは2部の2位で日大相手に引分けたほどの相手だそうです。実際の試合は，1点めあざやかに退水，そしてZone，そしてリレーシュートと教科書どうりに先攻したものの，相手にならず完敗した。2部であれだけなら1部校とはどんなレベルなのだろうか。しょせん神大などは関西の田舎物と言われてる気がした。“くそ！”という反骨心が芽生えた。“100年かかろうが200年かかろうが必ずや神戸大学もインカレの舞台で活躍する日がやって来るだろう”私はそう信じる。私がだめであっても後輩諸君はきっとあの神宮で覇者とならんことを。　（原田　記）

今年の日本学生選手権大会には，我が神大水泳部からも男子2名，女子2名の選手を送り出し，決勝には残れなかったが，4人全員が自己ベストを更新，“お祭り”と異名をとる全国インカレに当水泳部の発展を期待させるべく今迄にない展開をみせた事は大変頼もしいものであった。

しかし，結果を見れば充実している様に思えるのだが，（実際に試合を観に来た人には大変よく分って頂けたと思うが）この素晴らしい自己ベストを支える背景なるものは，無に等しいウオーミングアップと全く無である選手の休憩場所である。ここで責任の所在を追求するつもりはないのであるが，これらの事を前もって徹底するか否かはこの試合に対する姿勢の現れでもあり，こういったもののひとつひとつが試合の結果に結びついていくと思う。

なれば，まだまだ記録更新の余地はあり，問題解決には，飛躍する様ではあるが，団体出場しか道はないと筆者は断言する。

最後になったが，やはり自由観戦であった為，部員皆の声援がないのは心細いものであるというのが正直な感想である。　（村上　記）

☆日本学生選手権　　　　9月5日〜9日　於{川口西スポーツセンタープール / 明治神宮プール（50ｍ）

〔競泳〕

〔男子〕	川原田	100ｍ自由型	57−32		
	後　呂	100ｍ平泳	1−12−55		
〔女子〕	村　上	100ｍ背泳	1−18−70	200ｍ背泳	2−54−45
	川　上	200ｍ個人メドレー	2−48−50	400ｍ個人メドレー	5−58−33

〔水球〕

神戸大	Q	東京大
2	Ⅰ	3
1	Ⅱ	2
0	Ⅲ	7
0	Ⅳ	4
3	計	16

1. 田　中
2. 原　田 (2)
3. 三　好
4. 中　川
5. 日　比
6. 郡
7. 後　呂 (1)
8. 浜　田
9. 中　塚
10. 徳　永
11. 坂　田
12. 近　藤
13. 有　利

「関ポロジュニアは優勝ダ！」

やった，ついに優勝だ！

来年の関ポロで優勝をねらう我々神大は，当然，宿敵京大を倒して優勝を果たすべく戦った。1，2回生に試合経験を積ます為，京大戦を除いた四試合では，目まぐるしくメンバーを替え，全員が，参加した。チグハグなプレーや珍プレーをしながらも，一生懸命戦った。互いに全勝でぶつかった最終戦の対京大戦は優勝決定戦でもあった。京大は，試合前に主力の足立が負傷し，出場できなかった。試合は，1Qから，原田氏や三好氏の活躍で，常にリードをし，だんだんと点差を開けていき4Qには，メンバーを落とす余裕まで出来た。優勝はしたが，原田水球主任には，満足出来る，試合内容ではなかったと思う。特に2回生は，"2回生の水球"というものがなく，試合中も3回生がいないと，バラバラになり，形が成しえていなかった。関ポロ優勝の為には一層の強化が必要だと思う。

最後に，毎日練習を見ていただき，優勝へ導くように指導していただいた太田氏に，誌面を借りて感謝の意を表したい。　　　　（郡　記）

☆関西学生水球リーグJr戦　9月14・15・16日　於　大阪市立大学プール

神戸大	Q	大阪市立大
6	Ⅰ	2
7	Ⅱ	3
3	Ⅲ	4
4	Ⅳ	1
20	計	10

1. 有利
2. 三好 (5)
3. 日比 (1)
4. 中川 (4)
5. 郡 (2)
6. 原田 (3)
7. 吉岡 (1)
8. 坂田 (1)
9. 徳永 (1)
10. 中塚 (1)
11. 木下 (1)
12. 近藤
13. 黒田

神戸大	Q	京都教育大
10	Ⅰ	2
6	Ⅱ	1
5	Ⅲ	0
9	Ⅳ	1
30	計	4

1. 有利
2. 三好 (5)
3. 日比 (3)
4. 中川 (2)
5. 郡 (4)
6. 中塚 (1)
7. 吉岡 (1)
8. 坂田 (5)
9. 島崎
10. 甲野 (3)
11. 木下 (2)
12. 近藤 (2)
13. 守沖 (2)

神戸大	Q	大阪大
2	Ⅰ	0
5	Ⅱ	1
4	Ⅲ	1
4	Ⅳ	0
15	計	2

1. 田中
2. 三好 (7)
3. 浜田 (1)
4. 日比 (1)
5. 中川 (1)
6. 原田 (4)
7. 郡 (1)
8. 中塚
9. 坂田
10. 木下
11. 吉岡
12. 守沖
13. 有利

神戸大	Q	立命館大
5	Ⅰ	1
5	Ⅱ	1
8	Ⅲ	0
8	Ⅳ	0
26	計	2

1. 有利
2. 三好 (1)
3. 島崎 (2)
4. 吉岡 (2)
5. 郡 (3)
6. 徳永 (4)
7. 中塚 (3)
8. 木下 (3)
9. 坂田 (4)
10. 近藤 (1)
11. 甲野 (1)
12. 守沖 (1)
13. 黒田 (1)

神戸大	Q	京都大
3	Ⅰ	1
6	Ⅱ	3
3	Ⅲ	1
4	Ⅳ	4
16	計	9

1. 田中
2. 三好 (4)
3. 日比 (1)
4. 浜田
5. 中川 (1)
6. 原田 (7)
7. 郡 (2)
8. 吉岡
9. 中塚
10. 徳永
11. 木下
12. 坂田 (1)
13. 有利

1位	神戸大	5勝0敗	4位	大阪市立大	2勝3敗
2位	京都大	4勝1敗	5位	立命館大	1勝4敗
3位	大阪大	3勝2敗	6位	京都教育大	0勝5敗

現役自己ベスト一覧表

	自由型					バタ
	100m	200m	400m	800m	1500m	100m
男子の部						
原田　久富美	1−00−0	2−16−2	5−16−8	11−19−8		1−12−1
日比　勝己	1−09−2		6−10−0			1−24−3
三好　岳	1−07−9	2−26−7	5−16−4			1−18−7
島崎　昌彦	1−00−6	2−19−1				
吉岡　成人	1−08−0			11−51−6		1−24−8
中川　善雄	1−03−0	2−18−5	4−54−0	10−19−2	20−07−0	
田中　真司	1−08−5	2−40−7	5−53−4			1−28−4
浜田　昌己	59−7	2−14−4	5−12−4	12−16−4		
安井　啓史	1−11−7		5−29−5	11−10−7	21−53−5	
甲野　賢	1−05−9					1−16−5
近藤　直明	1−01−9	2−17−1	4−54−5	10−11−7	19−25−4	
中塚　泰弘	1−05−9	2−27−2				
徳永　守	1−01−8	2−29−4				
有利　英明						
後呂　忠詳	59−1	2−13−4				
坂田　亨	1−04−7	2−28−6	5−19−6	11−21−8	21−36−7	1−23−7
郡　幸雄	1−00−2	2−14−5	5−00−4			1−05−0
森田　武士						
木下　憲臣	1−04−6	2−31−9				
植松　忠士						
黒田　茂	1−13−4	2−52−7				1−36−5
竹本　和広			5−42−9			1−24−6
守沖　敦	1−14−0		6−21−9			
女子の部						
林　磨智子	1−20−2	2−53−0	6−04−6	12−41−5		1−43−4
三住　千里	1−28−5	3−36−9				
加地　恵	1−16−9	2−56−2				
川上　景子	1−08−2		5−15−2	10−48−5		1−20−9
村上　美和	1−10−7					

――― は長水路記録

フライ	背泳		平泳		個人メドレー	
200m	100m	200m	100m	200m	200m	400m
	1-16-8		1-20-8		2-32-7	5-40-1
3-26-3	1-41-7		1-20-6	2-56-8	2-49-9	6-29-0
3-14-2	1-20-2	2-53-1	1-22-9	2-54-1	2-41-4	5-40-7
	1-16-6	3-03-4			2-43-1	
3-13-3						
4-04-3	1-30-9	3-25-3	1-26-0	3-20-4	3-08-4	6-29-2
	1-45-2				3-07-5	
	1-26-1	3-10-0	1-28-4	3-06-9	2-49-4	
					3-12-6	
3-17-7		4-28-5				
	1-35-8		1-40-7			6-21-4
4-01-3			1-19-2	2-51-6	2-52-9	6-39-8
	1-07-9	2-29-7			2-38-9	
			1-21-3	2-54-0		6-48-9
	1-14-6		1-11-4	2-37-9	2-31-0	
3-39-6			1-39-5			
2-24-6				3-12-6		
					3-35-9	8-14-8
			1-33-2		2-52-8	6-44-7
			1-23-4	3-02-0		
	1-30-7	3-27-9			3-14-9	
3-21-2	1-16-3	2-46-0	1-38-7			6-26-0
3-47-6			1-29-7		3-10-4	6-55-9
	1-40-8	3-32-6	1-45-8		3-24-7	7-36-0
	1-52-7		1-34-8	3-28-8	3-33-3	
	1-28-0	3-07-7	1-48-4			
3-00-7		3-18-0		3-10-2	2-48-5	5-55-1
	1-18-7	2-49-3		3-43-0	3-04-7	

歴代 10 傑表（男子の部）

○100m自由型

1	川原田　貢	57-1(S)	S.57
		57-3(L)	59
2	金　一波	58-6(S)	56
		58-9(L)	57
3	浜川　広海	58-8	26
	杉山　和広	58-8(S)	53
5	吉田不二彦	58-9(S)	59
		59-8(L)	59
6	後呂　忠詳	59-1(S)	59
7	浜田　昌己	59-7(L)	60
8	原田久富美	1-00-0(S)	60
9	久保田勝己	1-00-2(S)	56
	郡　幸雄	1-00-2(S)	60

○200m自由型

1	川原田　貢	2-07-5(L)	S.59
2	久保田勝己	2-08-5(S)	58
3	浜川　広海	2-09-0	26
4	後呂　忠詳	2-13-4(S)	60
5	金　一波	2-13-8(S)	57
		2-16-5(L)	56
6	杉山　和広	2-14-0(S)	52
7	浜田　昌己	2-14-4(L)	60
8	郡　幸雄	2-14-5(S)	60
9	浦野　敏明	2-15-6(S)	59
10	原田久富美	2-16-2(S)	60

○400m自由型

1	久保田勝己	4-37-4(L)	S・58
2	川原田　貢	4-46-9(S)	57
3	浦野　敏明	4-53-1(S)	59
		5-00-9(L)	58
4	中川　善雄	4-54-0(L)	60
5	上田　剛弘	4-54-3(S)	55
		5-02-8(L)	55
6	近藤　直明	4-54-5(L)	60
7	山本　隆	4-55-1(L)	53
8	杉山　和広	4-55-2(S)	52
9	金　一波	4-57-0(S)	56
10	郡　幸雄	5-00-4(L)	60

○800m自由型

1	久保田勝己	99-47-4(S)	S.56
		9-49-0(L)	57
2	近藤　直明	10-11-7(L)	60
3	中川　善雄	10-19-2(S)	60
		10-25-0(L)	60
4	山本　隆	10-22-1(S)	53
5	上田　剛弘	10-26-4(S)	51
6	浦野　敏明	10-33-2(L)	57
7	丸末　一之	10-36-3	51
8	松野　圭倍	10-38-0(L)	57
9	酒井　康司	10-40-5(S)	55
10	杉山　和弘	10-46-1(S)	52

○1500m自由型

1	久保田勝己	18-37-5(L)	S.58
2	近藤　直明	19-25-4(L)	60
3	中川　善雄	20-07-0(L)	60
4	浦野　敏明	20-08-3(L)	57
5	松野　圭倍	20-31-4(L)	57
6	上田　剛弘	20-40-0(L)	55
7	酒井　康司	20-55-0(L)	55
8	坂田　亨	21-36-7(L)	60
9	安井　啓史	21-53-5(L)	60
10	玉置　明	22-04-0(L)	43

○100mバタフライ

1	吉岡　宏之	1−04−0(L)	S.58
	坂田　純孝	1−04−0(L)	59
3	佐敷　定雄	1−04−8(L)	48
4	郡　　幸雄	1−05−0(L)	60
5	富岡　洋三	1−07−0(S)	56
6	山本　　隆	1−07−4(S)	54
		1−08−4(L)	53
7	浦野　敏明	1−08−5(S)	58
8	大橋　　進	1−09−1(S)	44
9	久保田勝己	1−09−3(L)	55
10	杉山　和弘	1−09−6(S)	52

○200mバタフライ

1	郡　　幸雄	2−24−6(L)	S.60
2	坂田　純孝	2−26−6(L)	59
3	佐敷　定雄	2−29−6	48
4	吉岡　宏之	2−34−0(S)	57
		2−35−9(L)	58
5	山本　　隆	2−35−2(S)	53
		2−36−9(L)	53
6	浦野　敏明	2−35−6(L)	56
	久保田勝己	2−35−6(S)	55
8	阿部　洋三	2−40−1(L)	41
9	富岡　洋三	2−46−2(S)	56
10	谷水　利行	2−47−0(S)	55

○100m背泳

1	杉山　和弘	1−07−7(S)	S.53
		1−08−4(L)	53
2	徳永　　守	1−07−9(L)	60
3	吉田不二彦	1−08−6(L)	59
4	坂田　純孝	1−08−7(S)	58
5	川原田　貢	1−09−6(S)	59
6	太田　雅彦	1−10−9(S)	56
7	田渕　五郎	1−11−8(S)	27
8	酒井　正人	1−12−5(S)	51
		1−13−6(L)	52
9	木村多加緒	1−12−7(S)	43
		1−13−9(L)	43
10	井上　隆史	1−14−0	36

○200m背泳

1	徳永　　守	2−29−7(L)	S.60
2	坂田　純孝	2−30−4(S)	56
3	吉田不二彦	2−31−2(S)	58
4	杉山　和弘	2−34−1(S)	54
		2−34−2(L)	53
5	木村多加緒	2−34−8(S)	43
		2−37−0(L)	43
6	酒井　正人	2−35−2(S)	52
7	太田　雅彦	2−40−7(L)	56
8	玉木喜代明	2−43−6(S)	43
9	竹本　和広	2−46−0(L)	60
10	慈幸　弘樹	2−46−5(L)	53

○100m平泳

1	後呂　忠詳	1−11−4(S)	S.59
		1−12−0(L)	60
2	長崎　真人	1−13−6(S)	57
		1−14−0(L)	58
3	鈴木　俊彦	1−14−3(S)	42
		1−14−7(L)	42
4	慈幸　弘樹	1−15−3(S)	53
		1−16−8(L)	53
5	浦野　敏明	1−15−6(S)	58
6	池辺　正雄	1−16−5(L)	56
7	山野　和則	1−17−1(S)	55
		1−17−2(L)	57
8	富岡　洋三	1−17−4(S)	55
		1−18−5(L)	53
9	平石　　康	1−17−4(S)	51
		1−19−1(L)	52
10	南谷　昌宏	1−18−1(S)	58

○200m平泳

1	後呂　忠詳	2−37−9(L)	S.60
2	長崎　真人	2−40−5(L)	58
3	平石　　康	2−45−3(S)	52
4	鈴木　俊彦	2−45−5	43
5	慈幸　弘樹	2−49−2(S)	53
		2−52−5(L)	53
6	山野　和則	2−50−0(S)	57
		2−50−1(L)	57
7	浦野　敏明	2−51−2(S)	58
8	中塚　泰弘	2−51−6(L)	60
9	富岡　洋三	2−51−9(L)	53
10	南谷　昌宏	2−52−7(L)	57

○200m個人メドレー

1	浦野　敏明	2−29−5(L)	S.59
2	後呂　忠詳	2−31−0(L)	60
3	原田久富美	2−32−7(L)	60
4	慈幸　弘樹	2−33−0(S)	52
		2−35−6(L)	53
5	坂田　純孝	2−34−0(L)	58
6	富岡　洋三	2−34−2(S)	56
		2−35−2(L)	55
7	吉岡　宏之	2−34−9(S)	57
		2−36−7(L)	55
8	川原田　貢	2−35−1(S)	58
9	久保田勝己	2−36−0(S)	57
10	徳永　　守	2−38−9(S)	59

○400個人メドレー

1	浦野　敏明	5−20−3(L)	S.59
2	山本　　隆	5−25−9(S)	53
		5−43−6(L)	53
3	久保田勝己	5−38−4(S)	55
4	原田久富美	5−40−1(S)	60
5	坂田　純孝	5−40−7(L)	57
	三好　　岳	5−40−7(L)	60
7	吉岡　宏之	5−43−1(L)	57
8	慈幸　弘樹	5−44−2(S)	51
9	富岡　洋三	5−45−2(L)	55
10	芝　　暢彦	5−52−8(L)	54

○400mメドレーリレー

1	徳永・後呂・郡・川原田	4－21－6	S.60
2	吉田・後呂・坂田・川原田	4－22－8	59
	徳永・後呂・郡・浜田	4－25－0	60
	徳永・後呂・坂田・川原田	4－25－6	59
3	坂田・長崎・吉岡・川原田	4－26－3	57
	坂田・長崎・吉岡・金	4－29－5	57
4	吉田・浦野・坂田・川原田	4－31－3	58
	吉田・長崎・吉岡・川原田	4－32－2	57
5	坂田・池辺・吉岡・金	4－34－8	56
	徳永・後呂・坂田・島崎	4－34－8	59

○400mリレー

1	川原田・浜田・原田・後呂	3－56－4	S.60
2	川原田・吉田・浜田・後呂	3－57－0	59
	川原田・浜田・島崎・後呂	3－57－1	60
	吉田・原田・後呂・川原田	3－58－2	59
3	吉田・久保田・金・川原田	3－58－5	57
	原田・島崎・浜田・川原田	3－59－1	60
	吉田・原田・浜田・川原田	3－59－5	59
	川原田・島崎・郡・後呂	3－59－8	60
4	吉田・坂田・久保田・川原田	4－01－2	58
	吉田・坂田・後呂・川原田	4－01－7	59
	川原田・島崎・浜田・郡	4－04－1	60
5	田中・金・杉山・山本	4－06－2	54

○800mリレー

1	浦野・坂田・後呂・川原田	8－56－5	S.59
2	浦野・金・久保田・川原田	8－57－2	57
3	川原田・浦野・坂田・久保田	8－59－8	58
4	郡・浜田・後呂・川原田	8－59－8	60
	郡・近藤・後呂・川原田	9－01－8	60
	浜田・郡・原田・川原田	9－01－9	60
	原田・浦野・坂田・川原田	9－07－6	59
	原田・近藤・後呂・川原田	9－11－4	59
	郡・近藤・浜田・後呂	9－12－3	60
	呉竹・浦野・久保田・川原田	9－13－1	57
5	坂田・浦野・金・久保田	9－16－6	56

（女子の部）

o100 m自由型

1	川上　景子	1−08−2(L)	S.60
2	村上　美和	1−10−7(L)	60
3	坂東　美枝	1−11−7(S)	56
4	木村　典子	1−12−9(L)	59
5	土井　紀子	1−13−6(L)	54

o100 m背泳

1	村上　美和	1−18−7(L)	S.60
2	坂東　美枝	1−21−7(S)	58
3	石本日和子	1−25−5(S)	55
4	竹畠　信子	1−27−9	
5	加地　　恵	1−28−0(L)	60

o200 m自由型

1	坂東　美枝	2−37−3(S)	S.56
2	山口　敦与	2−37−4(L)	60
3	土井　紀子	2−41−5(S)	
4	木村　典子	2−44−2(L)	59
5	桑本　万里	2−49−9	

o200 m背泳

1	村上　美和	2−49−3(L)	S.60
2	坂東　美枝	2−58−6(S)	56
3	加地　　恵	3−07−7(L)	60
4	石本日和子	3−10−6(S)	
5	桑本　万里	3−11−3	

o400 m自由型

1	川上　景子	5−15−2(L)	S.60
2	坂東　美枝	5−18−5(S)	56
3	山口　敦与	5−28−7(L)	60
4	土井　紀子	5−45−0(S)	
5	桑本　万里	5−54−3	

o100 m平泳

1	松井　玲子	1−30−3	
2	川島えみこ	1−32−0(S)	S.56
3	国本　温代	1−33−1(S)	
4	坂東　美枝	1−33−8(S)	56
5	石本日和子	1−34−1(S)	56

o100 mバタフライ

1	坂東　美枝	1−14−3(S)	S.57
2	川上　景子	1−20−9(L)	60
3	大野　智恵	1−25−6(S)	52
4	石本日和子	1−26−6(S)	55
5	嶋田　陽子	1−32−8(S)	

o200 m平泳

1	川上　景子	3−10−2(L)	S.60
2	川島えみこ	3−16−6(S)	58
3	坂東　美枝	3−17−6(S)	
4	松井　玲子	3−20−3	52
5	桑本　万里	3−23−8	

o200 mバタフライ

1	坂東　美枝	2−44−7(L)	S.57
2	川上　景子	3−00−7(L)	60
3	大野　智恵	3−26−9	
4	嶋田　陽子	3−32−4(L)	55
5	石本日和子	3−45−9(L)	

o200 個人メドレー

1	川上　景子	2−48−5(L)	S.60
2	坂東　美枝	2−54−5(L)	56
3	村上　美和	3−04−7(L)	60
4	石本日和子	3−07−5(S)	56
5	桑本　万里	3−09−7(S)	52

○400 m個人メドレー

1	川上　景子	5−55−1(L)	S.60
2	坂東　美枝	6−04−0(S)	56
3	石本日和子	6−52−5(L)	
4	嶋田　陽子	7−00−9(L)	55
5	木村　典子	7−04−1(L)	57

○200 mメドレーリレー

1	長谷川・栗野・高木・大野	2−21−8	S.50
2	桑本・酒井・大野・土井	2−35−4	53
	長谷川・松井・大野・高木	2−35−5	50
3	石本・国本・坂東・小井戸	2−36−4(L)	56
4	越智・川島・坂東・木村	2−38−5(L)	57

○200 mリレー

1	木村・山口・村上・川上	2−08−3	S.60
	加地・山口・村上・川上	2−10−6	60
	川上・村上・林・山口	2−13−4	60
2	土井・小井戸・石本・坂東	2−14−3	56
3	長谷川・桑本・高木・大野	2−16−3	51
4	桑本・嶋田・大野・土井	2−18−0	53
5	坂東・林・川島・木村	2−19−0	58

○400 mメドレーリレー

1	村上・山口・川上・木村	5−31−1	S.60
2	加地・三住・坂東・木村	5−35−6	59
	村上・三住・川上・山口	5−38−8	60
3	石本・川島・坂東・木村	5−40−0	57
4	石本・国本・坂東・土井	5−41−0	56
	石本・川島・坂東・小井戸	5−42−2	56
5	林・川島・坂東・木村	5−45−5	58

○400 mリレー

1	川上・村上・山口・木村	4−45−1	S.60
	村上・加地・山口・川上	4−51−8	60
	林・加地・村上・川上	5−01−6	60
2	坂東・林・加地・木村	5−06−7	59
3	木村・石本・川島・坂東	5−07−8	57
4	坂東・林・川島・木村	5−09−4	58
5	小井戸・石本・桑本・土井	5−10−9	54

注）

- （Ｌ）は長水路記録，（Ｓ）は短水路記録を表します。長水と短水のハンデイ（１００*m*につき１〜２秒と言われる）を考慮し，短水の方が記録が良くても，長水の記録も捨て難い場合は，参考記録として併記してあります。

- 今年度より，リレー種目については，各シーズンの最高記録のみを男女５位までランキングしてあります。これは，リレーは４人のタイムの合計ではなくチームの総合力であるという考え方によるもので，例えば男子４００*m*リレーを見ますと，最高記録は６０年度のチームによる３－５６－４となっていますが，これは以下に掲げてある６０年度の他の記録，３－５７－1，３－５９－1，３－５９－８等とは全く重みの違うものです。そして，５７年度の３－５８－５という記録は，数字だけを見て５位と評価するよりも，６０年度のチーム，５９年度のチームに次いで３位と評価する方が妥当でありましょう。

  なお，リレーについては，長水のみを載せてあります。

- 女子の方につきましては，

松井　玲子（Ｐ２５）（旧姓　山田）	長谷川美智子（Ｐ２５）（旧姓　浜西）
大野　智恵（Ｐ２７）（旧姓　有本）	桑本　万里（Ｐ２８）（旧姓　清水）
土井　紀子（Ｐ３０）（旧姓　寺尾）	酒井　　恵（Ａ３０）（旧姓　森田）
嶋田　陽子（Ｐ３０）（旧姓　辻）	

となっております。

- タイムについては正確を期したつもりですが，何かお気付きの事がありましたら，お知らせ下さい。

（主務　近藤）

凌泳会会則

第1章　総　　則

第1条（名　　称）本会は淩泳会と称する。

第2条（事務局）本会は事務所を神戸市灘区六甲台町神戸大学に置くこととし，宛名は同大学学生課気付「淩泳会」とする。

第3条（目　　的）本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に，神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第4条（事　　業）本会は前条の目的を達成する為に下記の事業を行なう。

1. 会誌「淩泳」の発行
2. 会員相互の連絡
3. 定例総会及び各種の親睦会合
4. 神戸大学水泳部発展の為の指導及び援助
5. その他，本会の目的を達成するに必要なる事項

第5条（会則の改廃）本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なう。

第2章　会　　員

第6条（会　　員）本会の会員を分けて正会員，特別会員，準会員及び在学会員とする。

第7条（正会員）正会員とは，次のものを云う。

国立神戸高等商業学校　国立神戸商業大学　神戸経済大学　同附属経営学専門部　神戸大学　以上の諸学校に於て在学中水泳部に所属したもの。

第8条（特別会員）特別会員とは次のものを云う。

1. 前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者及び現在ある者。
2. その他，総会の決議によって推薦した者。

第9条（準会員）準会員とは前2条に該当する者以外の者で神戸大学水泳部と行動を共にし，その活動に協力した者の内，本人が入会を希望し且つ在学会員より推薦のあった者を云う。

第10条（在学会員）在学会員とは次のものを云う。

現在，神戸大学々生で水泳部に所属する者。

第11条（会　　費）正会員は会費として年額6,000円を当会へ納入する。但し卒業後44年を経過した者は会費を免除する。準会員は会費として正会員の半額を当会へ

納入する。

第３章　役　員

第１２条（役　員）本会に次の役員を置く。

会長	１名
副会長	２名
監事	若干名
幹事長	１名
本部幹事	若干名
支部幹事	若干名

第１３条（改　選）役員の改選は総会の決議によって行なう。

第１４条（任　期）役員の任期は1年とし再選を妨げない。

第１５条（会　長）会長は本会を代表し且つ統轄する。

第１６条（副会長）副会長は会長を補佐し，会長事故ある時はこれを代行する。

第１７条（監　事）監事は本会の会務及び会計を監査する。

第１８条（幹事長及び本部幹事）幹事長及び本部幹事は会長，副会長を補佐し総括的会務の執行に当る。

第１９条（支部幹事）支部幹事は各支部の事務を執行すると共に，本部の諸活動に協力する。

第４章　総　会

第２０条（招　集）総会は少くとも２週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以って会長がこれを招集する。

第２１条（時　期）総会は毎年5月に開催するものとし，臨時総会は必要に応じて招集する。

第２２条（議　長）総会の議長は会長がこれにあたる。

第２３条（議　決）総会の決議は出席正会員の過半数をもって決する。但し，当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席とみなす。

第５章　会　計

第２４条（経　理）本会の経理は，会費・寄付金及びその他の収入によって賄う。

第２５条　（決　　算）　本会の収支決算については，会計の監査を経た上，春季総会に於て報告しその承認を受ける。

第２６条　（期　　間）　本会の会計年度は，毎年４月１日より翌年３月３１日までとする。

第６章　湊泳の送付

第２７条　本会員で会費を３年間滞納した者には「湊泳」の送付を停止する。但し特別の事情が有る者（海外駐在員等）は除くものとする。

第７章　雑　　則

第２８条　本会則は昭和５８年５月２９日より発効する。

附記（退会者の取扱について）

昭和５７年度総会において下記のとおり決定した。

文書その他の方法で退会の意志を表明した者は退会を認める事とし，その事実を明確にする為，名簿の最後に退会者欄をもうける。

凌泳会役員名簿

会長	小山賢之助(学1)	
副会長	吉野　栄(学9)	山口宗樹(学10)
監事	伊藤英二(学7)	三宅　林(学16)
幹事長	(空　席)　岡田重義	
幹事	~~岡田重義(B10)~~	酒井正人(A26)
	久保田勝己(E32)	
会計担当幹事	~~酒井　潤~~(E31)　山本隆(E29).	
凌泳編集幹事	石井義章(学22)	
支部幹事		
(関東)	支部長　山口宗樹(学10)	
	山田貴彦(E10)	
	宮部高博(L15)	阿部洋三(T15)
(中部)	支部長　井上隆史(B.10)	
(中国)	支部長　大内義仁(学8)	
(四国)	支部長　中村市治(学9)	
(九州)	支部長　印藤勝美(学13)	
(関西)	支部長　吉野　栄(学9)	
	京都　柳本正雄(B10)	
	阪神　橋本　力(T3)	富岡道雄(B4)
	姫路　山口仁郎(B5)	

物故会員

氏名	卒業年次（回）	氏名	卒業年次（回）
藤井 正太郎	特	太田 清	昭 7高26
多田 徳雄	特	土肥 駒次郎	7 26
山田 幸男	特	鍵本 芳次	8学 2
北村 五良	大 6高11	熊野 利夫	8 2
小笠原 房穂	10 15	小西 熊雄	9 3
白山 源三郎	10 15	片山 四郎	11 5
中村 精一	10 15	野村 弘	11 5
天野 俊一	10 15	栄口 昌二	12 6
加納 茂	11 16	村上 秀造	13 7
野田 曽一	11 16	高橋 徹	13 7
岡本 幸一	12 17	冨岡 喜一郎	13 7
榊原 零一	12 17	和泉 真弘	14 8
山村 馨	12 17	松木 勇	14 8
山下 虎蔵	13 18	福永 拓造	14 8
鈴木 不覇雄	14 19	新原 拓夫	15 9
繁益 繁治郎	14 19	尾原 芳行	16 8
古林 喜楽	14 19	部坂 克夫	16 10
中村 信三	14 19	恩地 正伍	16 10
三輪 嘉一郎	15 20	鈴木 啓介	16 10
高田 寿三	15 20	井上 正平	11
大谷 親之輔（旧姓 井関）	昭2 21	柏木 慶三	16 11
大島 勝利	2 21	稲垣 懋	16 11
中村 毅	2 21	山口 八郎	17 12
浅野 猛雄	3 22	池田 勲治	18 13
田川 亮一	3 22	前田 礼之	19 14
阪本 畳一	3 22	伊藤 一郎	21 16
作田 耕三	3 22	斉藤 嘉一郎	21 16
白井 儀三	3 22	衣川 昭	24専 1
東光 武三	4 23	鈴木 富夫	25学20
尾上 長三郎	4 23	中島 功	28E 1
川西 武雄	7 26	今井 彰	30J 3

昭和60年度物故者

白山源三郎（S 60. 9. 20） 野村 弘（S 60. 8. 4）
天野 俊一（S 59. 9 ） 冨岡喜一郎（S 60. 6. 3）
中村 信三（S 59. 11. ） 福永 拓造（S 61. 3. 11）

商　　　　神

1. 商神彩なす翅をあげて
霊杖遙に東を指せば
靈しき果実は雲間を漏りて
秋津島根に落つとぞ見えし
所はここぞ菊水かおる
湊河原の近きほとりに
かく伝わりし天のさとしも
人はさとらで幾年か経ぬ

2. 神の息吹のこもりて成りし
霊果いかで地に朽つべき
豊栄のぼる朝日のかげに
八州の外の潮風吹きて
いつしか催す気運に乗じ
わが学校ぞ世に生まれたる
眠る商界夢さますべき
使命は天の授けし所

3. 此処摩耶の山六甲の峰
連り亘る山ぶところに
数の若鷹はぐくまれ居て
静かにうかぶ雲の行きかい
朝妙なる琴のひびきは
敏馬の浜に松を吹く風
夕やさしき舞の姿は
茅渟の浦曲に白帆行く影

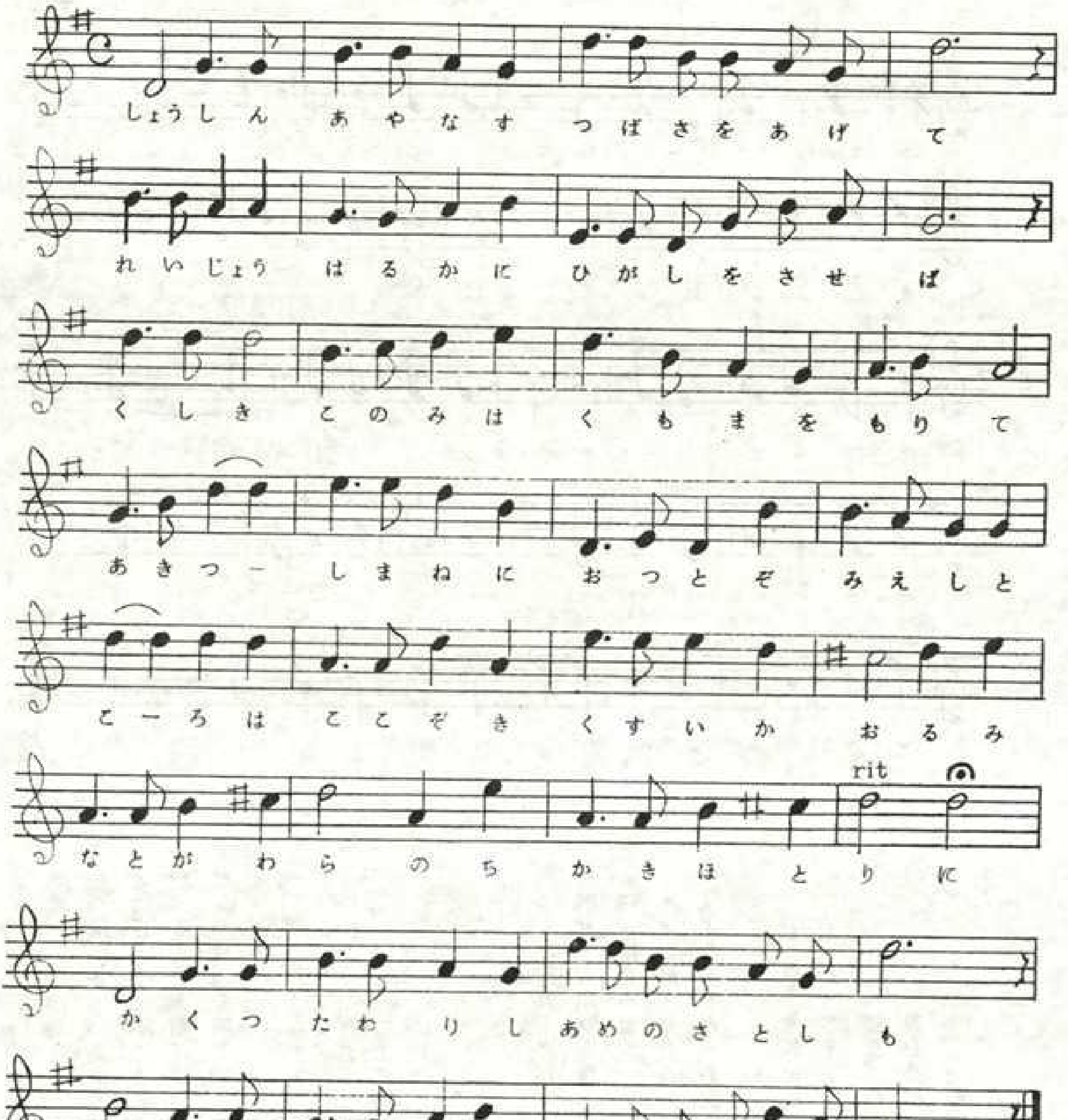
4. 希望に満てる春の潮の
寄せてはかえす清き渚や
熱誠もゆる夏の盛りを
いたわる風の葺合の里
須磨や明石をかけて照るらん
月には物のあわれをぞ知る
冬は凛たる後に嵐
奔馬空行く勢示す

5. 天れ山水の秀麗の気は
偉人傑士を起たしむとかや
天の使命を胸に収めて
清き自然に抱かれながら
筋骨鍛え智徳を研く
切磋琢磨の三年の春秋
養い得たるうつ勃の意気
抱負を語れや千余のおのこ

6. 金欧無欠の三千余年
かがやく光は剣の誉
心はおなじ大和男子の
我等は牙幢を執って起ちなん
日出ずる旗を高くかざして
日入らぬ国と手を携えて
目ざす平和の戦の場に
匂う御国の花ぞ咲かせむ

7. 雄飛の時ぞとねぐら離れて
野に立出ずる蒼鷹幾羽
爪も研ぎぬ力も足りぬ
尋にも余るつばさを張れば
枝の百鳥皆おそれ伏す
扶揺万里の風を起して
おのが向々東に西に
雲に突き入る勢見るや

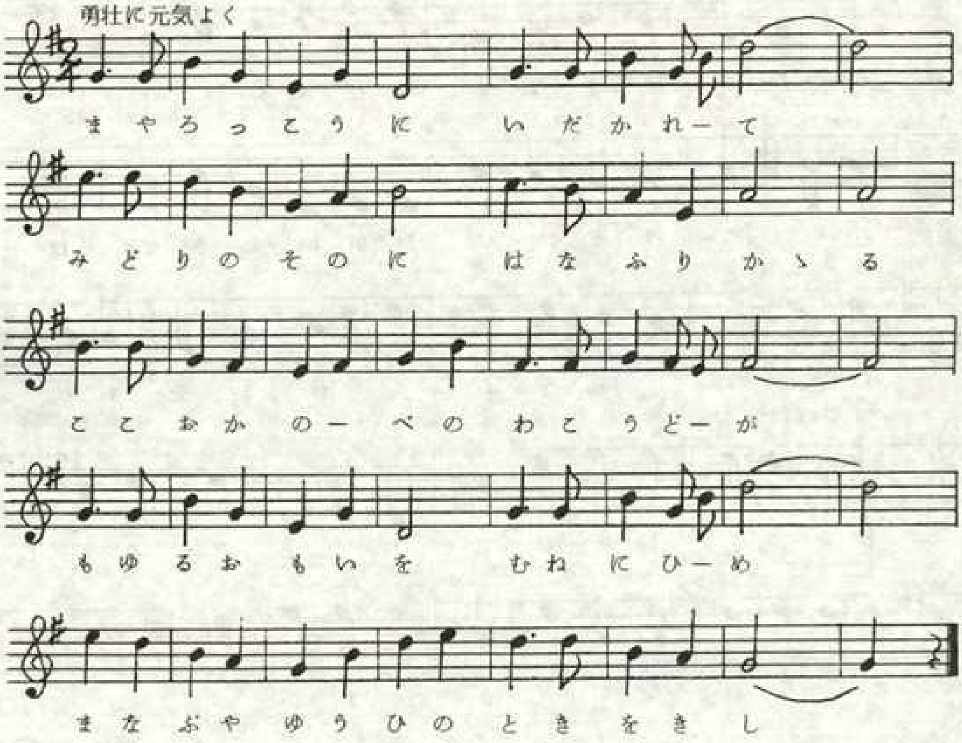
商　　神


しょうしん あやなす つばさをあげて
れいじょう はるかに ひがしをさせば
くしき このみは くもまをもりて
あきつー しまねに おつとぞ みえしと
こーろは ここぞき くすいか おるみ
なとが わらのち かきは とりに
rit
かくつ たわりし あめのさとしも
ひとは さとらで いくとせかへぬ

宇宙を股に

神戸大学応援歌

作詩　古林　喜楽
作曲　竹内　平吉



一
摩耶六甲に抱かれて
緑の園に花ふりかかる
ここ丘の上の若人が
燃ゆる思いを胸に秘め
学ぶや雄飛の時を期し

二
ヒマラヤ杉を背に受けて
茅渟（ちぬ）の浦ゆ紀伊の山
右手（めて）に四国よ淡路島
左手（ゆんで）にうかぶ金剛山
大らかにぞ抱負わく

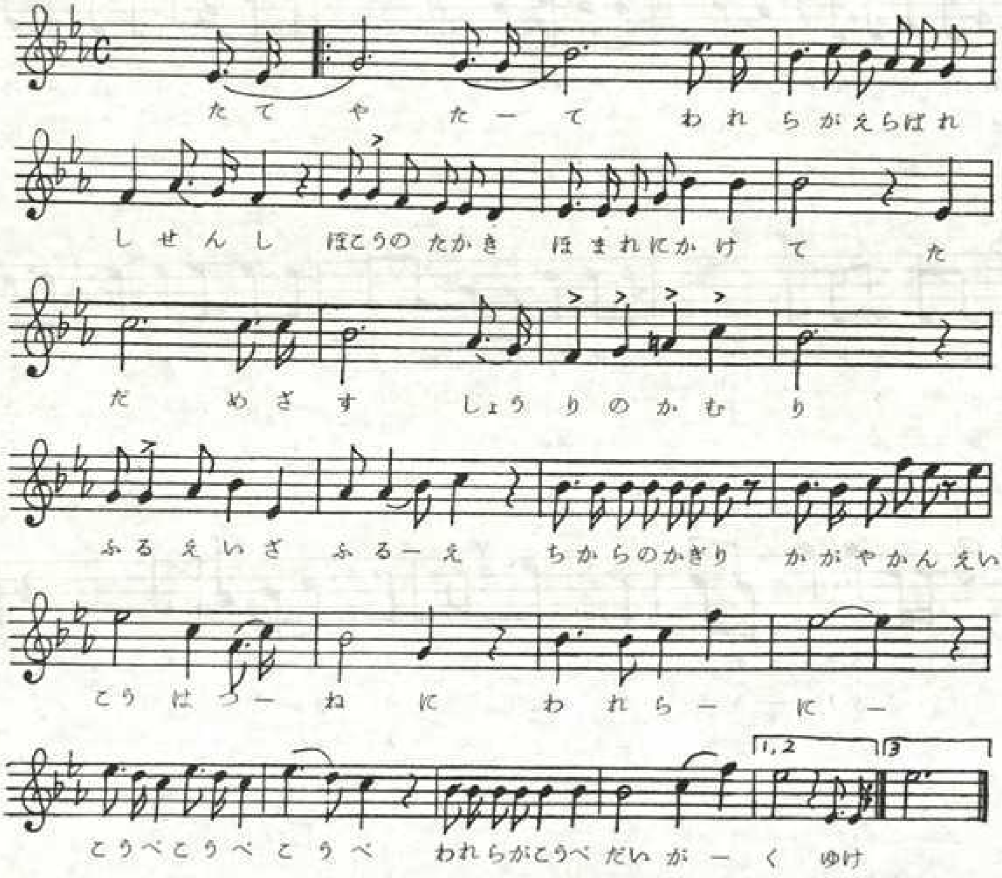
三
燃ゆる紅葉たそがれて
宵闇せまる山路を踏めば
真理に挑む若鷹が
ネオンの海を見おろして
いよよ決意をかたむ哉

四
身に泌みわたる峯おろし
冬来りなば春近し
巣立つ晴れの日時せまる
翼ひろげて悠然と
宇宙を股に羽ばたかん

栄光は常にわれらに

神戸大学応援歌

作詞　敷島富四雄
作曲　黒田　浩一
編曲　土橋　康宏



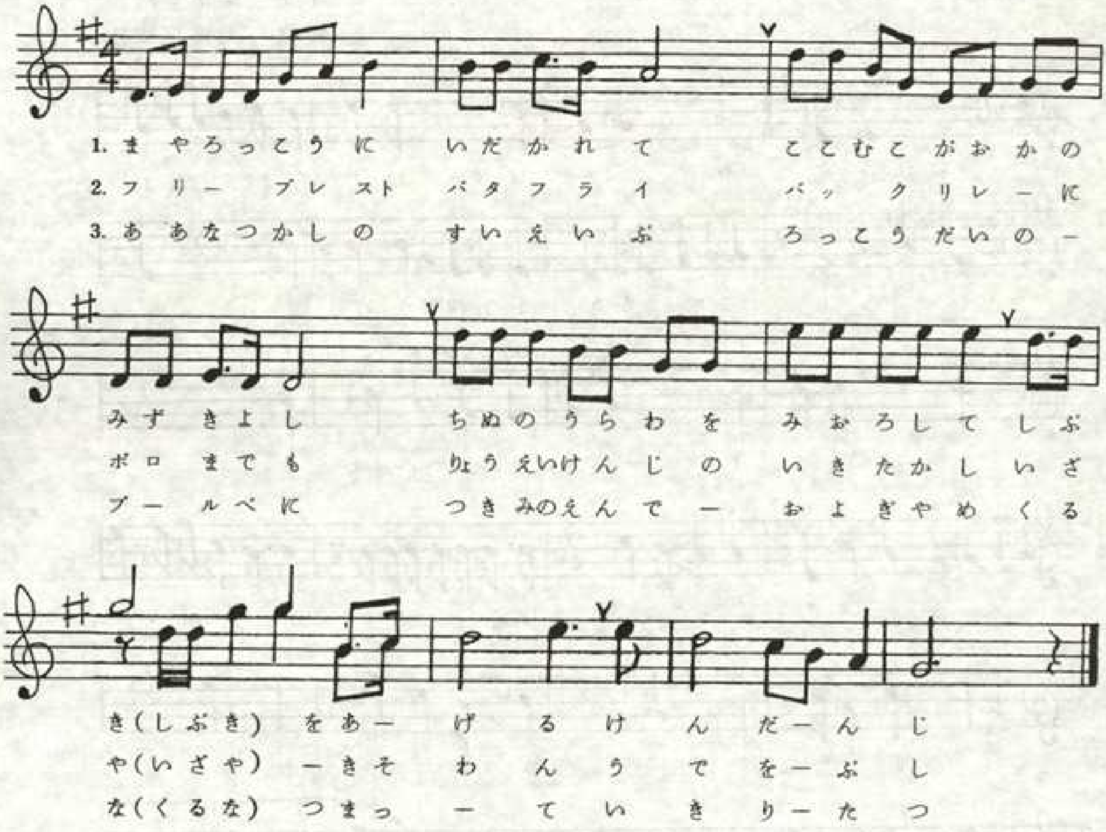
一、起てや起て
われらが選ばれし戦士
母校の高き誉にかけて
ただ目指す勝利の栄冠(かむり)
振るえいざ振るえ力の限り
輝かん栄光は常にわれらに
神戸　神戸　神戸
われらが　神戸大学

二、征けや征け
われらが選ばれし戦士
若人の大き誇を秘めて
胸深く制覇の誓
振るえいざ振るえ雄々しく強く
輝かん栄光は常にわれらに
神戸　神戸　神戸
われらが　神戸大学

三、聞けや聞け
われらが選ばれし戦士
青春の若き血潮たぎらせ
相和するかちどきの歌
振るえいざ振るえ意気いや高く
輝かん栄光は常にわれらに
神戸　神戸　神戸
われらが　神戸大学

水　泳　部　歌

作詩　古林　喜楽
作曲　山田　貴彦



一、摩耶六甲に抱かれて
ここ六甲ヶ丘の水清し
茅渟の浦曲を見下して
しぶきをあげる健男子

二、フリー　ブレスト　バタフライ
バック　リレーにボロまでも
陵泳健児の意気高し
いざや競わん腕を撫し

三、ああ懐しの水泳部
六甲台のプール辺に
月見の宴で泳ぎ止め
来る夏待っていきり立つ

※〜※〜※〜※〜※〜※〜※〜※

編　集　後　記

※〜※〜※〜※〜※〜※〜※〜※

清々しい緑の若葉に包まれて，水温の上がらぬ水に身を震わせながらも，燃ゆる思いを胸に秘め，厳しい練習に日々励む新緑の候，今年も皆様のお手許に『凌泳』をお届けすることができました。今年はユニバシアード特集ということもあって，実に多数のＯＢ諸兄から御寄稿いただき，誠にありがとうございました。次号も多数の御寄稿をお願いします。

凌泳についてのアンケートの中に，「労力が大変」「凌泳発行のエネルギーを練習・競技に注いで欲しい」という指摘をされたＯＢの方がおられました。確かに『凌泳』のためにこれだけのエネルギーを注ぐことよりも，水泳にエネルギーを注ぐことの方が，水泳部の本来の目的にかなっているのかもしれません。しかし，『凌泳』の編集を通して，前年の試合や活動をふりかえり，記録を整理し，幹部の者は部に対する考えを問い直す。これらのことがうまく行われたならば，エネルギーを注いだだけの価値があったのではないかと思うのです。ＯＢ諸兄の御意見をお待ちしております。

最後になりましたが，本号につきお気付きの点がございましたら，主務の所までお知らせ下さい。

特に，名簿記載事項（住所・勤務先等）に変更のあった場合は，早目に水泳部（主務）宛御一報下さいますよう，お願いいたします。

発行責任者（主務）　近　藤　直　明

昭和六十一年六月一日　発行
発行所　神戸市灘区六甲台町二
凌　泳　会
神戸大学水泳部
原稿等郵送宛先
〒六五七　神戸市灘区六甲台町
神戸大学体育会水泳部
会費等振込口座
郵便振替口座番号
神戸　一の一一八四一
加入者名
神戸大学凌泳会
編集　神戸大学水泳部凌泳編集係
発行　近藤直明
印刷所　神戸市東灘区住吉町垣内三
小野印刷株式会社
電〇七八－八五一－〇六〇一